

構造特記仕様書

・適用は口内に■印又はレ印を記入

・特記なき事項は、（一社）公共建築協会〔公共建築工事標準仕様書〕、日本建築学会〔鉄筋コンクリート造配筋指針〕、日本建築学会〔壁構造配筋指針〕による

1. 建物概要

(1)

工事名称 (仮称) 公立認定こども園建設工事

工事場所 熊本県菊池郡大津町大字室1234 他9筆

(2) 構造種別

☐ 鉄筋コンクリート造

☐ 鉄骨造

☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造

☐ 補強コンクリートブロック造

☐ 壁式鉄筋コンクリート造

☒ その他（ 木造 ）

(3) 階 数・規 模

地上 1 階 地下 ー 階 塔屋 ー 階

建築面積 意匠図による 延べ面積 意匠図による

(4) 屋上付属物 特に無し

☐ 高置水槽 (k N)

☐ 広告塔 (k N)

☐ キュービクル (k N)

☐ 太陽光発電 (k N / m 2)

☐ 煙突 (k N)

(5) 工事種別

☒ 新 築

☐ 増 築

☐ 改 築

☐ 用途変更

(6) 増築予定

☐ 有

☒ 無

(7) 特殊荷重

☐ 耐火書庫積載床用

N / m 2

☐ 受水槽

k N

☐ エレベーター

KN

☐ リフト

N

☐ ホイスト

KN

☐ 消火水槽

N / m 2

(8) 基礎形式

☐ 独立基礎（既成杭）

☒ 布基礎

☐ ベタ基礎

(9) 構造計算ルート

・ X 方向

☒ ルート 1

☐ ルート 2 ー

☐ ルート 3

・ Y 方向

☒ ルート 1

☐ ルート 2 ー

☐ ルート 3

☐ 壁量計算

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

※呼び強度は設計基準強度＋構造体強度補正值（S）とする。

種 類	Fc (N/mm2)	Ft (N/mm2)	スランプ (c m)	W/C (%) 以下	単位 水量 (kg/m3) 以下	単位 セメント量 (kg/m3) 以上	空気量 (%)	混和剤	適用箇所
普 通	24	24	15	60	185	270	4.5	AE剤	基礎・土留め壁・スラブ
	ー	24	15	60	185	270	4.5	AE剤	
	18	18	15	65	185	270	4.5		土間
	ー	21	15	60	185	270	4.5		
	ー	21	15	65	185	270	4.5	AE剤	
	ー	18	ー	ー	ー	ー	ー		捨コンクリート

調合管理強度Fmが33N/mm2以上の場合は、監理者承認の上、スランプ21cm以下とすることができる。

構造体強度補正值（S） 普通ポルトランドセメント
打込みから材齢28日までの予想平均気温（℃）
・0℃～8℃未満 S＝6N/mm2 ・8℃～25℃ S＝3N/mm2
・25℃以上 S＝6N/mm2（暑中コンクリート）

(2) コンクリートブロック

・種 類

☐ A 種

☐ B 種

☐ C 種

・厚 さ

☐ 100

☐ 120

☐ 150

☐ 190

(3) 鉄筋

	材 料	径	使用箇所
異形鉄筋	■ S D 2 9 5	D 10 ～ D 16	躯体
	□ S D 3 4 5	D 19 ～ D 25	
	□ S D 3 9 0	D 29 ～ D	
	□		
高強度せん断補強筋	□	D ～ D	
溶接金網	□ φ6-150□		

(4) 鉄骨

材 種	使用箇所	備 考
□ S S 4 0 0	大梁・小梁・プレート他	一般構造用鋼板等
□ S N 4 0 0 B		突合溶接使用部
□ S N 4 0 0 C		
□ S N 4 9 0 B		
□ S N 4 9 0 C	通しダイアフラム	ダイアフラム部
□ S T K 4 0 0		
□ S T K R 4 0 0	柱	
□ B C P 3 2 5		
□ B C R 2 9 5 (同等品)		
□ S S C 4 0 0	胴縁	
□ T M C P 3 2 5	ダイアフラム	

(5) ボルト類（特記なき高力ボルト・アンカーボルトは、S10T・SS400規格品とする）

高力ボルト

☐ 普通高力ボルト F10T

☐ 特殊高力ボルト S10T

☐ 溶融亜鉛めっきボルト F8T

☐ すべり係数 F10T・S10T：0.45 F8T：0.40

普通ボルト

☐ 中ボルト 強度区分：4.6

アンカーボルト

☐ S S 4 0 0

☐ S N R 4 0 0 B

☐ S N R 4 9 0 B

☐ HAB材（大臣認定品）

※特記なき場合はダブルナットとする
(径・長さおよび本数は特記による)

スタッドボルト

☐ φ16 L＝80

☐ φ19 L＝80

使用箇所：2階床

デッキプレート

☐ 合成床

☐ 一般床

種類：QL99-50-12 (Z12)

使用箇所：2階床

3. 地業工事

(1) 地質調査資料

☒ 有

(■ 敷地内 □ 近 隣)

☒ ボーリング調査

☐ 平板荷重試験

☐ 水平地盤反力係数の測定

☒ スクリューウェイト貫入試験

☐ 無

(□ 調査予定有 □ 調査予定無)

(2) 直接基礎

・深 さ 設計G L ー 1.1m（基礎下端）

・支持層 粘性土

・長期許容地耐力度 60 k N / m 2

・地盤改良 ■ 有 (砕石置換工法) □ 無

(3) 杭基礎

杭工法： 認定番号：

杭 種	材 料	施工法
■ 既製杭 ※詳細はS-07参照	☐ P H C ☐ 節付 P H C ☐	☐ 打ち込み ☐ 中堀り ☐ 埋込み（セメントミルク工法） ☐ 埋込み（認定工法）
	☐ 鋼 杭	☐ 工法
	杭 長 杭材種	上 杭 (m) ☐ A ☐ B ☐ C 中 杭 (m) ☐ A ☐ B ☐ C 下 杭 (m) ☐ A ☐ B ☐ C
		上 杭 (m) ☐ 中 杭 (m) ☐ 下 杭 (m) ☐
		☐ オールケーシング ☐ 拡 底 ☐ アースドリル ☐ ミニアース ☐ B H ☐ 深 礎 ☐
	☐ 場所打杭	

・施工計画書承諾 (■ 有 □ 無)

・施工結果報告書 (■ 有 □ 無)

・施工後の杭芯チェック図を工事監理者に提出し、補強の要否・補強方法について指示に従うこと

杭径 (mm)

長期支持力 (kN)

本

備 考

4. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

a) コンクリートはJ I S 認定工場の製品とし、JIS A5308に適合したコンクリートとする。
また、施工・品質管理についてはJASS5による。

b) セメントはJ I S R 5 2 1 0の普通ポルトランドセメントを標準とする。

c) 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承諾を得ること。

d) 生コン業者の設備、資格、ミキサー車の運転時間の確認を行う。

e) 寒中、暑中コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法について、工事監理者の承諾を得ること。

f) 強度試験供試体は、コンクリート150m3毎及びその端数につき1回以上とする。
採取方法は、適切な間隔をあけた運搬車から3度に分けて試料を採取する。
供試体の本数は、調合管理用3本、28日推定用3本、その他必要に応じて供試体を作成する。
供試体採取と合わせて、スランプ・空気量・塩化物量検査を行う。（単位水量試験は不要とする。）

g) 供試体の養生は、調合管理用として標準養生、構造体のコンクリート強度28日推定用及び脱型時期用として現場水中養生とする。

(2) 鉄 筋

a) 鉄筋はJ I S G 3 1 1 2の規格品または大臣認定品とする。

b) D19未満は、全て重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は下記による。
日本圧接協会〔鉄筋のガス圧接工事標準仕様書〕

c) ガス圧接完了後の試験

☐ 外観検査（100）%

☐ 引張試験（ ）本/1検査ロット

☐ 超音波探傷試験（ 30 ）箇所/1検査ロット

1検査ロット：1組の作業班が1日に施工した継手箇所ごと（圧接箇所が200箇所を超える場合は200ごと及びその端数）

(3) 型 枠

a) 材料 合版厚 12mmを標準とする。

b) せき板の最小存置期間

コンクリートの材齢(日)

セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種 フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種 シリカセメントB種 フライアッシュセメントB種
平均温度			
20℃以上	2	4	5
10℃以上 20℃未満	3	6	8

c) 支保工の存置期間
原則：スラブ下・梁下の支保工は、設計基準強度の100%以上の圧縮強度を得られたことが確認できるまで、取り外してはならない。

注）1. 片持ち梁、底、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。

注）2. 大梁の支柱の盛り替えは行わない。また、その他の梁の場合も、盛り替えは原則として行わない。

注）3. 支柱の盛り替えは、必ず直上階のコンクリート打設後とする。

注）4. 盛り替え後の支柱頭部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。

注）5. 支柱の盛り替えは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛り替えをしてはならない。

注）6. 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛り替えを行わないこと。

注）7. 支柱の盛り替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす恐れのある振動又は衝撃を与えない様に行う事。

5. 鉄骨工事

(1) 工事監理者の承諾を必要とするもの

☒ 製作工場

☒ 製作要領書

☒ 工作図

☒ 施工計画書

☒ 認定または登録工場（大臣認定 ・ □ H ・ □ M ・ ■ R ・ □ J グレード）

☒ 材料規格証明書または試験成績書

☒ 鋼材

☒ 高力ボルト

☒ 特殊ボルト

☐ 頭付スタッド

☒ 社内検査表

☐

☐

☐

(2) 工事監理者が行なう検査項目

(口印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

☐ 現寸検査

☐ 組立・開先検査

☐ 製品検査

☐ 建方検査

☐

☐

(3) 溶接部の検査（完全溶込み溶接部の超音波探傷試験）

工場溶接の場合

社 内

■ 全数検査（超音波・外観検査共）

第三者機関

■ 超音波検査 30%

■ 外観検査 30%

現場溶接の場合

社 内

■ 全数検査

第三者機関

■ 全数検査

☐

(4) スタッド溶接検査

☒ 外観検査 100%

☒ 仕上がり高さ・傾き検査（1検査ロットにつき1本）

☒ 打撃曲げ検査（1検査ロットにつき1本）

1検査ロット：100本または主要部材1本または1台に溶接した本数のいずれか少ない方

(5) 防錆塗料

a) 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合部の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、4つ星2回塗とする。 ■ JIS K5674 1種 ■ JIS K5674 2種

b) 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行ない、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗とする。

(5) 溶融亜鉛メッキ

☒ 形鋼・鋼材類：HDZ55

☒ ボルト・ナット類：HDZ55

メッキ部材の摩擦接合面処理方法：□プラスト処理 ■リン酸処理

6. 設備関係

(1) 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承諾を得ること。

(2) 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承諾を得ること。

(3) 床スラブ内に設備配管を埋め込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし、管の間隔を5cm以上とする。

令第129条の2の3及び4の事項 ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☒ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

☐ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の耐力上主要な部分に緊結すること。

☐ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

☐ 煙突の屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☒ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

☒ 風圧、土圧及び水圧並びに地震及びその他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。

☒ 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☒ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☒ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☐ 法第20条第1項から第3項までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、H12年告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

☒ 満水時の質量が15kgを超える給湯設備の取付についてはH12告示第1388号第5項による。

7. その他

☒ 各試験及び検査は、事前に工事監理者に連絡すること。

☒ 各試験の供試体は、公的機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。

☒ 令第39条の規定（履歴ふき材等）に関する取付けに当たっては構造耐力上安全なものとする。

Project (仮称) 公立認定こども園建設工事

株式会社 ライト設計

一級建築士事務所 知事登録第 1625 号
一級建築士 大田金雄第 239/05 号
管理建築士 佐藤健太郎

00

Drawing

構造特記仕様書

Scale non

Date: 出力: \$J\$ 更新: 2026/09/24

No.

S-01

構造設計 株式会社ライト設計
一級建築士 大田金雄第386372号
田根 矩己

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

6-1
定着及び
継手

6-2
壁配筋

§ 6 . 壁

(1) 柱への定着

L2かつ柱中心線を超える

L2かつ柱中心線を超える

8d以上かつ150以上

(a) (b) (c)

原則、
通し配筋

(d) (e)

[注] ① a区間の部分は通し配筋でもよい。
② (b), (c)で耐震壁や土圧・水圧を受ける壁でない場合、コア内定着としなくともよい。

(2) 梁への定着

8d以上かつ150以上

通し配筋

(a) (b) (c) (d)

[注] ① a区間の部分は通し配筋でもよい。
② (b), (c)で耐震壁や土圧・水圧を受ける壁でない場合、コア内定着としなくともよい。

(3) 置きスラブでの基礎梁への定着

耐力壁

置きスラブ

置きスラブ上端

梁上端

梁

[注] 非耐力壁縦筋は、床スラブ内定着 (L2) または、置きスラブ上端から増打ち部および梁への定着 (L2) でも可とする。

(4) スラブへの定着 (RC壁・CB壁が床と取り合う場合)

壁縦筋

1-D13

1-D13

壁縦筋

※スラブ内への折り曲げ方向は原則として交互とする。

(5) 壁交差部の納まり

(a) シングル配筋の場合

(i) (ii) (iii) (iv) (v)

[注] (i) ~ (iii) はいずれを用いてもよく、(iv), (v) はどちらを用いてもよい。

(b) ダブル配筋とシングル配筋

(i) (ii) (iii) (iv)

[注] (iii), (iv) はいずれの納まりを用いてもよい。

(c) ダブル配筋とダブル配筋

(i) (ii) (iii) (iv) (v)

[注] (i) ~ (iii) はいずれを用いてもよく、(iv), (v) はどちらを用いてもよい。

(6) 一般壁壁端部の納まり

巾止筋 □ -D10@1000 (段取り筋)

(i) ダブル配筋の場合 (ii) シングル配筋の場合

[注] 開口部の上下については幅止筋は不要とする。

(7) 耐震壁の壁端部の納まり

一般壁

開口補強筋

壁横筋と同径同ピッチ

耐力壁

開口部

L1

(8) 地下外壁の納まり

(a) 断面 (b) 断面

L2hかつ梁上端筋迄
設計図書による

L2h 設計図書による

L2 設計図書による

L2 設計図書による

基礎ばり上端

基礎ばり上端

- [注] ① 下から立上がり筋を用いて継手を設けて縦筋を配筋してもよい。
② 継手位置は監理者の指示による。
③ (b) の方式を採用する場合は工事監理者の承認を得る事。
④ (a) の外側鉄筋は6-1 (1) の (b) または (c) の定着要領に従う。

6-3
補強筋

6-4
構造スリット

開口部

鉄筋による工法

※ 斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計者の指示による。
○ 補強筋仕様は壁リストによる。
○ 斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。
○ e ≤ 1000の場合は、開口と柱・梁間の補強筋は不要とする。

完全スリットの場合

(水平) (鉛直)

スリット材

D10@400程度 (防錆処理)

スリット材

特記なき場合は、
スリット幅 W1 ≥ 25かつスリットの長さの1/100
W2 ≥ 15

7-1
フーチング基礎

7-2
べた基礎継手
及び定着

7-3
基礎と基礎梁
接合部補強

§ 7 . 基礎

(a) 直接基礎 (b) 杭基礎

90° フック (余長4d)

D13 @ 300縦横

20d

※ d_o : ハカマ筋径 ※ d : ベース筋径

基礎筋

継手位置は5-2項の上端筋を下端筋、下端筋を上端筋に読み替える。

L3h又は20d 0/4

a2 20d以上 a1/a2 ≤ 1/6

a1

t

※ LbかつB/2以上 15d以上

肩筋主筋の径以上

(独立基礎の場合)

L2

0 < D ≤ 500

3-D13

150

500 < D ≤ 1000

3-D13

150

2D10 @ 250縦横

はり幅D

はり幅D

8-1
階段

8-2
土間コンクリート

8-3
打増し補強

§ 8 . その他

片持階段

※補強筋D13以上 (ダブル)

主筋D13

イナズマ筋 D10@200

D10

30d以上

50d以上

受筋口13

30d以上

50d以上

下端筋定着 20d以上

※ 壁配筋が片持荷重を受ける配筋とされている場合は不要。

スラブ階段

D13

D10

150d以上

20d以上

イナズマ筋 D10@200

L2

Lb

L2

L3

0/4

0/2

0/4

0

300以上

300以上

スラブ筋と同径・同ピッチ

300

(影でも可)

D13

D10@200

500以上

D13

D10

L2

D10@200

(1) 共通事項

(a) 軸補強筋 (t は増打ち厚み)

t ≤ 70 補強なし

70 < t D16@250

tが500を超え、かつ詳細図がない場合は工事監理者に確認をとること。

梁天端・柱増打ちの軸補強筋の配筋目安

増打ち幅B (mm)	軸補強筋
増打ち幅 ≤ 300	2-D16
300 < 増打ち幅 ≤ 600	3-D16
600 < 増打ち幅 ≤ 850	4-D16
850 < 増打ち幅 ≤ 1100	5-D16
1100 < 増打ち幅 ≤ 1350	6-D16

(b) せん断補強筋 (コの字筋など；柱・梁共通)

取り付く部材の帯筋、あばら筋と同径・同間隔とする

(2) 増打ち部に他部材が取り付けられない場合

▨は増打ち部分を示す

腹筋 ④

軸補強筋

せん断補強筋

せん断補強筋

軸補強筋

梁天端増打ち

梁側面増打ち

柱増打ち

(3) 増打ち部に壁、スラブなどが取り付けく場合

軸補強筋

せん断補強筋

壁筋 ②

せん断補強筋

軸補強筋

せん断補強筋

柱増打ち (壁取り付き)

柱増打ち (壁取り付き)

梁側面増打ち (壁取り付き)

軸補強筋

せん断補強筋

腹筋 ④

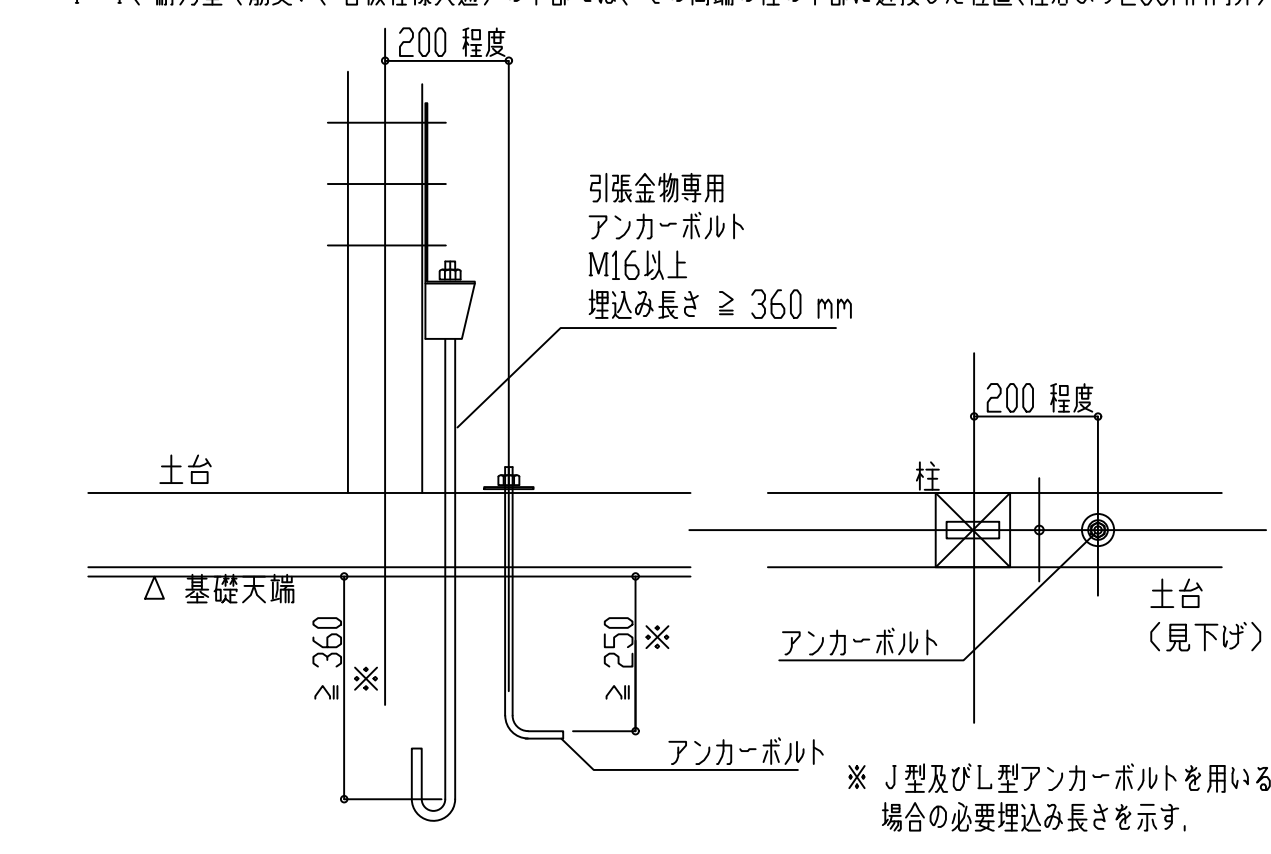
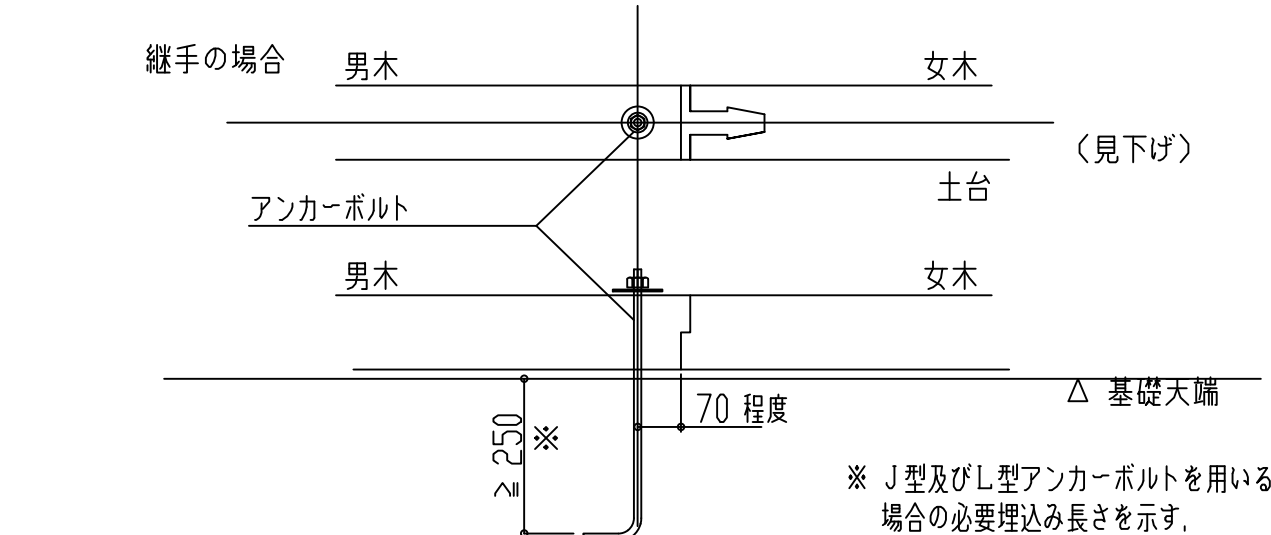
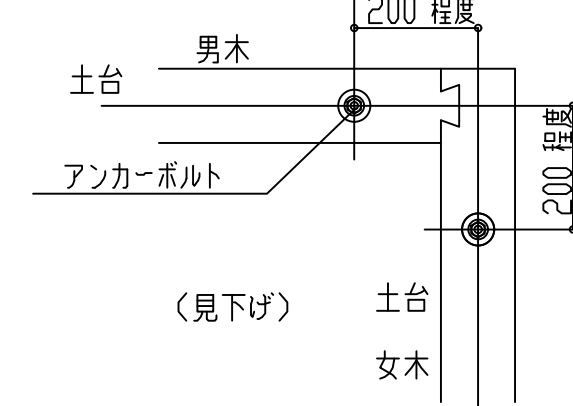
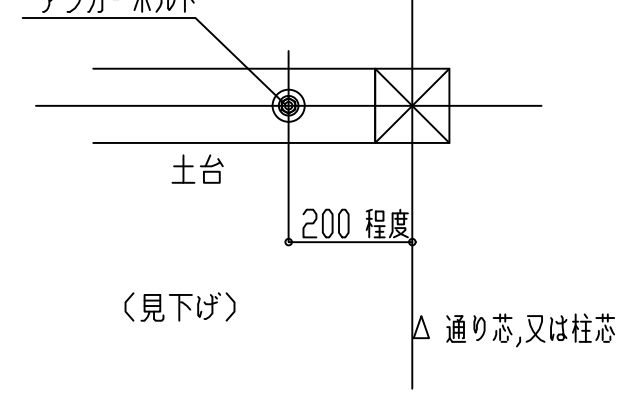
せん断補強筋

梁天端増打ち (スラブ載せ掛け)

梁天端増打ち (スラブ載せ掛け)

[注] ① (3)において、せん断補強筋を柱・梁最外主筋の外側に配筋する場合、先端フック付きとするか、または全結束すること。
② 取り付く壁が耐震壁や土圧を受ける壁でない場合、壁筋をコア内定着としなくともよい。
③ 側筋はD13@300以下とし、端部は柱断面内に5d以下又は梁断面内に20d定着する。
④ t ≥ 500のとき腹筋としてD13@250で配筋する。(2) (3) 共通
⑤ t ≥ 500のとき追加軸補強筋としてD16@250で配筋する。

構造設計 株式会社フライト設計
一級建築士 大臣登録第386372号
田嶋 龍己

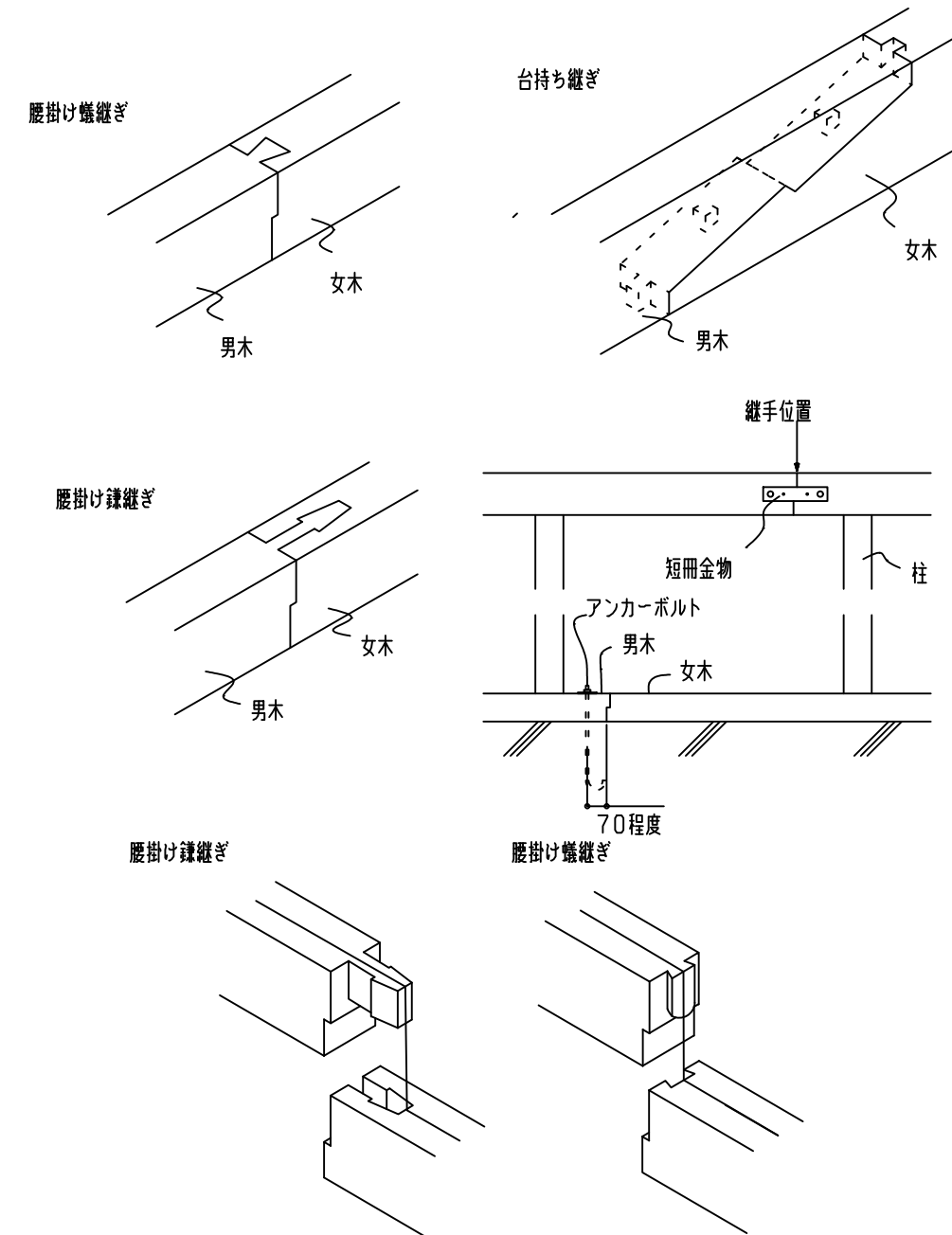
木造工事特記仕様書（２）		木造工事軸組工法標準図（１）																																				
４．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）	６．接合	７．運搬・建方	１．軸組工法アンカーボルト																																			
（１）木材の防腐・防蟻処理 ・高耐久材の使用（注：部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする） ・工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる） JAS保存処理材： K5 K4 K3 K2 K1 AQ認証保存処理材： １種 ２種 ３種 ・現場処理（注：接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。 処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。） ・塗布 ・吹付 ・浸漬 特記無き場合は、処理量： 300ml/m²、処理回数：2回 使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。 <table><tr><th>使用部位</th><th>高耐久材</th><th>工場処理材</th><th>現場処理</th></tr><tr><td>土台</td><td>☐ ひば</td><td>☐ K3 ☐ ()</td><td>☐ 塗布</td></tr><tr><td>外周柱下部1m</td><td>☒ ひのき</td><td>☒ K3 ☐ ()</td><td>☐ ()</td></tr><tr><td>水廻り</td><td>☐ ()</td><td>☐ K3 ☐ ()</td><td>☐ ()</td></tr><tr><td>その他</td><td>☐ ()</td><td>☐ K4 ☐ ()</td><td>☐ ()</td></tr></table> （２）土壌処理 ■防腐薬剤による処理：薬剤（ ） 特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。 ☐防腐薬剤による処理と同等以上の対策（べた基礎） ☐土壌処理省略 ☐北海道 ☐東北 ☐北陸 ☐（ ） 注：処理範囲は、外周部基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm、束石等の周囲20cmを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。 （３）耐候処理（塗装） <table><tr><th>部位</th><th>塗料の種類</th><th>色の有無</th></tr><tr><td></td><td>・遮断型 ・含深型 </td><td>・着色（色） ・透明 </td></tr><tr><td></td><td>・遮断型 ・含深型 </td><td>・着色（色） ・透明 </td></tr><tr><td></td><td>・遮断型 ・含深型 </td><td>・着色（色） ・透明 </td></tr><tr><td></td><td>・遮断型 ・含深型 </td><td>・着色（色） ・透明 </td></tr></table>	使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理	土台	☐ ひば	☐ K3 ☐ ()	☐ 塗布	外周柱下部1m	☒ ひのき	☒ K3 ☐ ()	☐ ()	水廻り	☐ ()	☐ K3 ☐ ()	☐ ()	その他	☐ ()	☐ K4 ☐ ()	☐ ()	部位	塗料の種類	色の有無		・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明		・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明		・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明		・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明	（１）仕口、継手の原則 ・仕口、継手の方法は構造図による。特記無き場合は 1.(3)標準仕様書に示された在来構法用の一般的な適用慣例に従う。一般的な適用慣例については、8．軸組構法接合部の標準仕様による。 ・採用する方法は監理者の承認を得る。 ・仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。 ・下記接合部の項目について 2.2接合具に記載された仕様での施工を確認する。 ・接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、耐力を低減する、接合具の本数を増加するなど監理者と協議して承認を得る。 （２）釘接合 ・釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、鉋距離、釘間隔を大きく取る。 ・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。 ・1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。 ・釘に鉄を生じるおそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。 ・自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機の圧力を弱めるか、最後は手打ちを用いるなどの方法による。 ・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和56年建設省告示1110号」による。 （最終改正平成30年国土交通省告示第490号） ・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 ・木口面に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。 （３）木ネジ接合 ・構造耐力上主要な部分において、木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 ・木口面にねじ込まれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。 ・木ネジの先孔の径：針葉樹・・・主材 0.6d、側材 0.8d、 （dはネジ径） 広葉樹・・・主材 0.8d、側材 1.0d （先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。） ・ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んではならない。 ・ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。 （４）ボルト接合 ・締め付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適しているものであることを確認する。 ・ボルトの締め付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締め付けは一樣となるように行う。 ・ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。 ・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。 ・一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。 （５）ラグスクリュー接合 ・構造耐力上主要な部分において、ラグスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 ・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。 ・締め付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が施工箇所に適しているものであることを確認する。 ・ネジ部の先孔の径：比重 0.5以上の樹種・・・ネジ径の 60～75% その他の樹種・・・ネジ径の 40～70% （長さはネジ部の長さと同寸以上とする。） ・ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではならない。 ・ねじ込みを容易にするためや、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。 ・胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。 ・一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことは避ける。 （６）ドリフトピン接合 ・ドリフトピンは孔に密着させる。 （７）ジベル接合 ・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意し、彫込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないように、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。 ・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。 ・特殊ジベルは使用箇所、使用方法を確認する。 （８）接合金物による接合 ・羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合面材の間が密着するように締め付ける。 ・大断面材用の接合金物に関しては、それぞれの仕様に基づく。 （９）接着接合 ・接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。 ・接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。 （１０）その他の方法による接合 ・使用材料および使用方法是構造図によるものとし、監理者の承認を得る。	（１）輸送計画 製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。 また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。 ☐輸送計画書の提出（ ） （２）集積・保管 集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。 降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。 ☐集積場の確認（ ） （３）建方計画 ☐建方計画書の提出 アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。 （４）施工時の安全性 建方作業中および作業後、構架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。 ☐施工時の安全性に対する検討書の提出 ☐施工時荷重条件の通知 （５）アンカーボルトの施工 ・芯出しは、型板を用いて基準雲に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。 ・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。 ・アンカーボルトはダブルナットとする。 ☐適用除外（ ） ・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。 （６）建方精度（柱倒れ、アンカーボルト位置等） ・建方の精度基準は下記による。 ■建物の倒れ： ■$e \leq H/2500+10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$ ☐（ ） ■梁の水平度： ■$e \leq L/700+5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$ ☐（ ） （節点間のレベル差） ☐（ ） ■建物のわん曲： ■$e \leq L/2500\text{mm}$ かつ $e \leq 25\text{mm}$ ☐（ ） ■柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置 柱据え付け面の基準高さからの誤差： ■$\pm 3\text{mm}$以下 ☐（ ） 通り芯からの誤差： ☐ $\pm 3\text{mm}$以下 ☐（ ） 階高： ■$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$ ☐（ ） ・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。 （７）施工状況の検査 ・アンカーボルト施工時の立会い検査 ■目視による精度確認 ☐計測機器による精度確認 ■アンカーボルト径、間隔 ☐施工者自主検査記録の提出（ ） ・地組み時の立会い検査 ☐目視による精度確認 ☐計測機器による精度確認 ☐材料の加工寸法検査 ☐施工者自主検査記録の提出（ ） ・建方時の立会い検査 ■目視による精度確認 ■計測機器による精度確認 ☐材料の加工寸法検査 ■施工者自主検査記録の提出（ ） ・建方後の施工状況の検査 ☐防腐・防蟻処理 ☐材料の加工寸法検査 ☐接合具の施工状況 ■接合金物の施工状況 ☐その他（ ） ☐施工者自主検査記録の提出（ ） ・最終確認 工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。 ■施工者自主検査記録の提出（ ）	※共通事項 ・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。 （１）土台固定用アンカーボルト 1、アンカーボルトの埋設位置 1-1、耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部では、その両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より200mm内外)とする  1-2、土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。  仕口の場合  土台切れの場合（柱勝ち取り等）  1-3、その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。 （２）引張金物専用アンカーボルト 1-1、引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。 1-2、引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360mm以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。
使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理																																			
土台	☐ ひば	☐ K3 ☐ ()	☐ 塗布																																			
外周柱下部1m	☒ ひのき	☒ K3 ☐ ()	☐ ()																																			
水廻り	☐ ()	☐ K3 ☐ ()	☐ ()																																			
その他	☐ ()	☐ K4 ☐ ()	☐ ()																																			
部位	塗料の種類	色の有無																																				
	・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明																																				
	・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明																																				
	・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明																																				
	・遮断型 ・含深型	・着色（色） ・透明																																				

２．軸組構法接合部

各接合部共通：プレカット製品を使用する場合はその形状および許容耐力に及ばず影響を確認する。

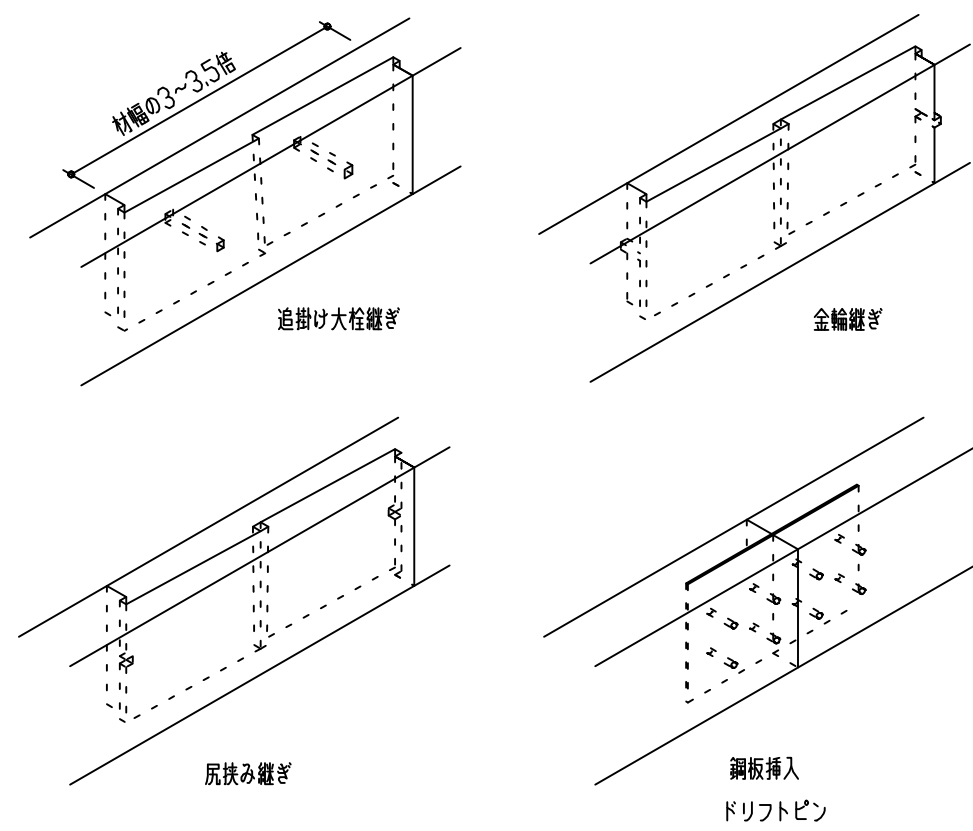
（１）横架材どうしの継手

- １．曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ
 - ・せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
 - ・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - ・逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
 - ・柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。
 - ・土台の場合は、継手から男木側70程度?付近にアンカーボルトを設ける。



プレカット機械による継手・仕口

- ２．曲げ応力や引張力を負担する継手：追掛け大栓継ぎ、金輪継ぎ、尻伏み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
 - ・伝達できる曲げモーメントや引張力は母材全断面強度の20％以下と考えること。

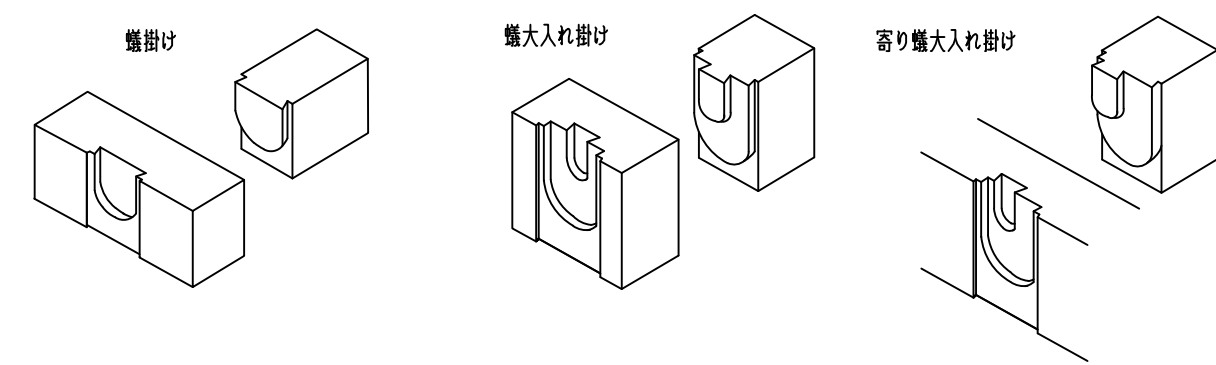
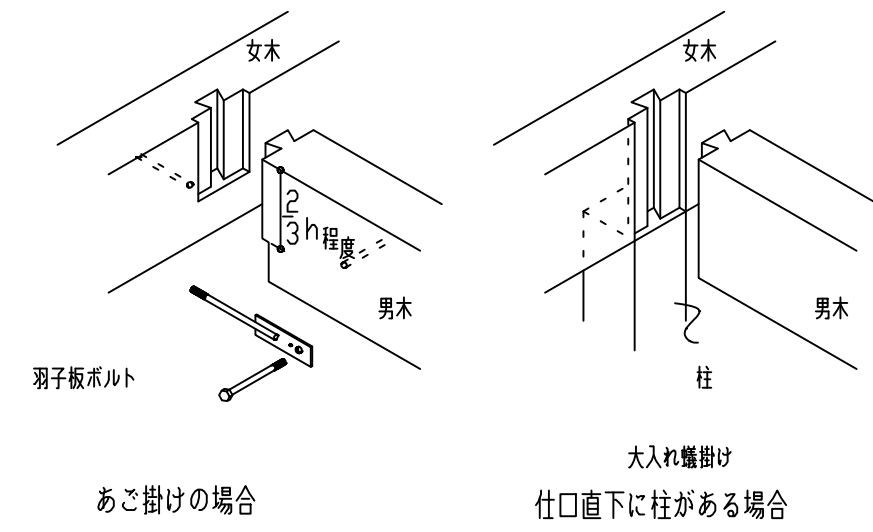


（２）柱の継手

- ・階の中間部における柱の継手は原則として禁止する。
- ・やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。

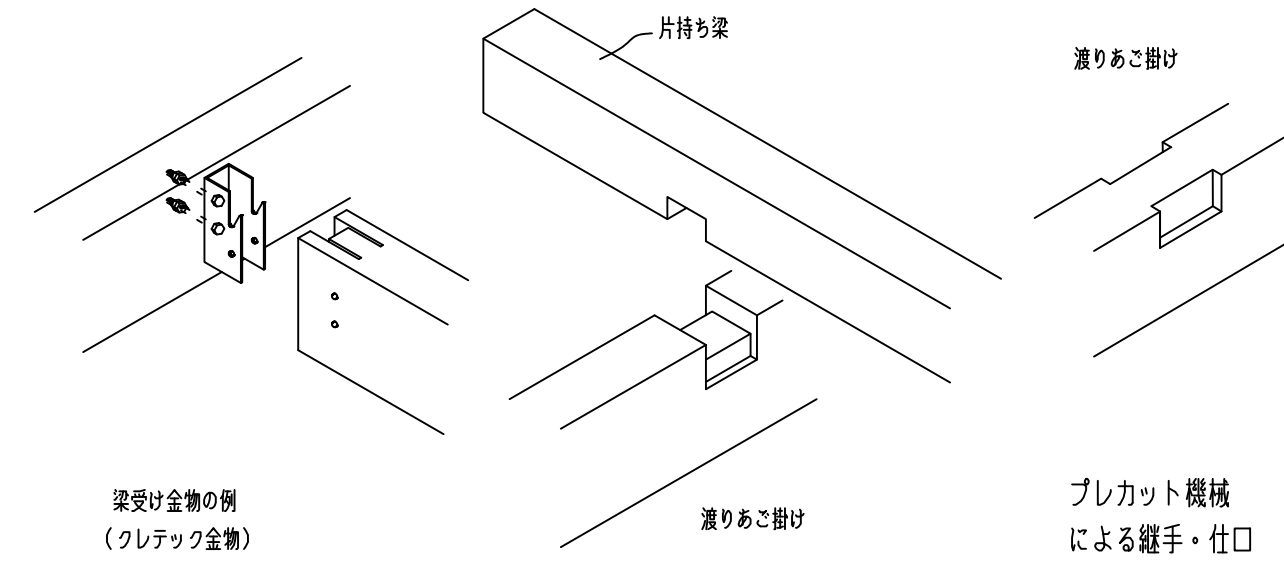
（３）横架材どうしの仕口

- １．せん断力が母材全断面強度の30％以下の仕口：（大入れ）蟻掛け
 - ・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - ・逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
 - ・男木の梁せいが女木の2／3以下の場合か、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいの2／3程度の高さをかける。



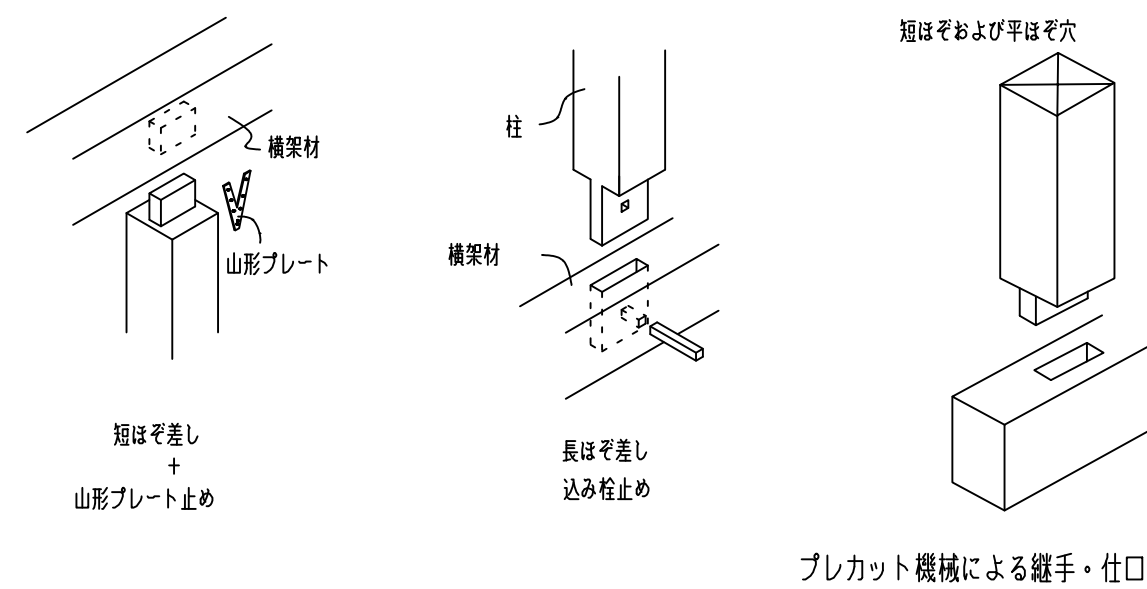
プレカット機械による継手・仕口

- ２．せん断力が母材全断面強度の30％を超える仕口：梁受け金物
 - ・既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認する。
- ３．一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡りあご掛け
 - ・逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用する。



（４）柱と横架材の仕口

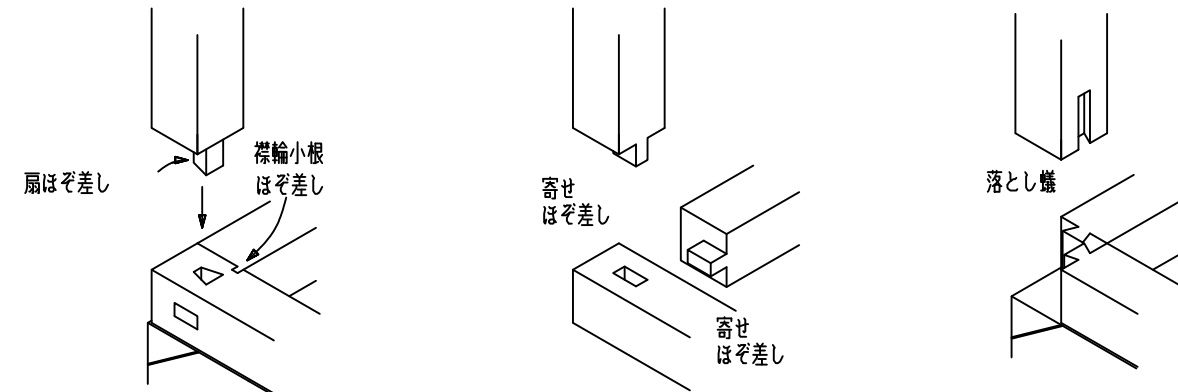
- １．柱の上下端部：短はぞ差し、長はぞ差し込み栓止め
 - ・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。



プレカット機械による継手・仕口

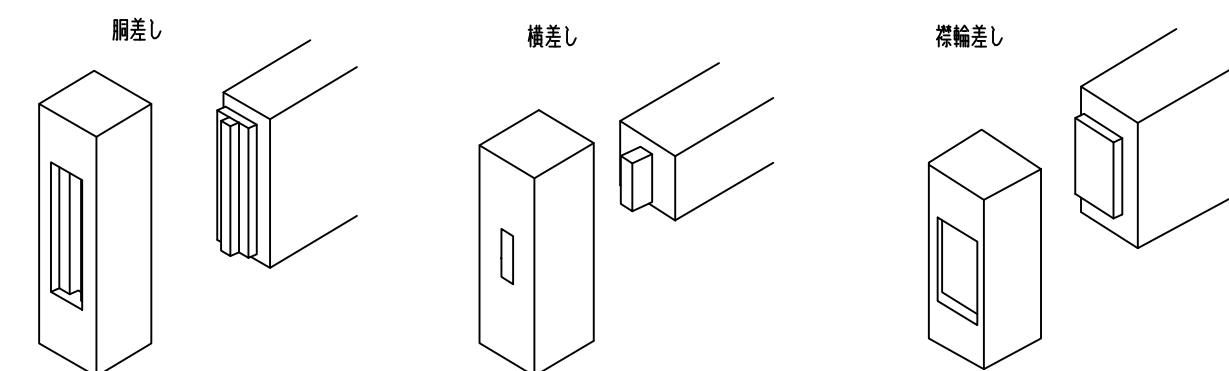
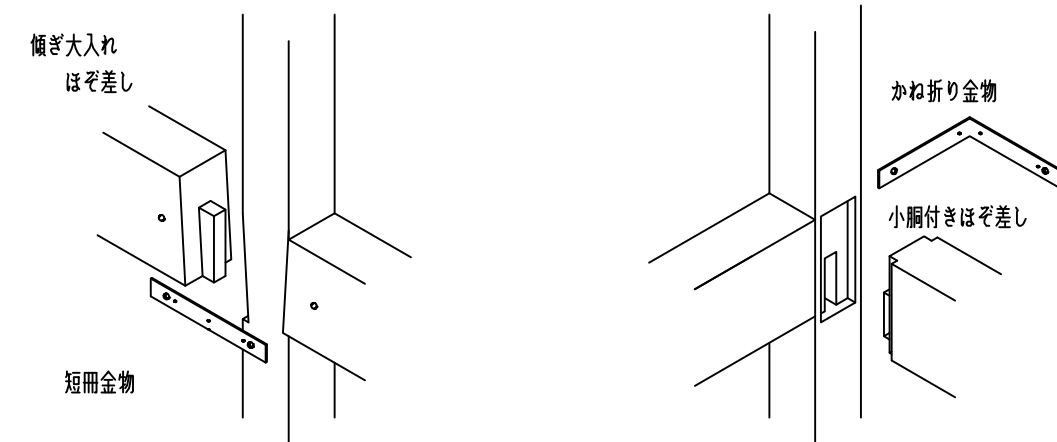
２．土台の出隅入隅部

- ・土台どしは髹輪小根はぞ差し又は寄せはぞ差し、柱脚部は扇はぞ差し又は寄せはぞ差し又は寄せはぞ差し（柱筋ちの場合、落とし蟻、あるいは土台を寄せはぞ差しとする。）
- ・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。



３．通し柱と扇差し：小胴付きはぞ差し、傾ぎ大入れはぞ差し、梁受け金物

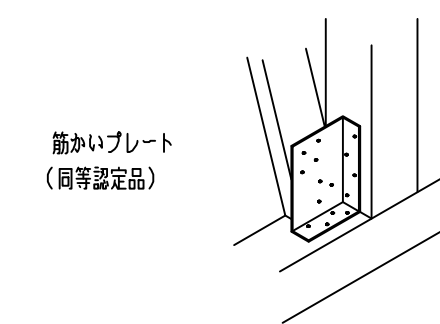
- ・梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。



プレカット機械による継手・仕口

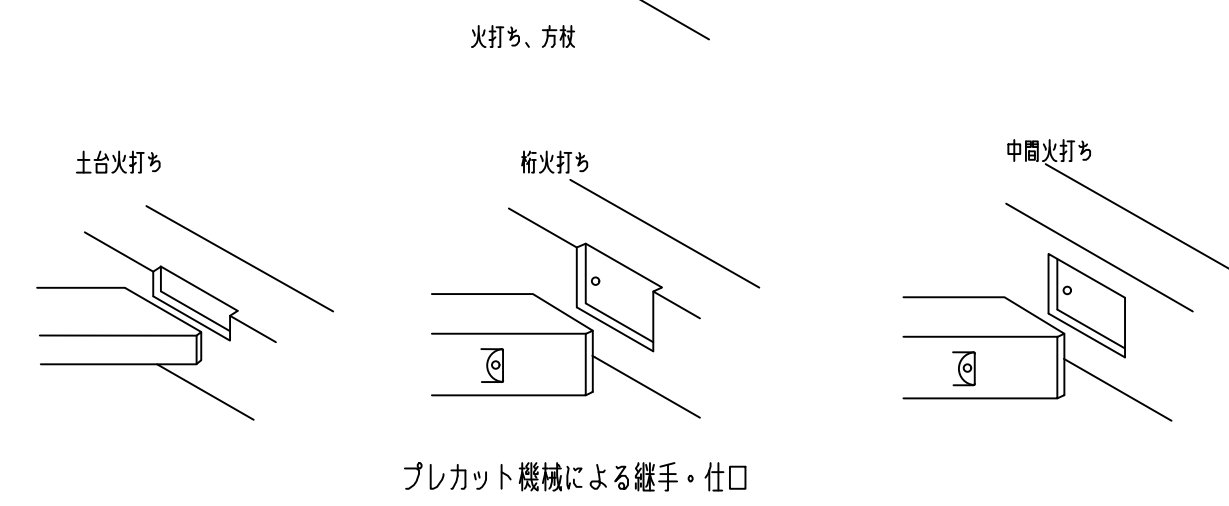
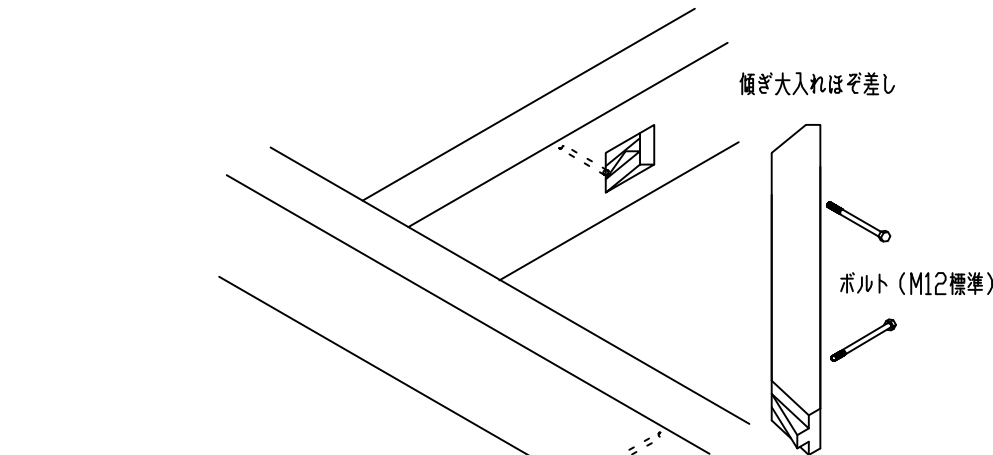
（５）筋かい端部

- ・平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。



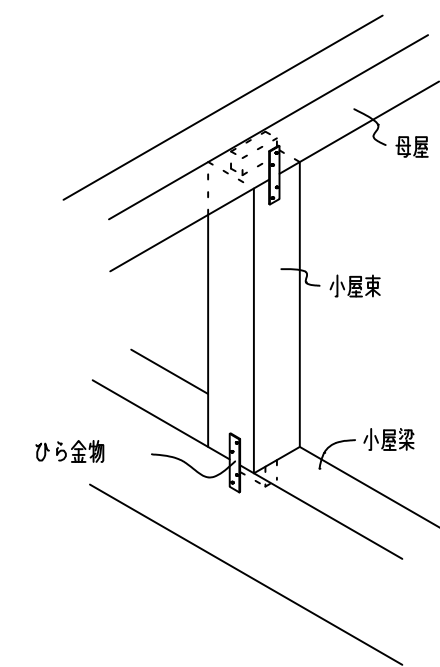
（６）火打ち、方杖

- ・角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れはぞ差し＋ボルト締めとする。
- ・Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。



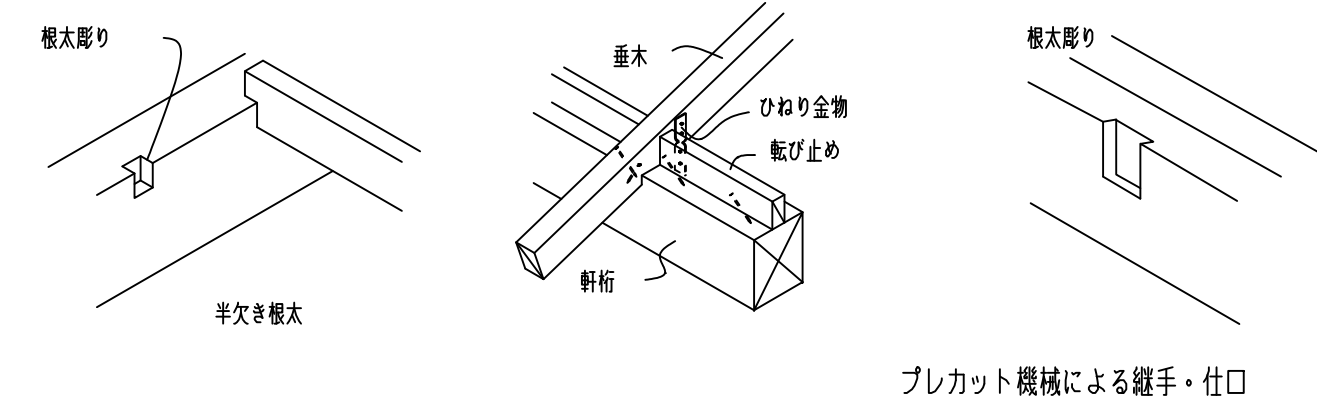
（７）小屋束の上下端部

- ・短はぞ差し又は長はぞ差し込み栓止めとする。
- ・短はぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



（８）根太、垂木と横架材

- ・落とし込み根太：横架材に大入れ または根太掛け＋斜め釘
- ・半欠き根太：横架材に大入れアゴ掛け＋斜め釘
- ・転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に扇天釘止め
 - 根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本＋転び止め
- ・垂木：横架材に垂木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
- ・風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。（ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する）



（９）間柱と横架材

- ・上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘
- ・上部はぞ差し、下部突き付け＋斜め釘

（１０）釘の最小間隔及び最小端あき距離

		加力方向		
		横 横 方 向	縦 縦 直 交 方 向	
縦 縦 方 向	E1	15d	10d	
	P1	12d	10d	
縦 縦 直 交 方 向	E2	5d	8d	
	P2	5d	8d	

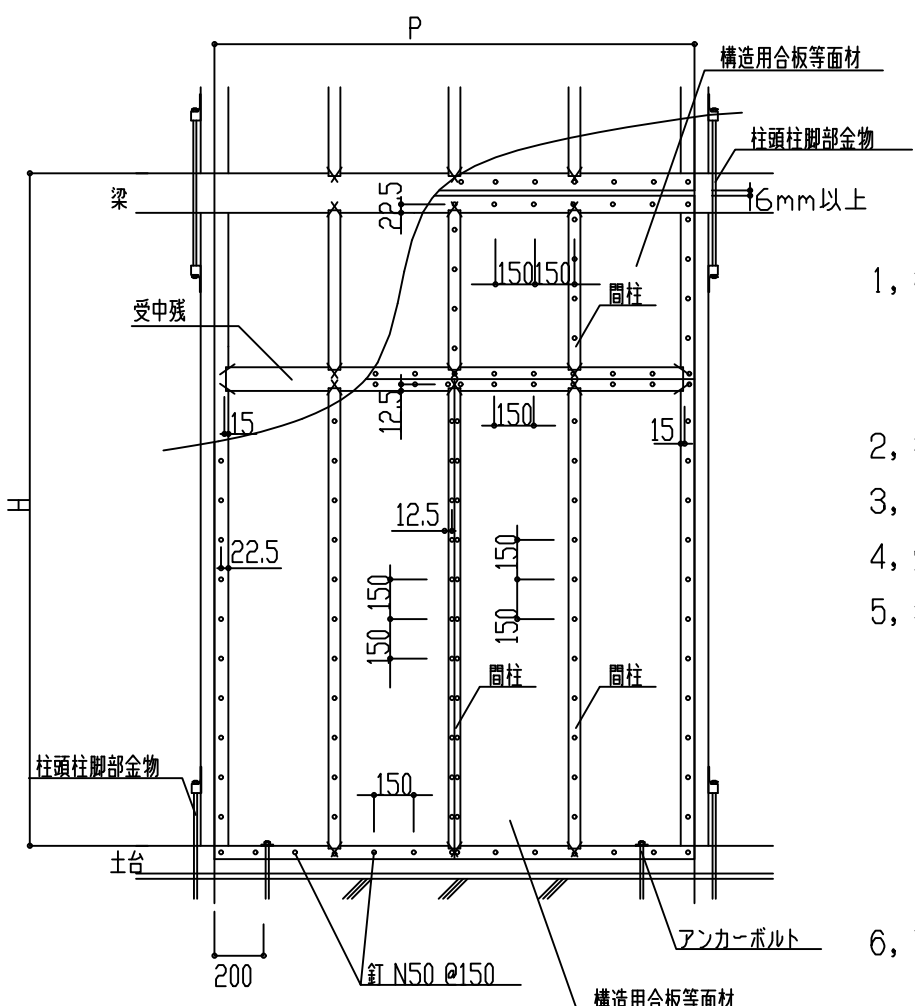
（１１）ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

		加力方向		
		横 横 方 向	縦 縦 直 交 方 向	
縦 縦 方 向	E1	7d（荷重負制御） 4d（荷重非負制御）	7d	
	P1	7d	t/d=2 2≤t/d<6 t/d<6	
縦 縦 直 交 方 向	E2	t/d≤6 t/d>6 1.5d>P2/2	4d（荷重負制御） 1.5d（荷重非負制御）	
	P2	3d	4d	

木造工事軸組工法標準図（３）

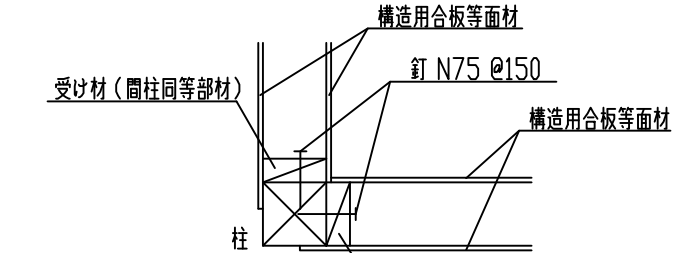
（１２－１）面材耐力壁 ○ 昭56建告1100号に準じた耐力壁

1. 標準仕様大壁耐力壁（片面張り壁倍率：2.5倍）
（両面張り壁倍率：5.0倍）



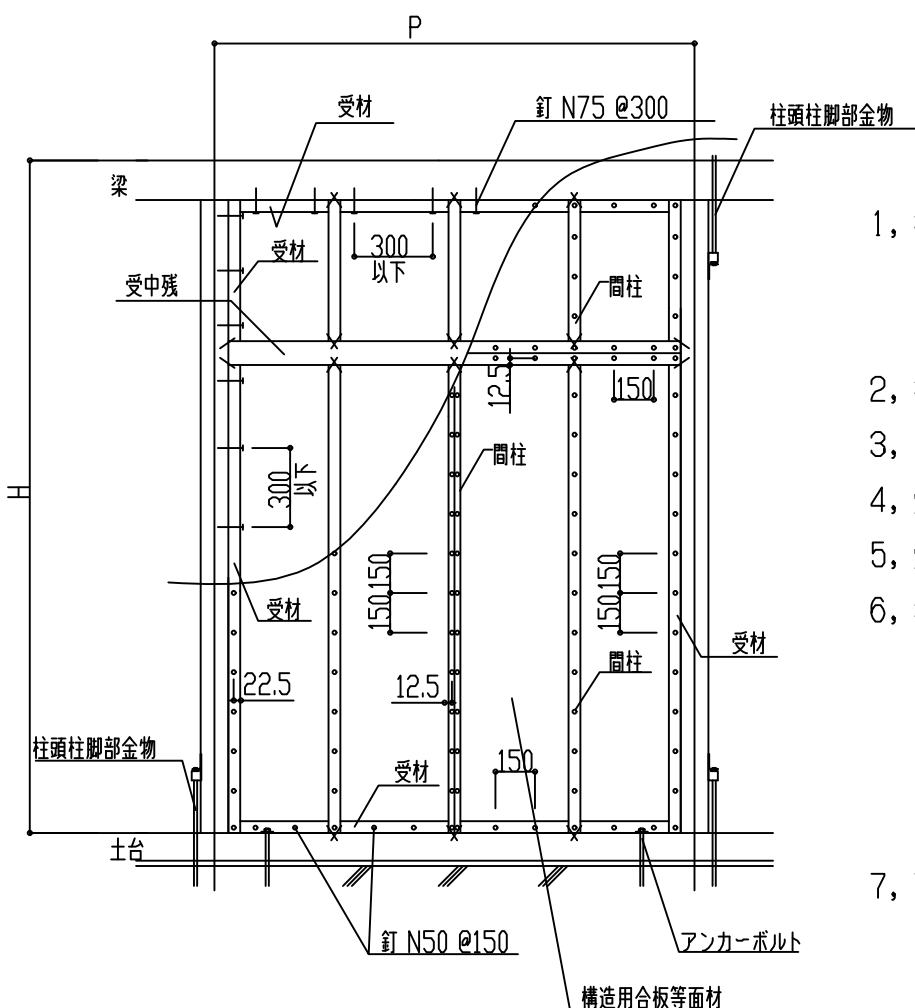
- 構造用合板等面材
 - 構造用合板 $t=9\text{mm}$ 以上、構造用パネル（OSB） $t=9\text{mm}$
 - 構造用パーティクルボード $t=9\text{mm}$ 以上、構造用MDF $t=9\text{mm}$
- 柱間隔： $600\text{mm} \leq P \leq 2000\text{mm}$ $H/P \leq 5.0$
- 間柱： 幅45mm以上 間隔500mm以下
- 受中残： 幅90mm以上（面材高さ方向に継ぎ目がある場合）
- 各部仕口形状及び性能
 - 柱頭柱脚はホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引っ張り力を上回る耐力を有する金物を使用する
 - 中残端部はまぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
 - 間柱端部は上下横架材の間柱欠きに6～15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- 面材の釘打ち仕様
 - 主軸材の柱及び梁に対するかかり寸法： 22.5mm以上
 - 面材に対するへり空き： 10mm以上
 - 間柱及び中残等のへり空き： 12.5mm以上
 - 柱、梁及び間柱の釘打ち： N50@150mm以下
- アンカーボルト：耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるM12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける

○ 標準仕様大壁耐力壁両面張り耐力壁出隅部要領



※ 受け材（間柱同等材）の釘打ちはN50@150mm以下とする

2. 標準仕様真壁耐力壁（片面張り壁倍率：2.5倍）
（両面張り壁倍率：5.0倍）

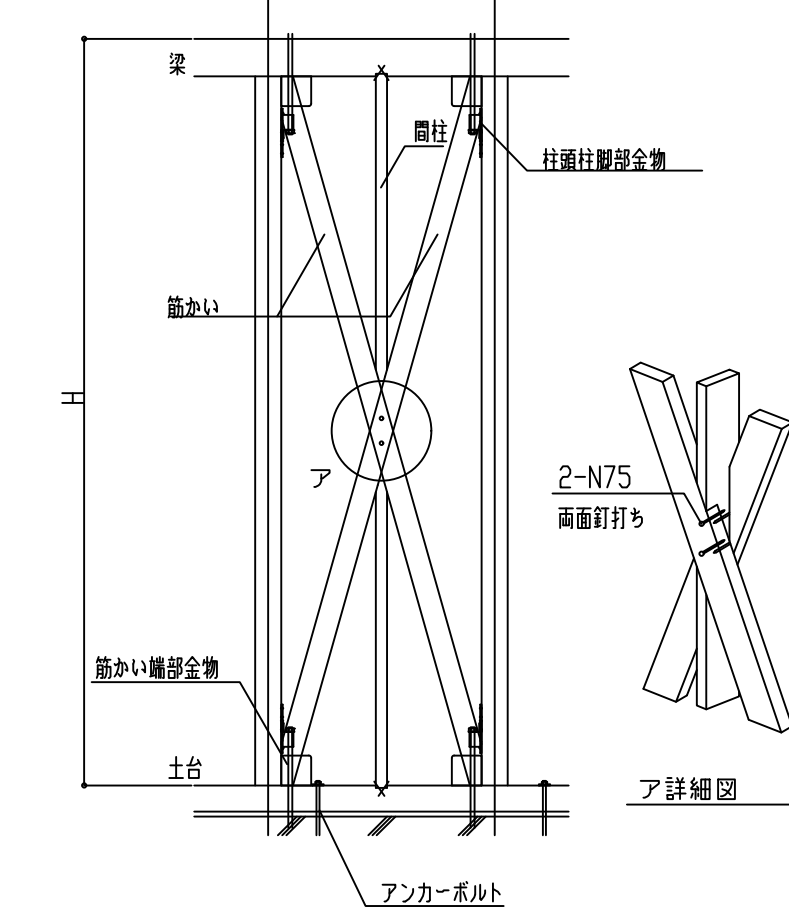


- 構造用合板等面材
 - 構造用合板 $t=9\text{mm}$ 以上、構造用パネル（OSB） $t=9\text{mm}$
 - 構造用パーティクルボード $t=9\text{mm}$ 以上、構造用MDF $t=9\text{mm}$
- 柱間隔： $600\text{mm} \leq P \leq 2000\text{mm}$ $H/P \leq 5.0$
- 間柱： 幅45mm以上 間隔500mm以下
- 受中残： 幅90mm以上（面材高さ方向に継ぎ目がある場合）
- 受け材：45mm×60mm以上
- 各部仕口形状及び性能
 - 柱頭柱脚はホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引っ張り力を上回る耐力を有する金物を使用する
 - 中残端部は突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
 - 間柱端部は突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
- 面材の釘打ち仕様
 - 受材に対するかかり寸法： 22.5mm以上
 - 面材に対するへり空き： 10mm以上
 - 受け材のへり空き： 12.5mm以上
 - 主軸材と受材の釘打ちめN75@300mm以下（両面張りの場合は、@150mm以下）
 - 受け材及び間柱の釘打ち： N50@150mm以下
- アンカーボルト：耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるM12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける

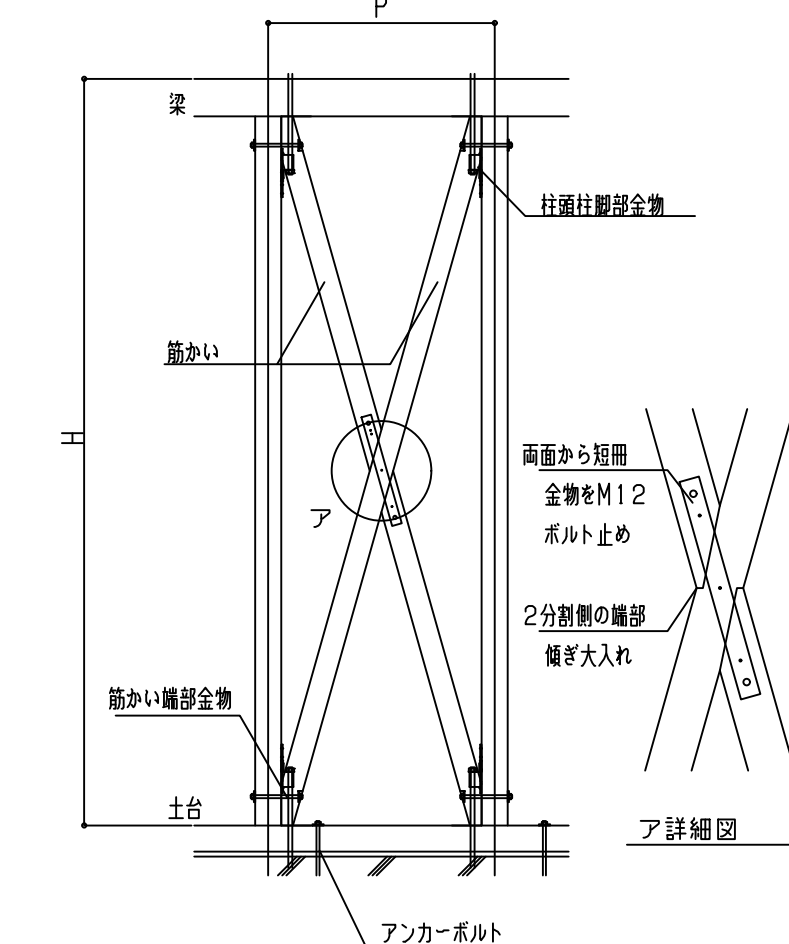
注意事項：面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする。左記を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。

（１２－２）筋かい耐力壁 ○ 施行令46条に準じた耐力壁

1. 筋かい耐力壁：45×90以上（片筋かい壁倍率：2.0倍）
（たすき掛け壁倍率：4.0倍）



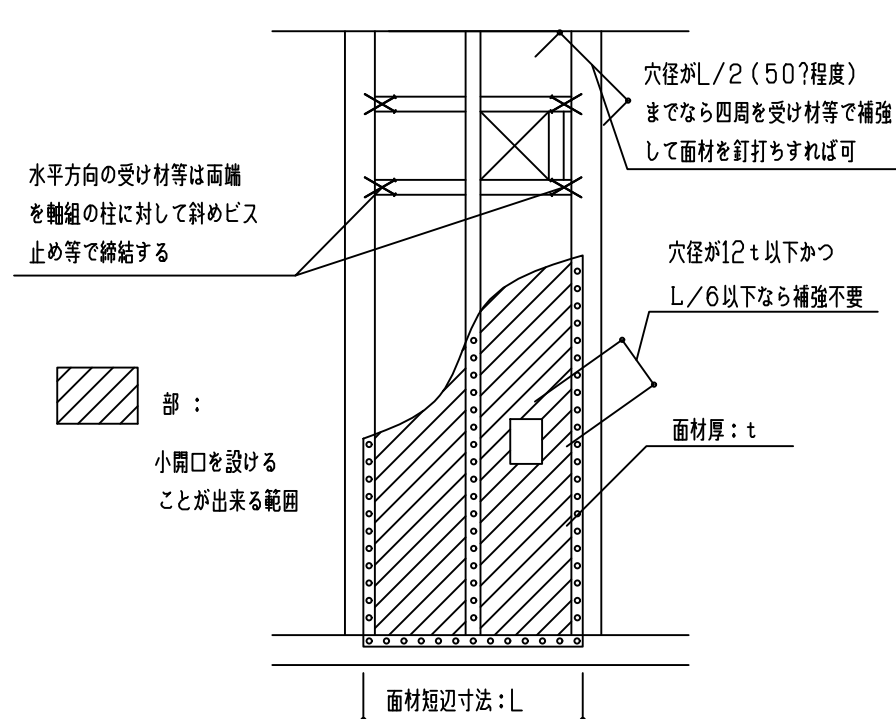
2. 筋かい耐力壁：90×90以上（片筋かい壁倍率：3.0倍）
（たすき掛け壁倍率：5.0倍）



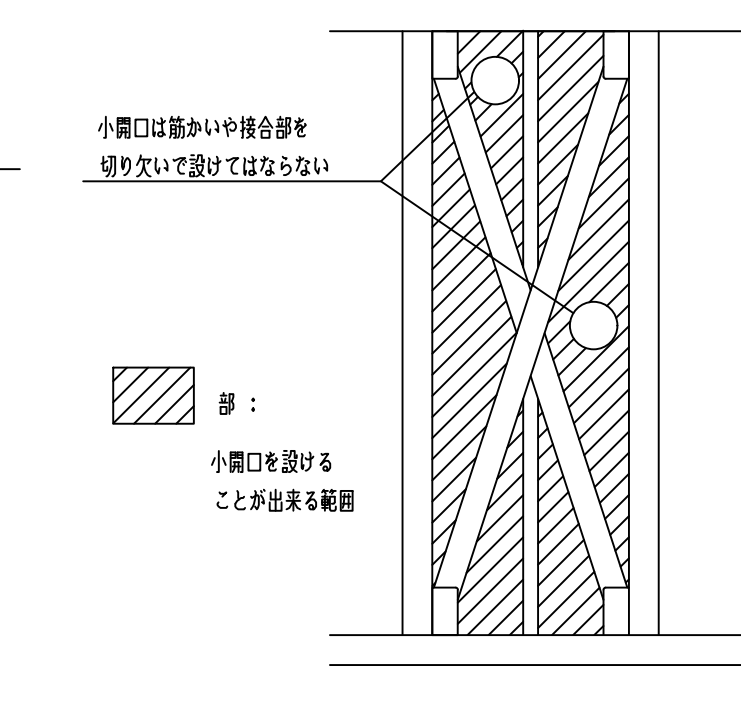
- 筋かい： 45mm×90mm以上（節、目切れ等軽微なもの）
- 柱間隔： $900\text{mm} \leq P \leq 2000\text{mm}$ $H/P \leq 3.5$
- 柱梁間高さ：高さ $H \leq 3000\text{mm}$
- 間柱： 幅45mm以上 間隔500mm以下
- 各部仕口形状及び性能
 - 間柱端部は上下横架材の間柱欠きに6～15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
 - 筋かい端部は突き付けの上 筋かいプレート（2倍用）を使用
 - 柱頭柱脚はホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引っ張り力を上回る耐力を有する金物を使用する
- アンカーボルト：耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるM12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける

- 筋かい： $90\text{mm} \times 90\text{mm}$ 以上（節、目切れ等軽微なもの）
- 柱間隔： $900\text{mm} \leq P \leq 2000\text{mm}$ $H/P \leq 3.5$
- 各部仕口形状及び性能
 - 筋かい端部は突き付けの上柱にM12ボルトで一面せん断接合
 - 筋かい中央部は2分割材を両側から短曲金物M12ボルト止め
 - 柱頭柱脚はホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引っ張り力を上回る耐力を有する金物を使用する
- アンカーボルト：耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるM12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける

- （１３）耐力壁貫通孔
1. 小開口付き面材耐力壁：木造軸組工法壁倍率5倍以下の場合
剛性・耐力壁に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方

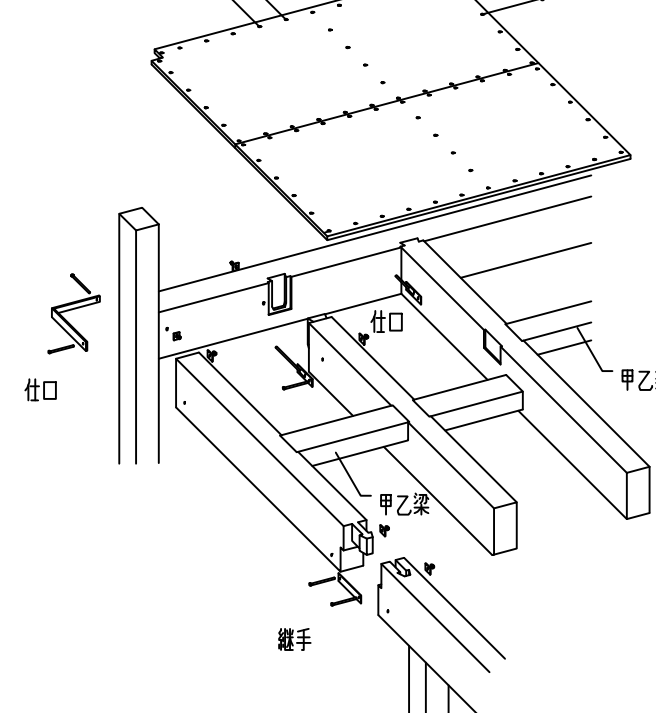


2. 小開口付き筋かい耐力壁：木造軸組工法の場合
剛性・耐力壁に影響しない筋かい耐力壁の小開口の設け方



（１４）水平構面

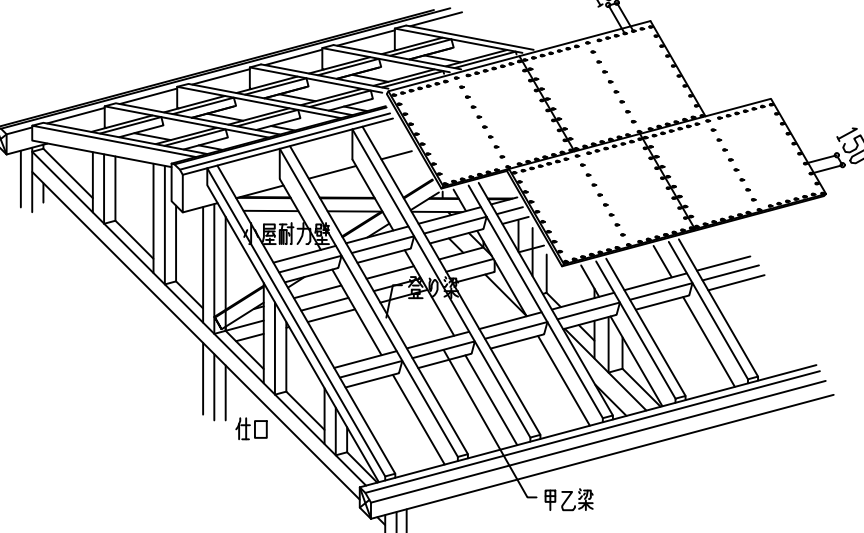
1. 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面
- 1-1. 日の字釘打ち（短期許容せん断耐力：7.84kN/m）



- 構造用合板等面材
 - 構造用合板（又はOSB） $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ を横架材に直貼する
- 甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上、小梁甲乙梁の間隔1000mm以下とする
- 継手、仕口各部
 - 水平力時に生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - 高低差のある小梁部へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成とする
 - 甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ N75 1本斜め打ちする
- 面材の釘打ち仕様
 - 構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける

注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする、2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること

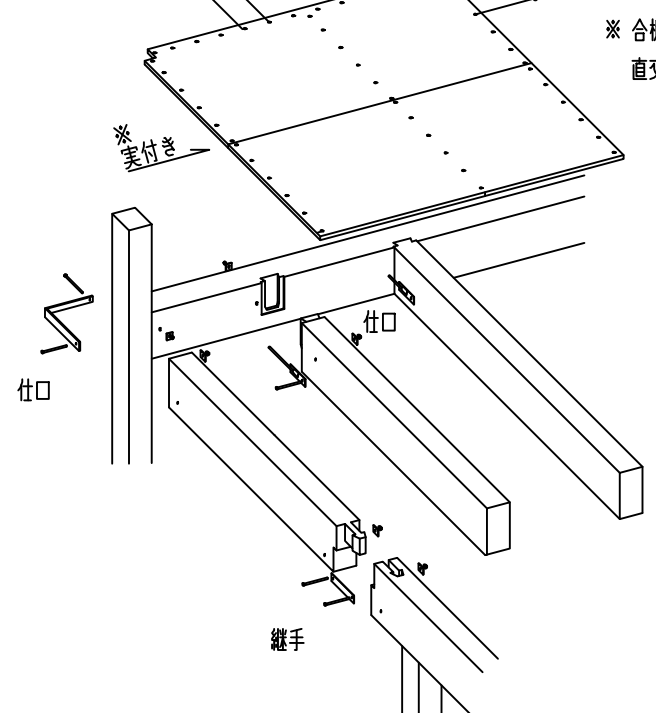
2. 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面
- 2-1. 登梁-厚合板（短期許容せん断耐力7.84kN/m（勾配面に対して））



- 面材：構造用合板（又はOSB） $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- 登梁：幅105mm以上×せい105mm以上 間隔1000mm以下
- 甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上 間隔1000mm以下
- 小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上（くも筋違い）
（端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合）
- 各部仕口形状及び性能
 - 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線以上は同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い等）を設けること
- 面材の釘打ち仕様
 - 構造用合板はN75@150mmで日の字に垂木に留め付ける

注意事項：面材に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

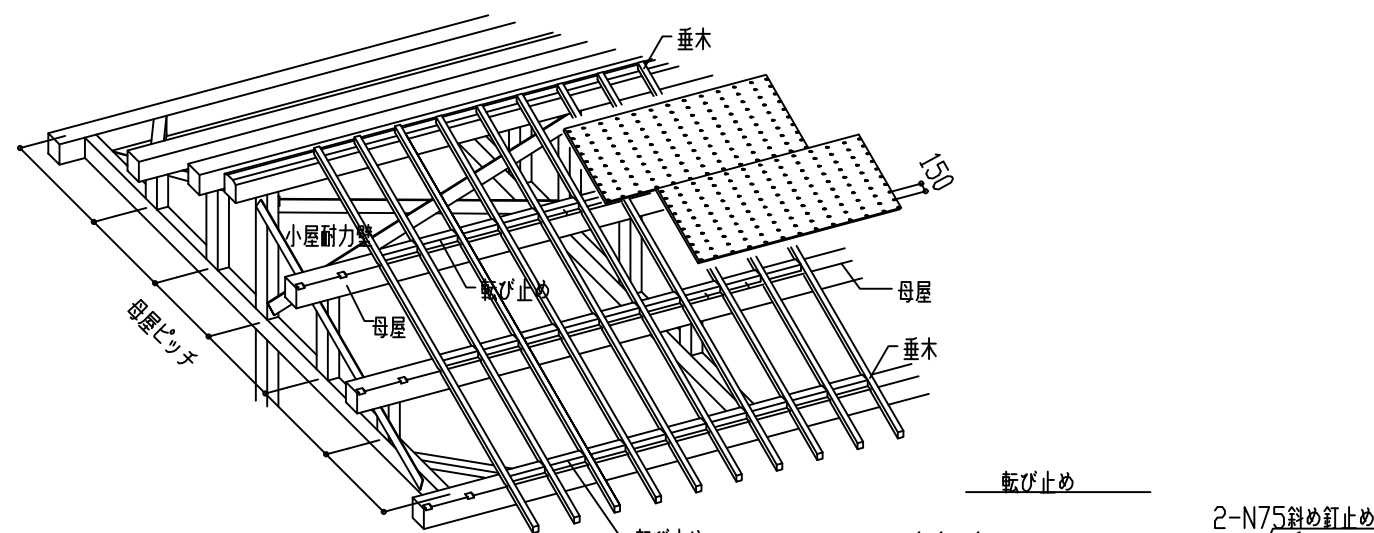
- 1-2. 川の字釘打ち（短期許容せん断耐力：3.53kN/m）



- 構造用合板等面材
 - 構造用合板（又はOSB） $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ を横架材に直貼する
- 小梁の間隔1000mm以下とする
- 継手、仕口各部
 - 水平力時に生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - 高低差のある小梁部へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成とする
- 面材の釘打ち仕様
 - 構造用合板はN75@150mm川の字釘打ちで横架材、床受材に留め付ける
 - ※ 構造用合板は、実付きとする。

注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする、2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちで構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、たわみ等に注意すること

- 2-2. 垂木-合板（短期許容せん断耐力1.96kN/m（勾配面に対して））



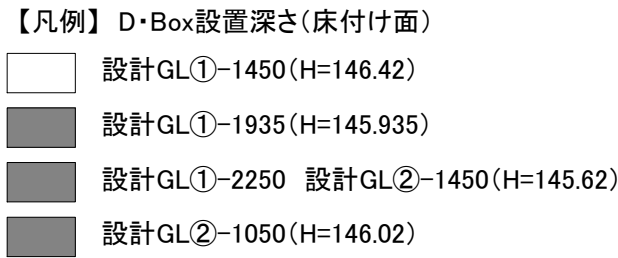
- 面材：構造用合板（又はOSB） $t=9\text{mm} \sim 15\text{mm}$ （横置）
- 垂木：幅45mm以上×せい45mm～90mm@500mm以下
- 小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上（くも筋違い）
（端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合）
- 転び止め：45mm×60mm程度
- 各部仕口形状及び性能
 - 母屋ピッチ：1000mm以下
 - 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線以上は同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い等）を設けること
- 面材の釘打ち仕様
 - 構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
 - 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
 - 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち

注意事項：面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

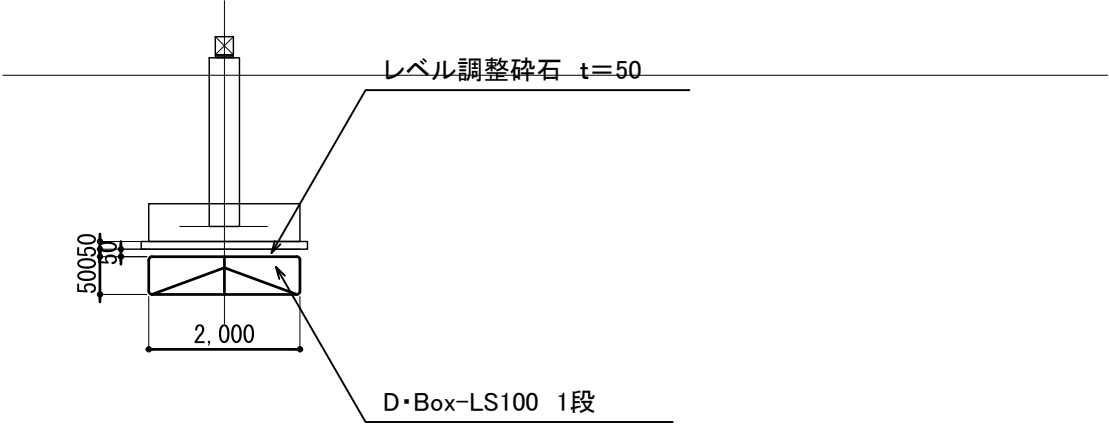
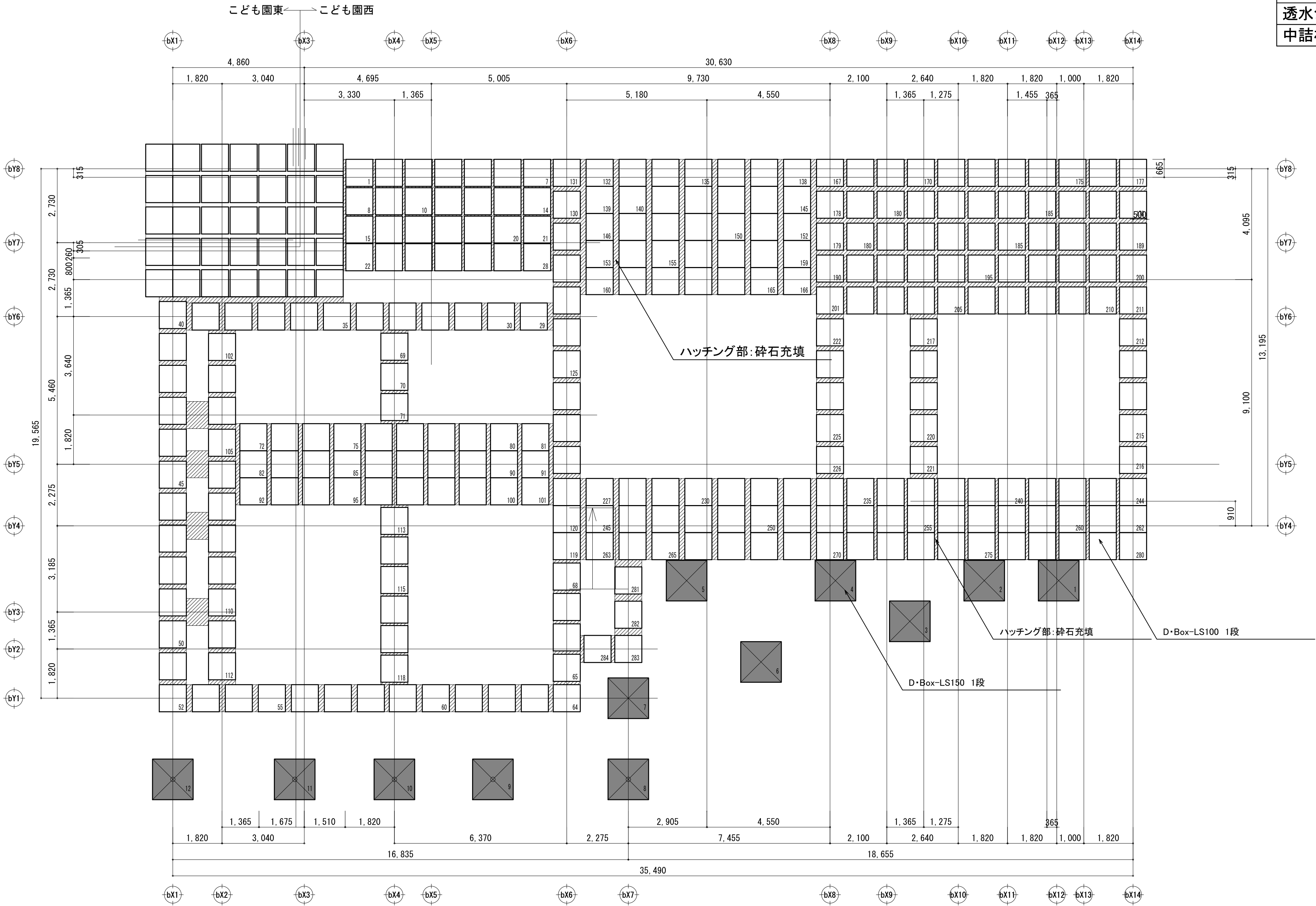
シートNo 71-5089

No.



【数量表】		こども園部		
項 目	規 格	単位	数量	摘 要
DBOX-LS150	1500×1500×450	袋	-	m2
DBOX-LS100	1000×1000×250	袋	554	554m2
透水シート	1500N/5cm以上	m2	-	
中詰材	C40-0	m3	138.5	

【数量表】			子育て支援部	
項 目	規 格	単位	数量	摘 要
DBOX-LS150	1500×1500×450	袋	12	27.0m2
DBOX-LS100	1000×1000×250	袋	284	284m2
透水シート	1500N/5cm以上	m2	-	
中詰材	C40-0	m3	83.2	

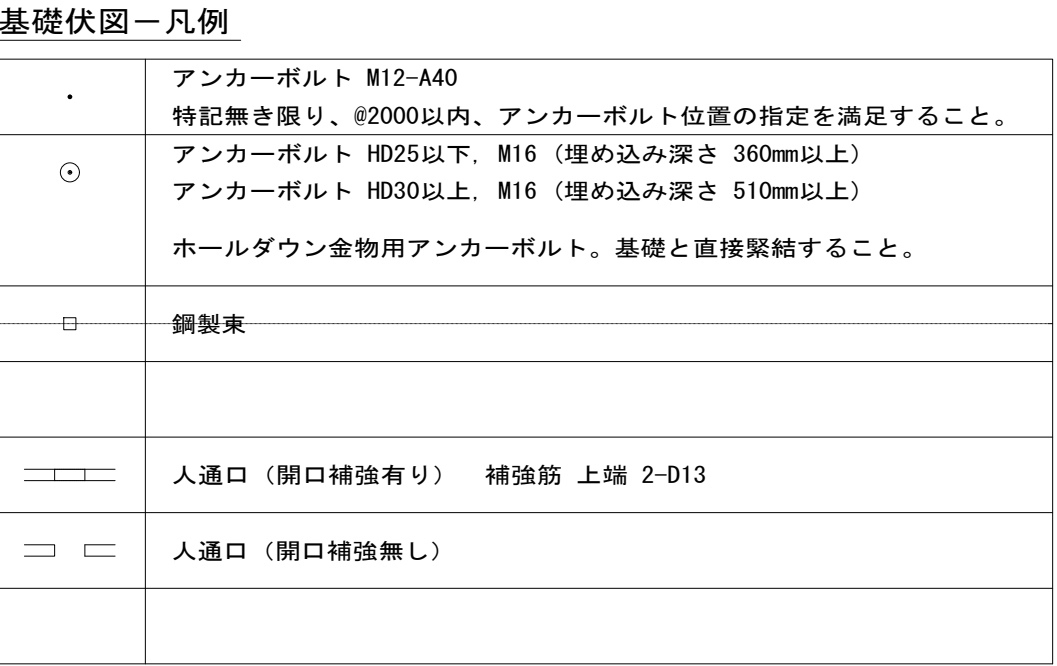


改良伏図

【凡例】 D・Box設置深さ(床付け面)

- 設計GL①-2250 設計GL②-1450 (H=145.62)
- 設計GL②-1050 (H=146.02)





柱廻り

土台

アンカーボルト

200

200

土台継手部

320

継手

200

120

耐力壁端部

※ボールダウン金物を必要とする柱の場合は（ ）内の寸法でも良い。

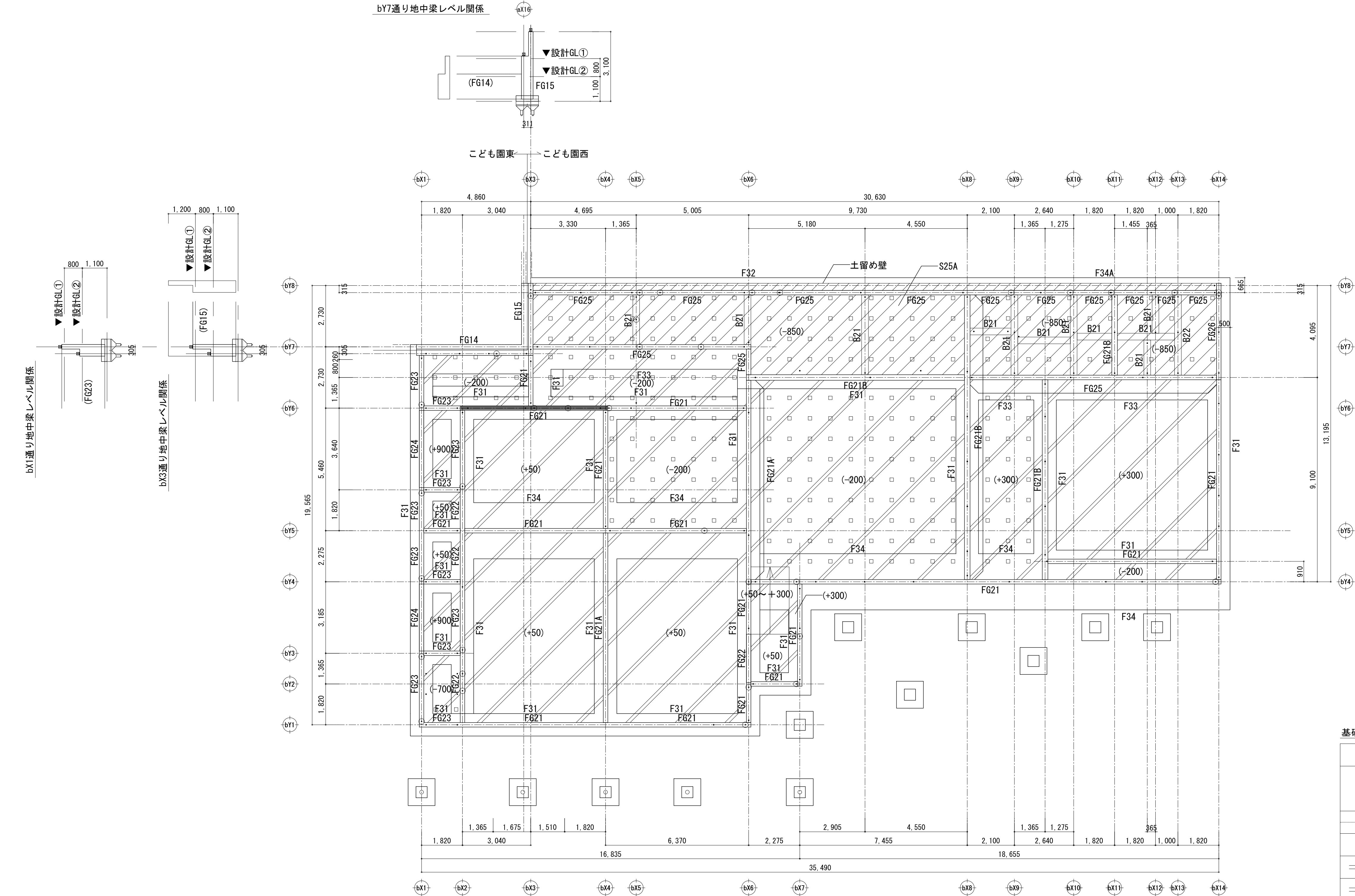
アンカーボルト

耐力壁

150

200

構造設計 株式会社ライト設計
一級建築士 大臣登録第386372号
田畑 矩己



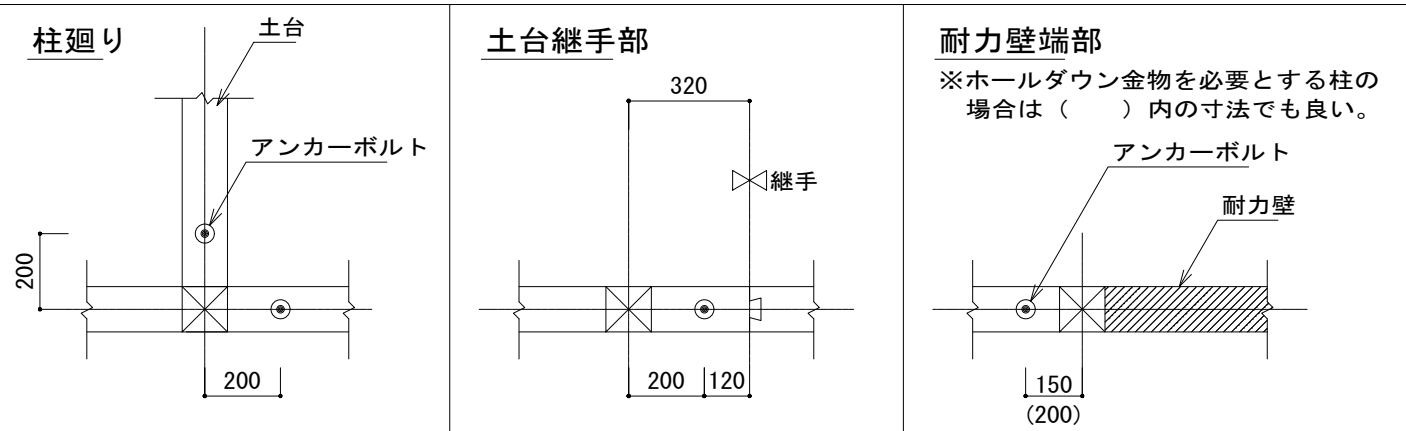
基礎伏図

- 特記なき限り下記とする。
- RC基礎天端レベル=平均地盤面-581
 - 土間 ()内は設計GL②からの土間天端レベルを示す。
 - 基礎上立ち上がり部を示す。
 - 土間下は平板載荷試験を行い地耐力20kN/m²を確認すること。

基礎伏図一凡例

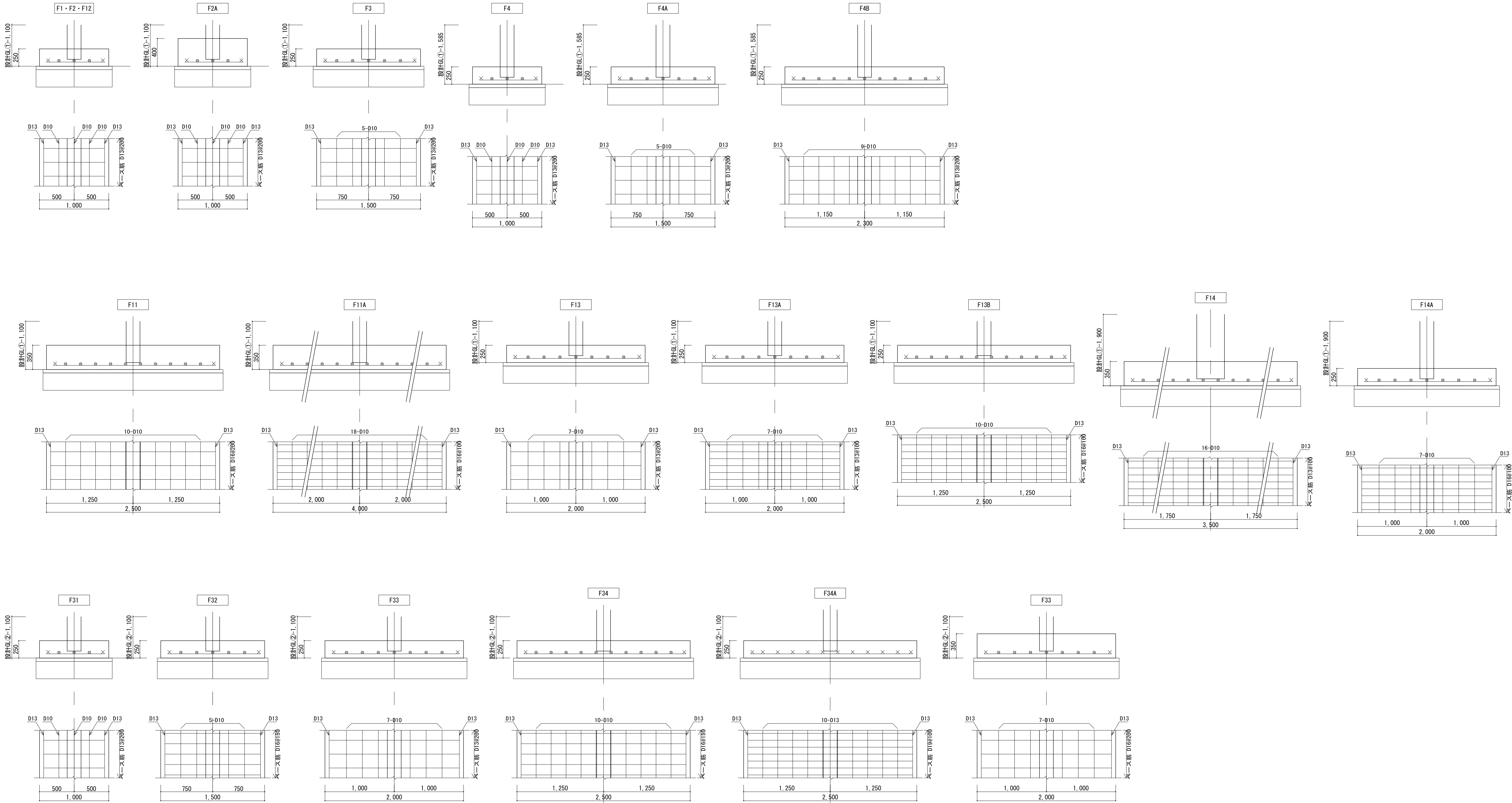
・	アンカーボルト M12-A40 特記無き限り、@2000以内、アンカーボルト位置の指定を満足すること。
○	アンカーボルト HD25以下、M16 (埋め込み深さ 360mm以上) アンカーボルト HD30以上、M16 (埋め込み深さ 510mm以上) ホールダウン金物用アンカーボルト。基礎と直接緊結すること。
□	鋼製束
≡≡	人通り (開口補強有り) 補強筋 上端 2-D13
≡ ≡	人通り (開口補強無し)

アンカーボルト位置 (柱120角)

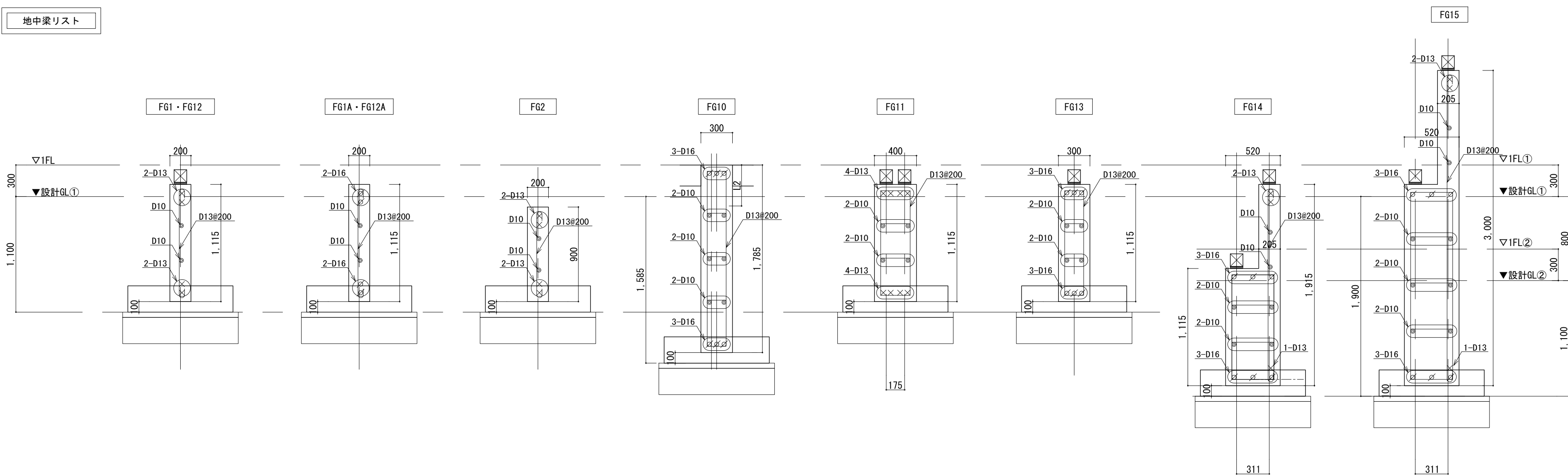


※アンカーボルト M12 (Zマーク表示金物) コンクリートへの埋め込み長さ 250mm以上
※アンカーボルト M16 (Zマーク表示金物) コンクリートへの埋め込み長さ 360mm以上
※座金は (い) 以上 (ほ) 以下は 4.5x40x40、(へ) 以上 (ち) 以下は 6x54x64、(り) 以上は 9x80x80とすること。

基礎リスト



地中梁リスト



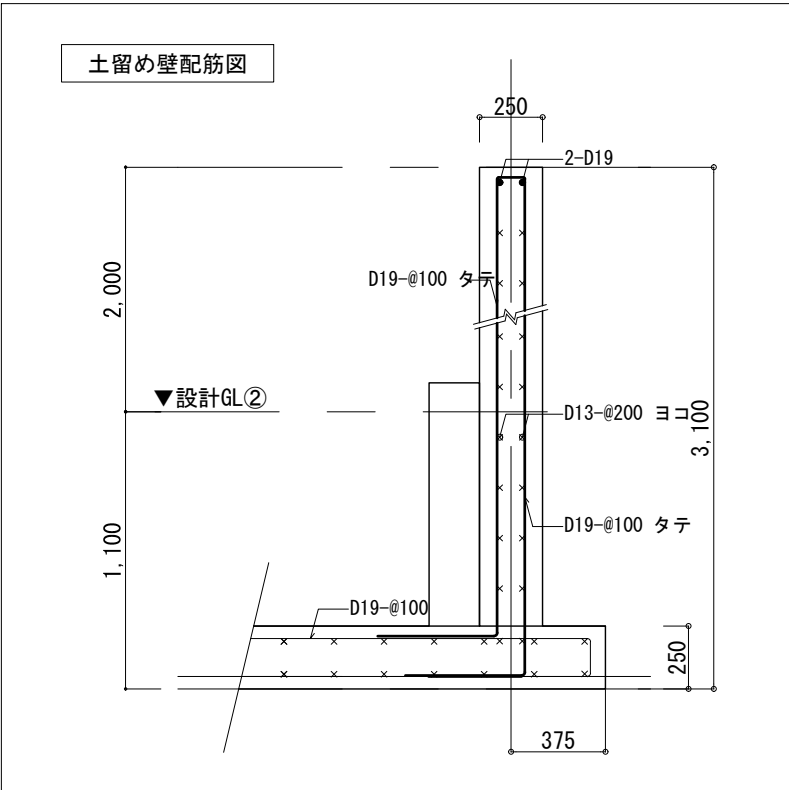
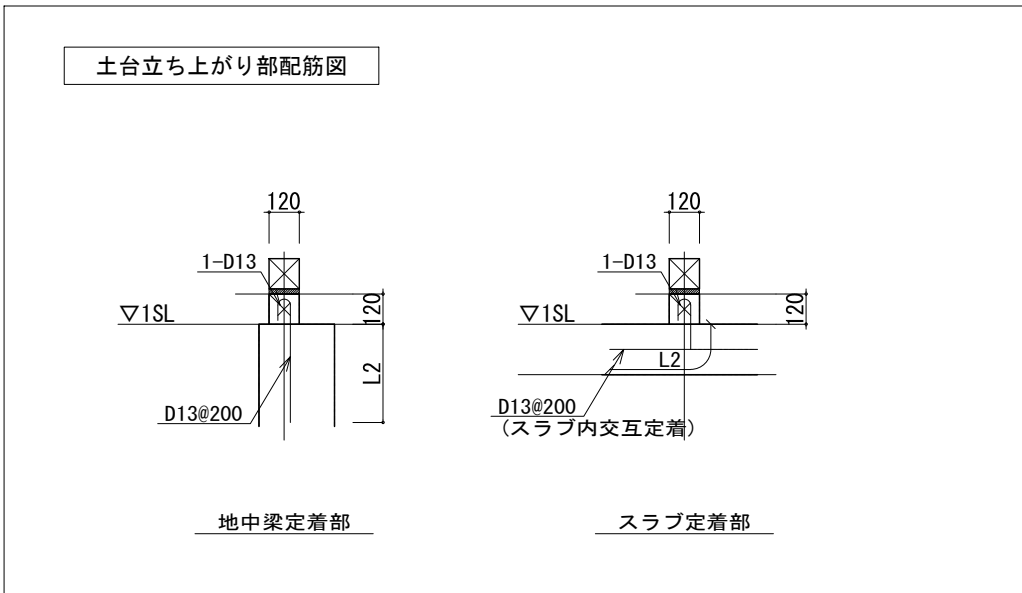
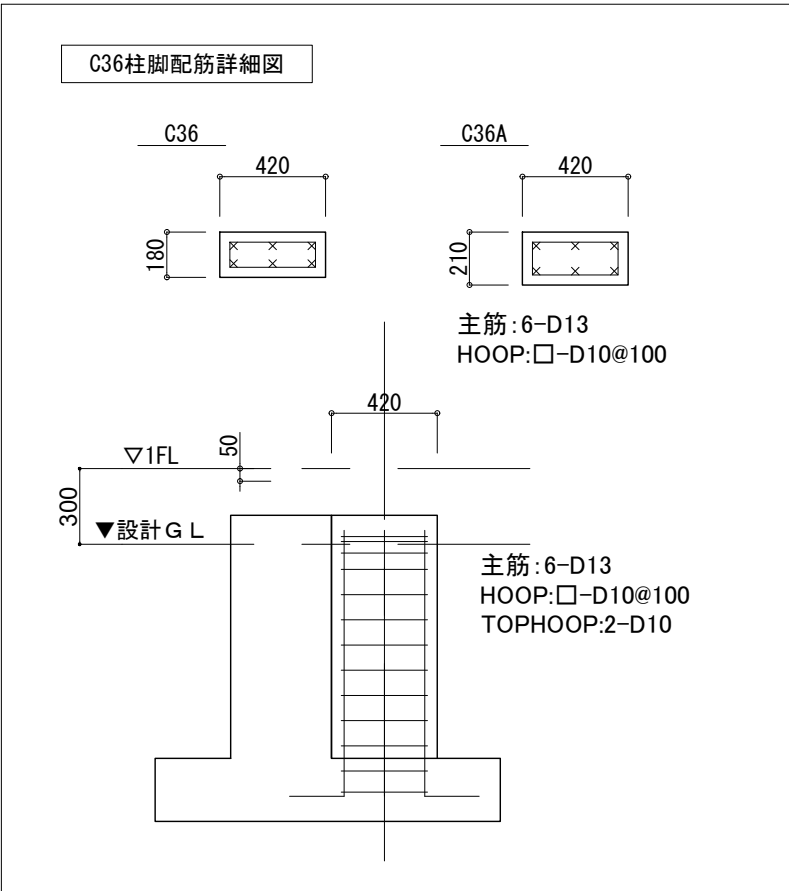
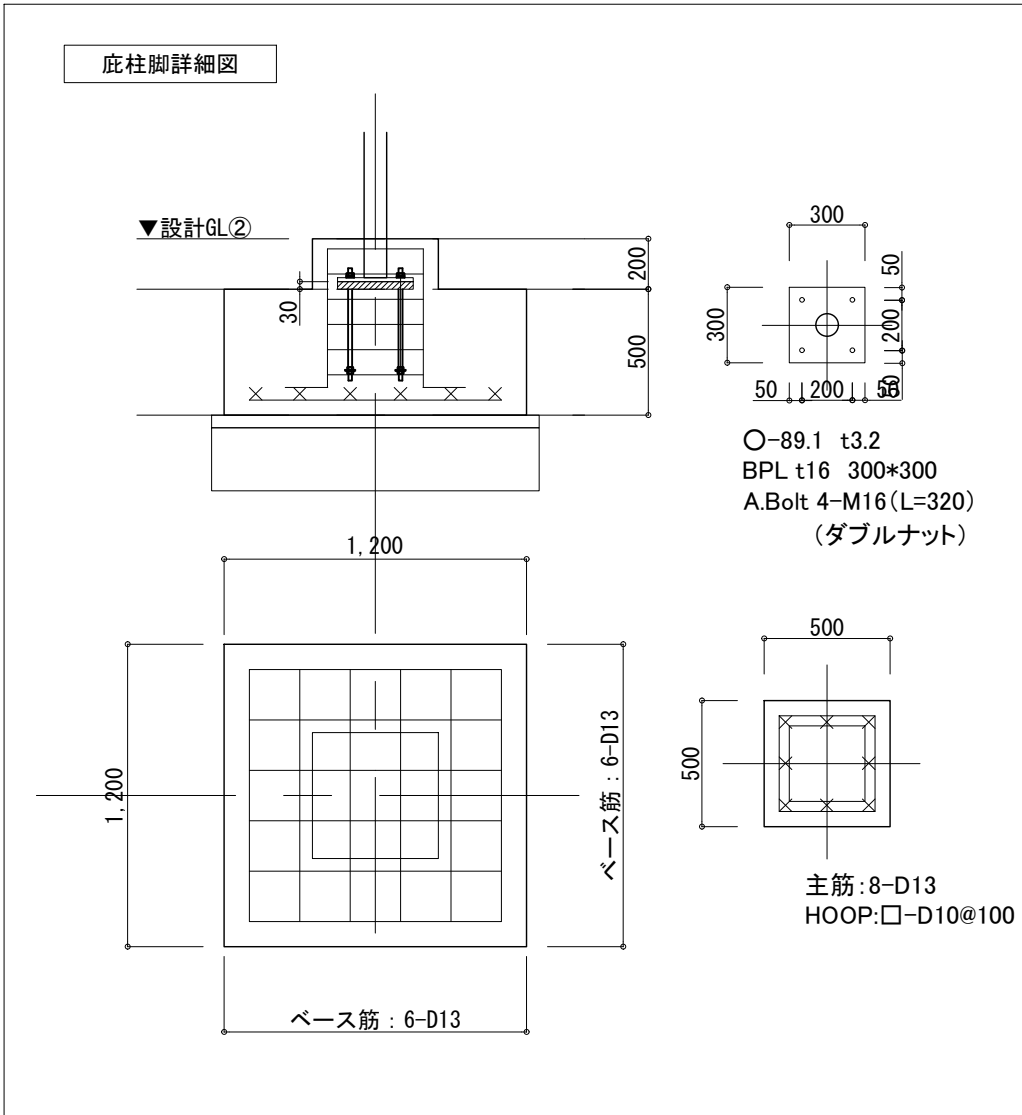
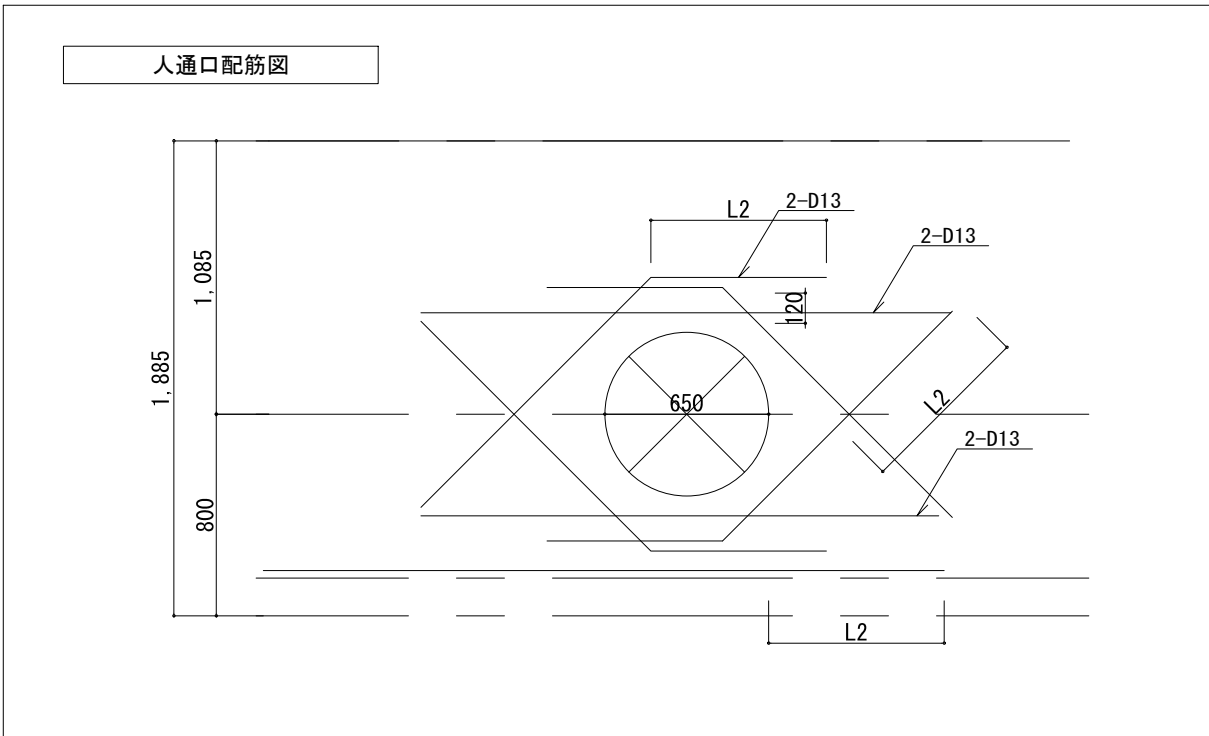
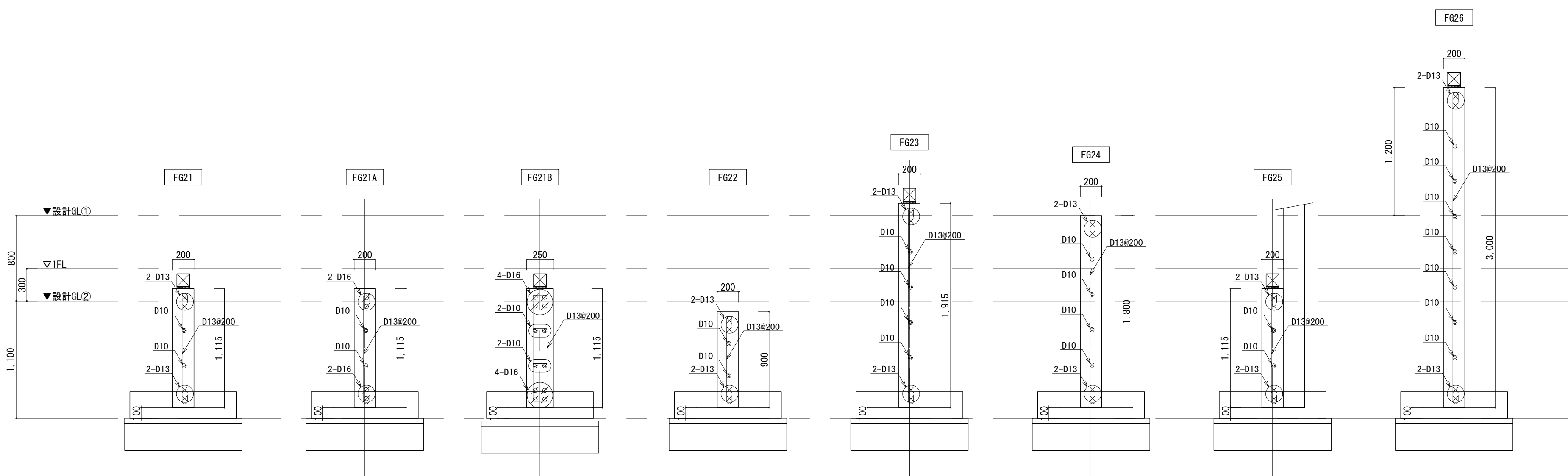
小梁リスト

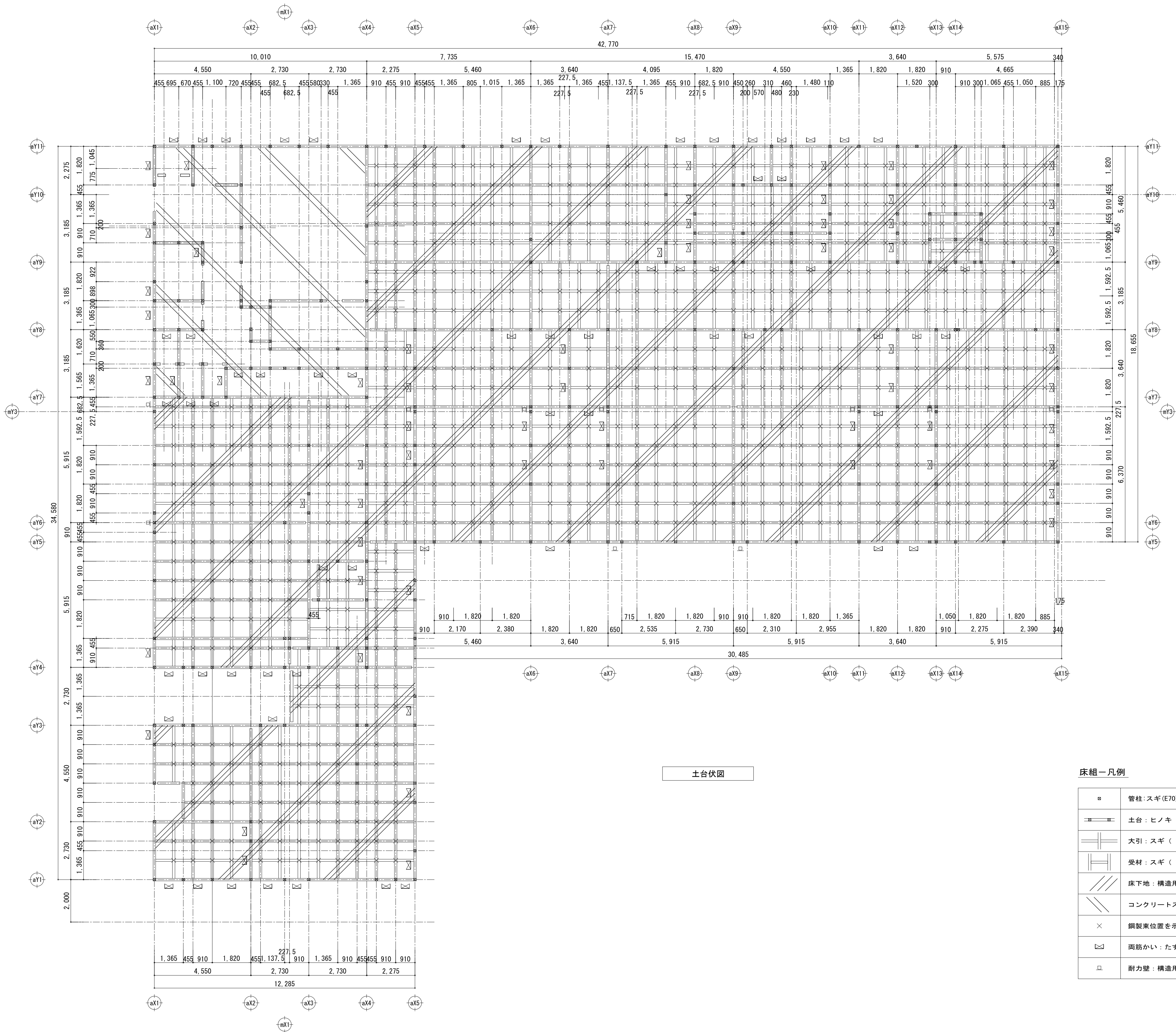
符号	B1	B2	B21	B22
断面名	全断面	全断面	全断面	全断面
断面				
コンクリート	300x500	300x500	300x500	300x500
上端筋	3-D16	3/2-D16	3/2-D16	3/3-D16
下端筋	3-D16	3-D16	3/2-D16	3/3-D16
スターラップ	☐ D13#200	☐ D13#200	☐ D13#200	☐ D13#200

スラブリスト

特記なき限り 施工上の理由で配筋UPすることは監理者に報告の上よしとする

符 号	厚 さ	位 置	主 力 方 向	配 力 方 向	備 考
S20	200	上端筋	D13 #200	D13 #200	土圧受け用 スラブ
		下端筋	D13 #200	D13 #200	
S25	250	上端筋	D13 #200	D13 #200	
		下端筋	D13 #200	D13 #200	
S25A	250	上端筋	D19 #100	D13 #100	
		下端筋	D19 #100	D13 #100	
土間	150		D13 #200	D13 #200	

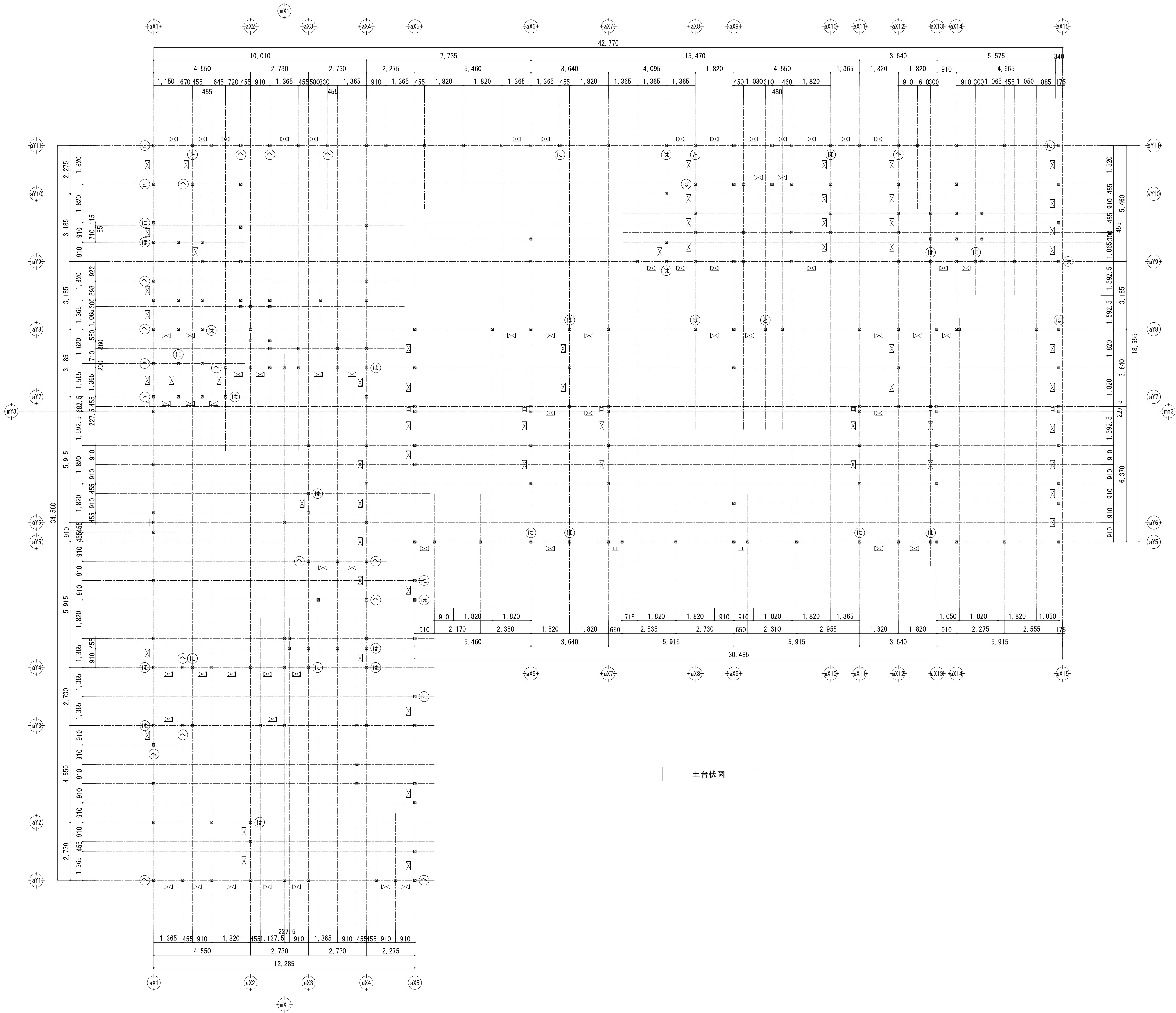




土台伏図

床組一凡例

■	管柱:スギ(E70) (120 x 120) ※C15 (150 x 150) 、C18(120 x 180)
▬	土台:ヒノキ (120 x 120) ※ハッチ部は基礎立ち上がり部を示す。
▬▬	大引:スギ (105 x 105)
▬▬▬	受材:スギ (105 x 105)
▬▬▬▬	床下地:構造用合板, 1類1級以上, 厚24mm (鉄丸釘 N75 @150:四周釘打ち), F☆☆☆☆
▬▬▬▬▬	コンクリートスラブ: S20 (t200, D13@200W(タテヨコ共))
×	鋼製束位置を示す。
⊠	両筋かい: たすき掛け、90x90以上 (各々、端部仕口には BP-2、BP-2同等品)を使用すること。
□	耐力壁: 構造用パネルOSB t9 N50@150mm



柱・筋交い伏図ー凡例

⊞	管柱：特記無き限り、120x120
⊞	面筋かい(2段)：たすき掛け、90x90以上（各々、端部仕口には ヘキサプレートSD(タナカ)同等品)を使用すること。
※筋交い：スギ（節、反り、ひび割れ等、欠陥の無いもの）	
□	耐力壁（構造用パネルOSB t9 N50ø150mm ）
□	耐力壁（構造用パネルOSB t9 N50ø150mm（両面））

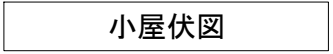
柱頭・柱脚金物 凡例

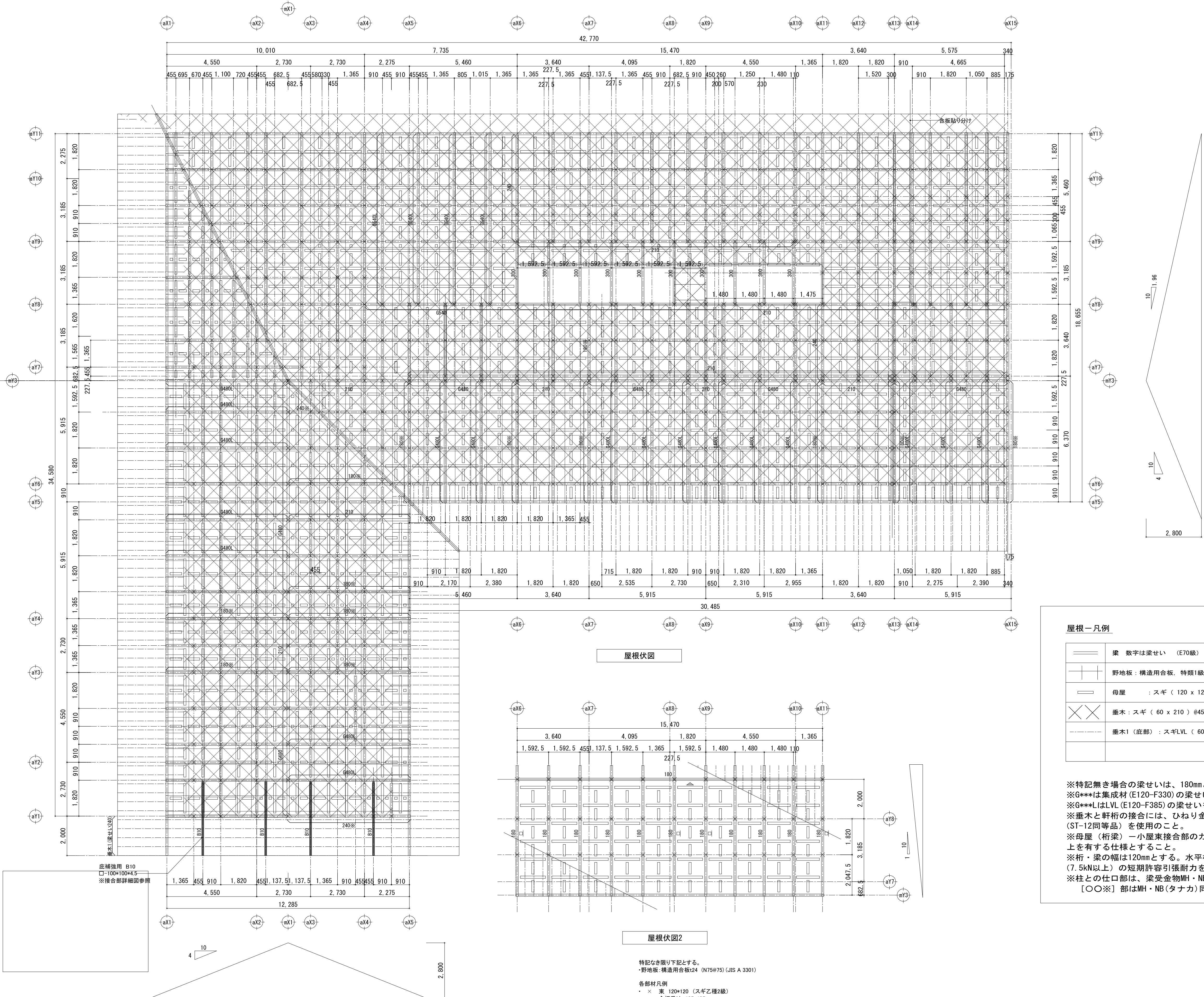
仕 様	記号	Ta (kN)
CP-L 同等品	㊦	3.38
長ぼぞ差し込み栓打 同等品		3.81
CP-T 同等品	㊨	5.07
山形プレート 同等品		5.88
羽子板ボルト 同等品	㊩	7.50
短冊金物 同等品		7.50
スクリーー釘併用羽子板ボルト 同等品	㊪	8.50
スクリーー釘併用短冊金物 同等品		8.50
10kN 引き寄せ金物 同等品	㊫	10.00
15kN 引き寄せ金物 同等品	㊬	15.00
20kN 引き寄せ金物 同等品	㊭	20.00
25kN 引き寄せ金物 同等品	㊮	25.00
15kN 引き寄せ金物×2 同等品	㊯	30.00

Ta (kN)：接合部の許容引張耐力

※記載無きところは、㊦以上とする。

※使用する金物は、C、Zマーク表示金物等、品質性能が
明らかなものを使用すること。





屋根一凡例

	梁 数字は梁せい (E70級)
	野地板：構造用合板 特類1級以上、厚24mm (鉄丸釘 N75-φ150:四周釘打ち)、F☆☆☆☆
	母屋 スギ (120 x 120) ※部材長≒1820 @910
	垂木：スギ (60 x 210) @455 構造用合板 12mm、N50-φ150以下
	垂木1 (底部)：スギLVL (60 x 210) @455

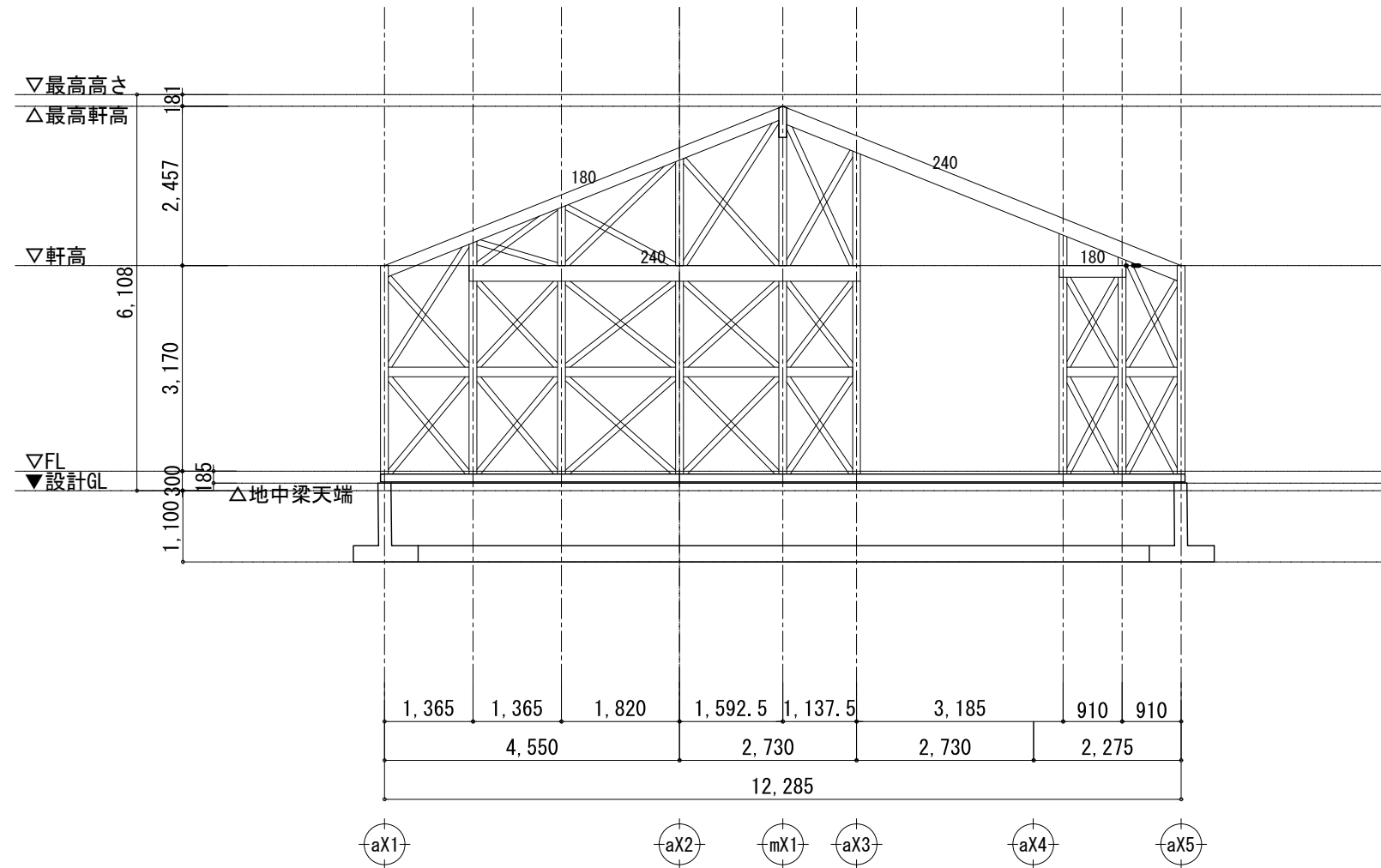
※特記無き場合の梁せいは、180mmとする。
※G***は集成材 (E120-F330)の梁せいを示す。
※G***LはLVL (E120-F385)の梁せいを示す。
※垂木と軒桁の接合には、ひねり金物 (ST-15同等品)を使用のこと。垂木と母屋の接合には、ひねり金物 (ST-12同等品)を使用のこと。
※母屋 (桁梁) 一小屋束接合部のカスガイ打ちは両面ウチ (2本打)とする。または、短期引抜耐力が2160N以上を有する仕様とすること。
※桁・梁の幅は120mmとする。水平構面の横架材の継手・仕口は、羽子板ボルトまたは短冊金本と同等以上 (7.5kN以上)の短期許容引張耐力を有する接合とすること。
※柱との仕口部は、梁受金物MH・NB (タナカ) (同等品)を使用すること。
【○○○】部はMH・NB (タナカ)同等品+羽子板ボルトを使用すること。

屋根伏図

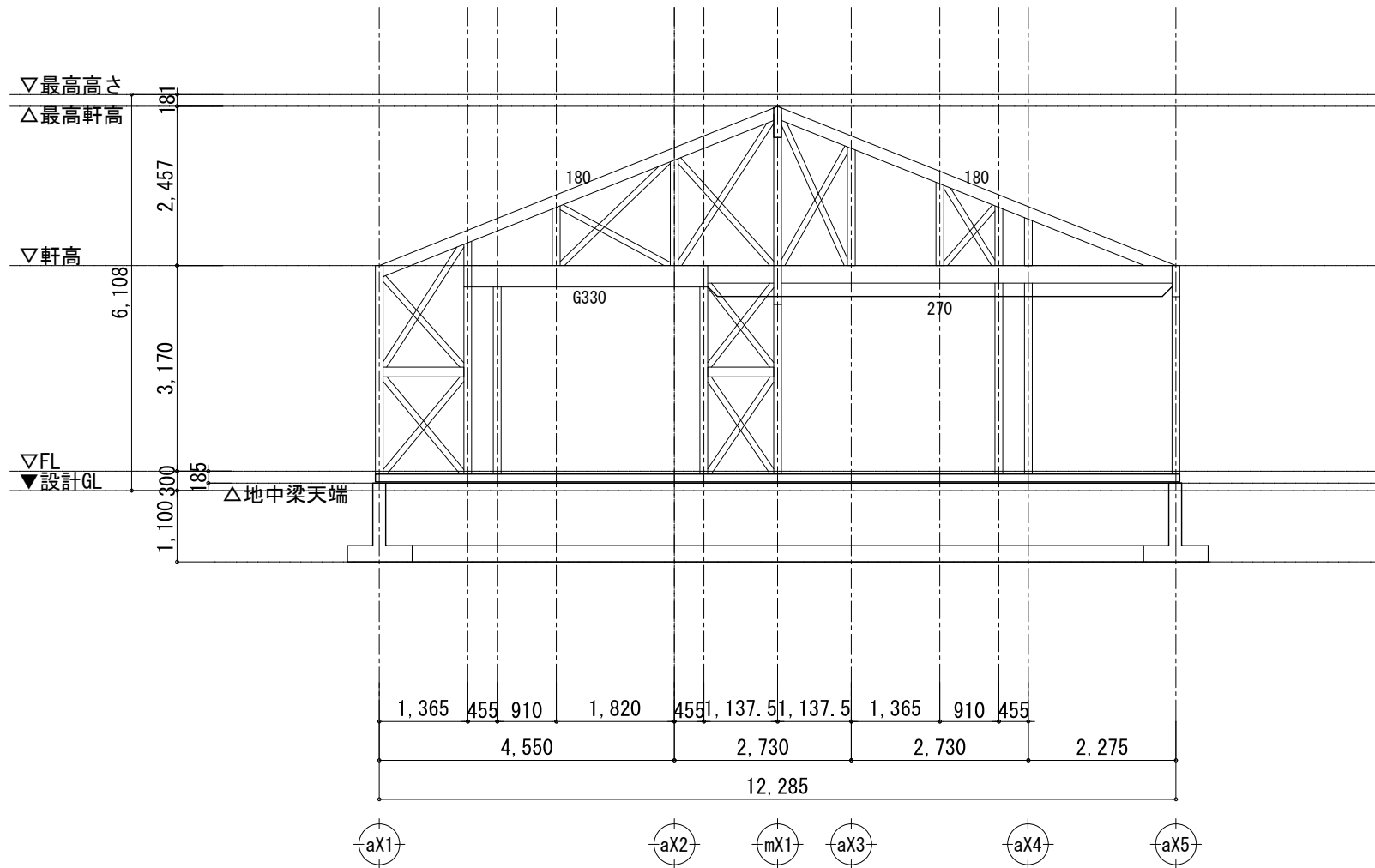
屋根伏図2

特記なき限り下記とする。
・野地板：構造用合板t24 (N75φ75) (JIS A 3301)

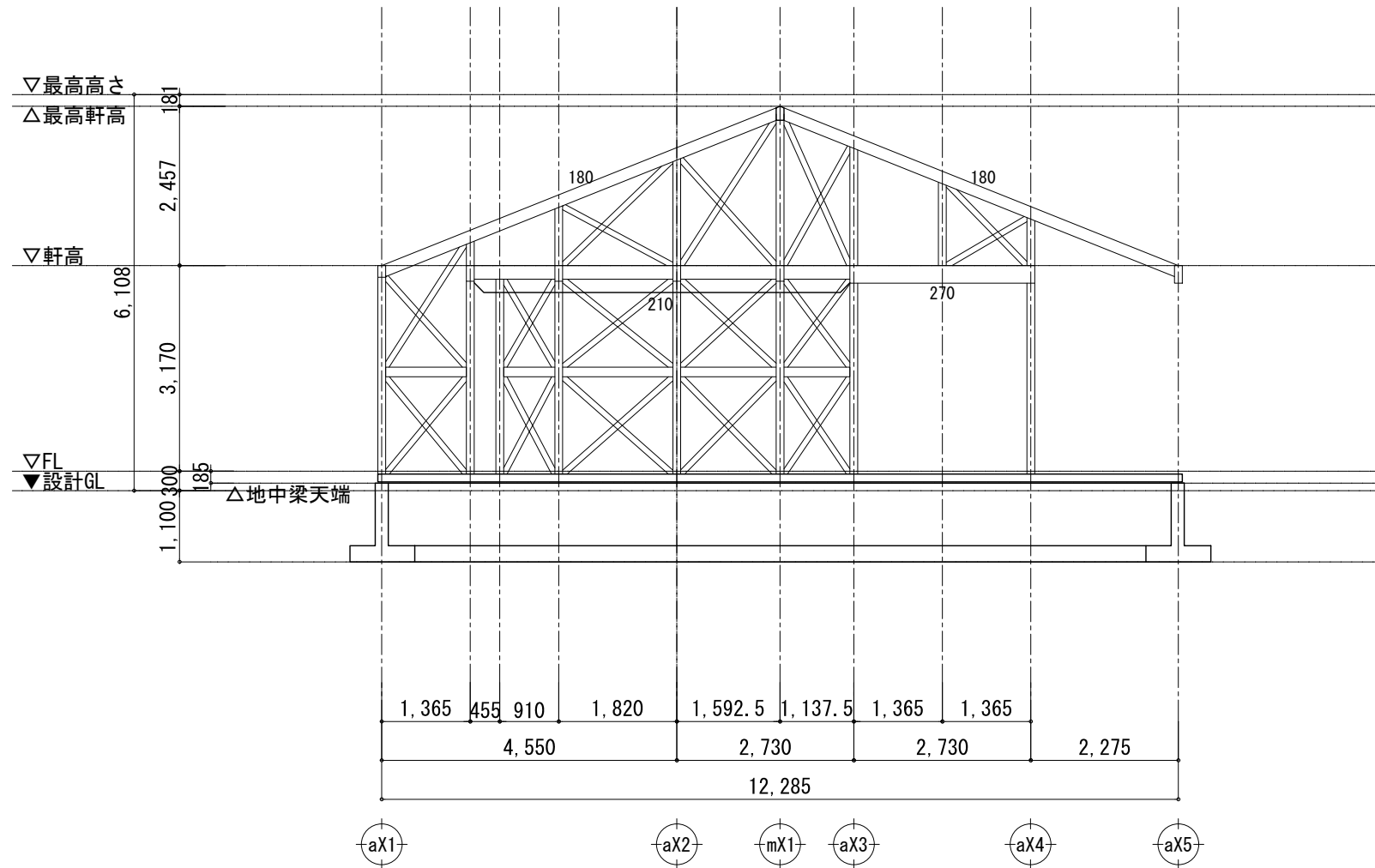
- 各部材凡例
- × 束 120×120 (スギ乙種2級)
 - 合板束け 105×105
 - △ たすき筋かい 45×90 (スギE50)
 - 構造用パネルOSB t9 N50φ150mm
 - 垂木 45×105 (スギE50)



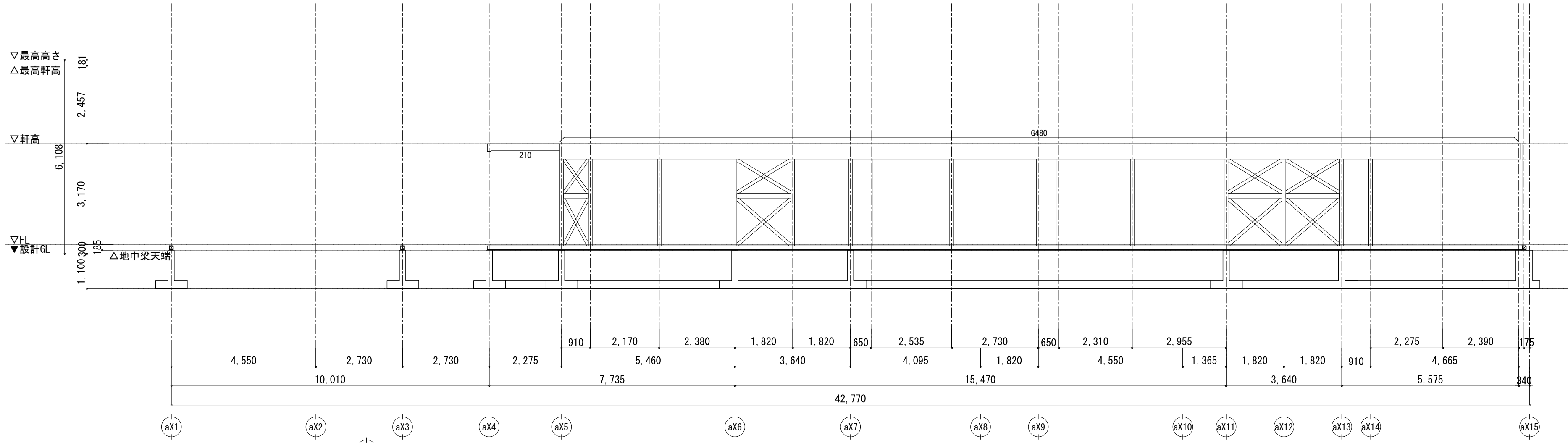
aY1軸組図



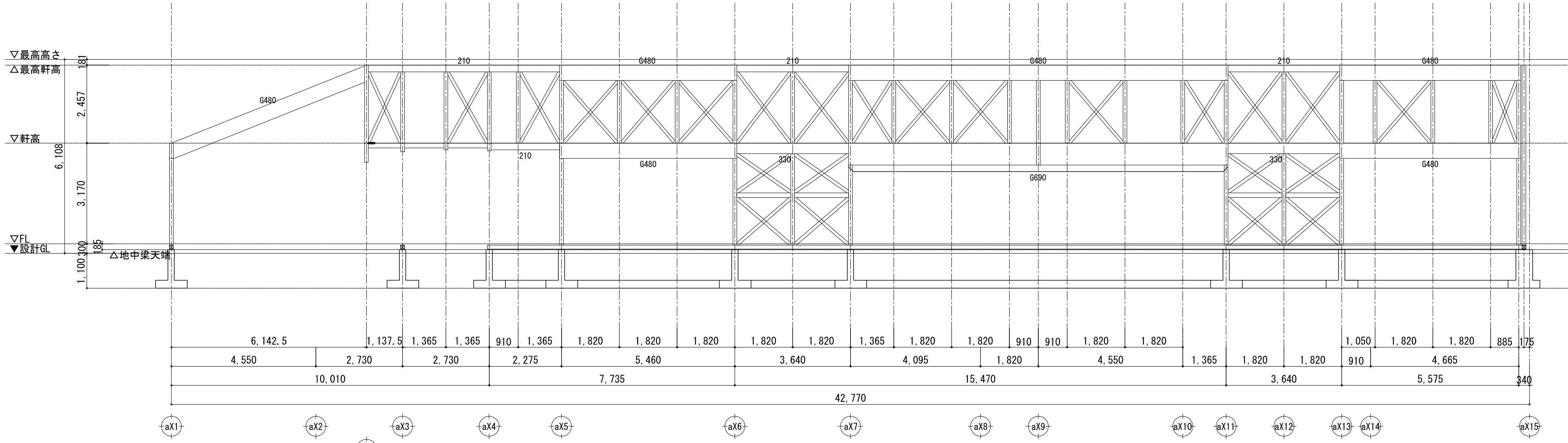
aY3軸組図



aY4軸組図

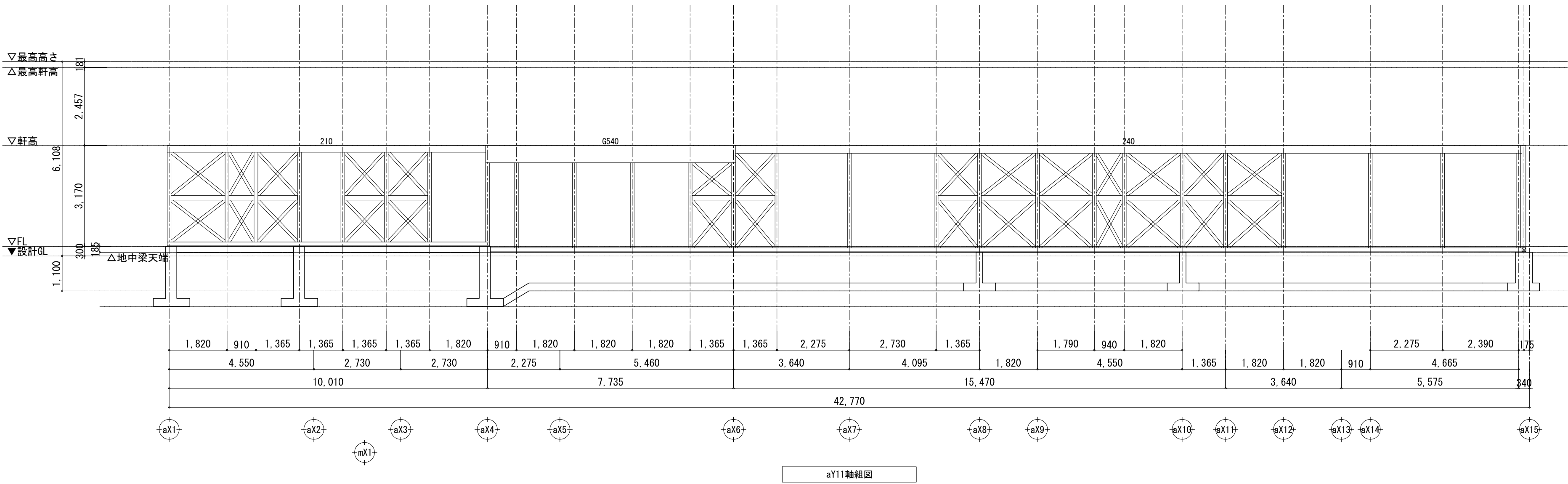
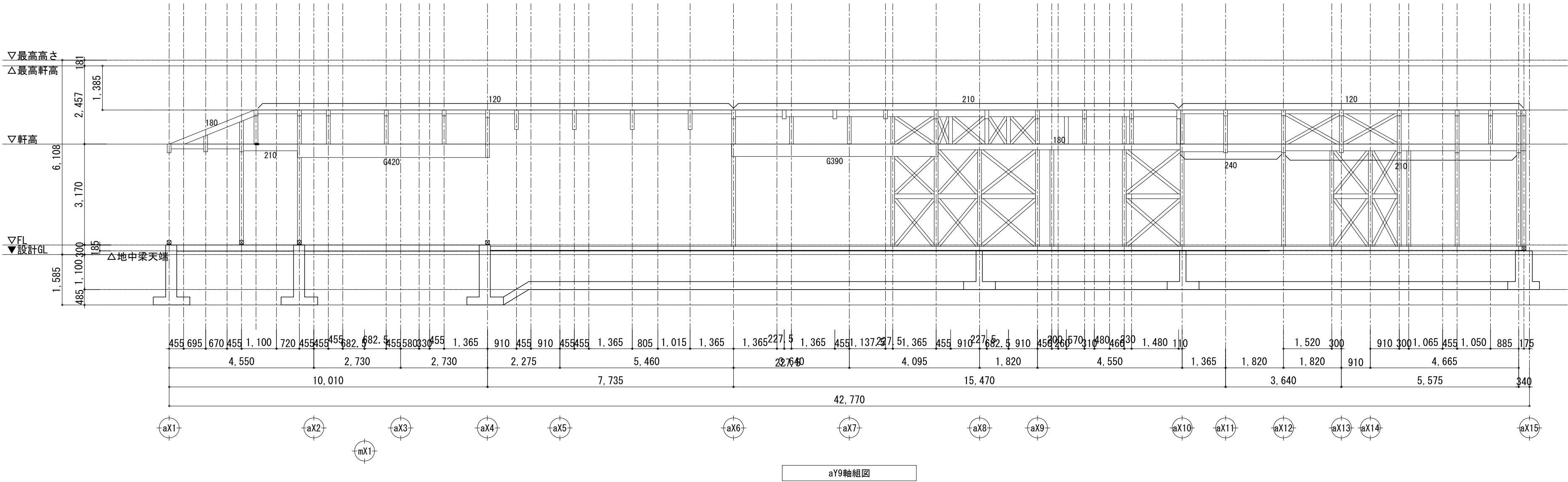
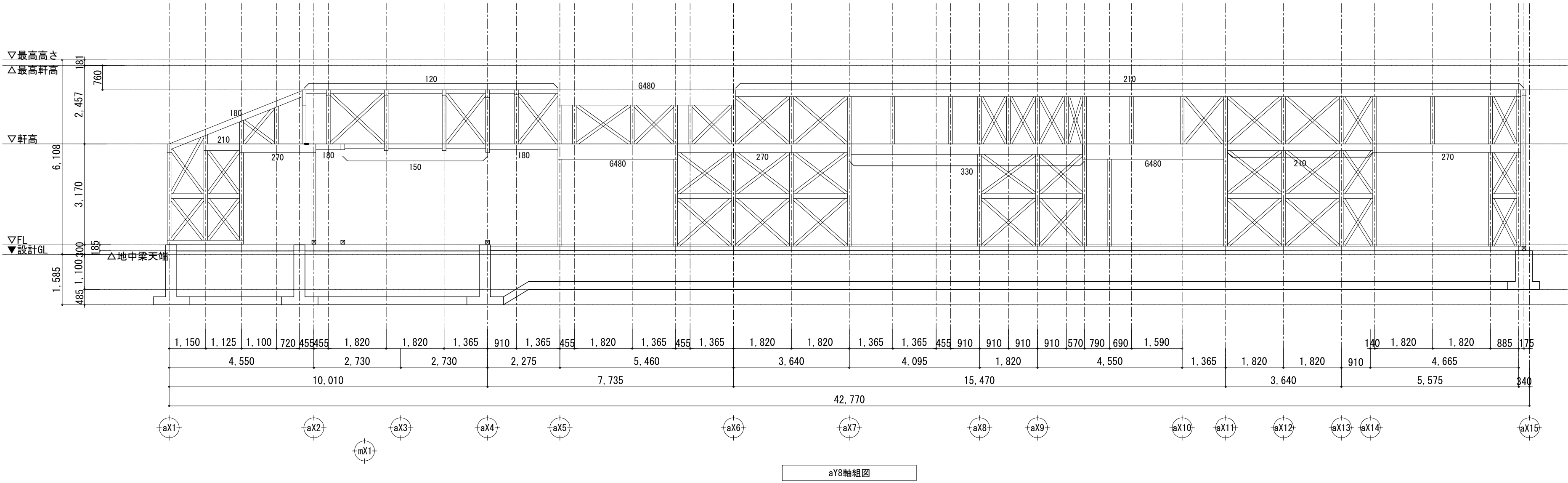


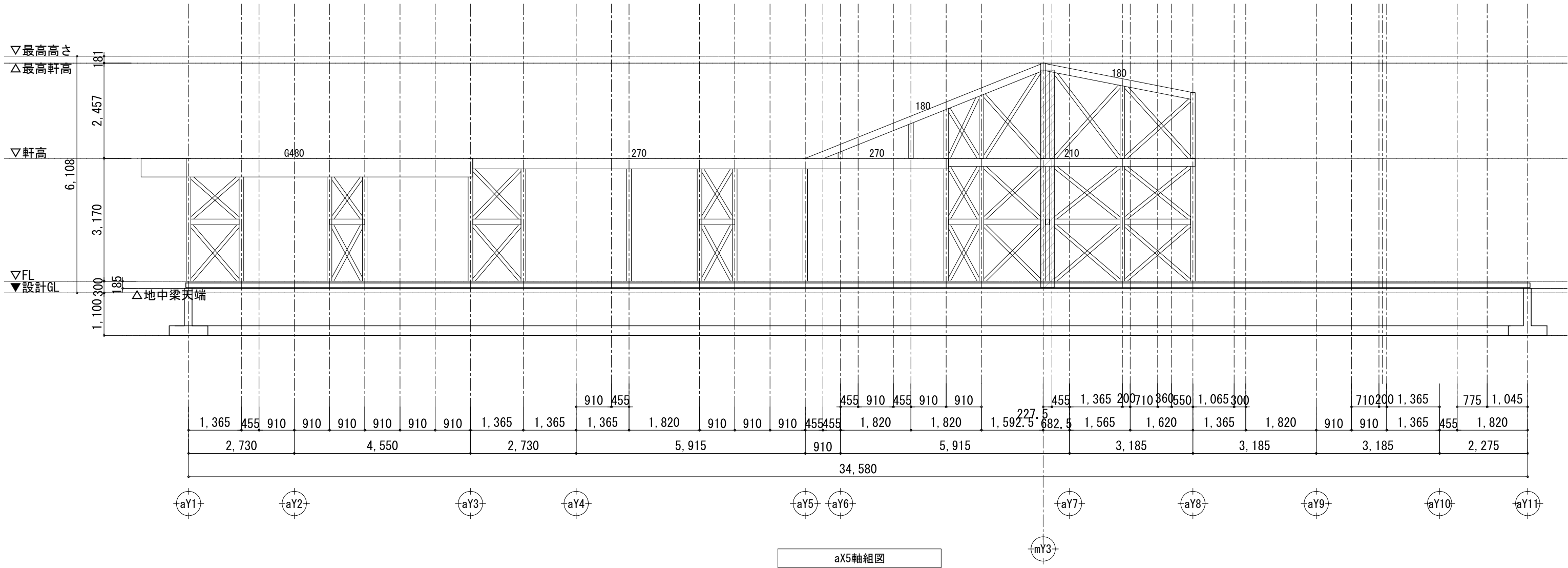
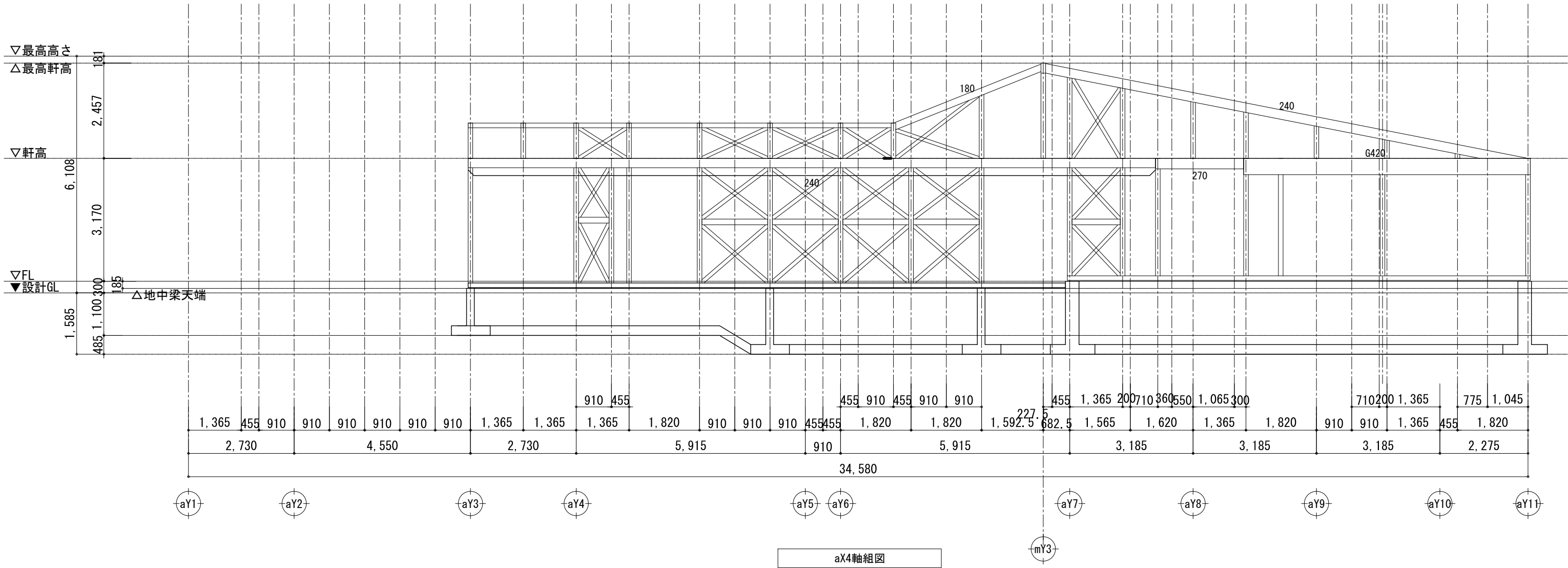
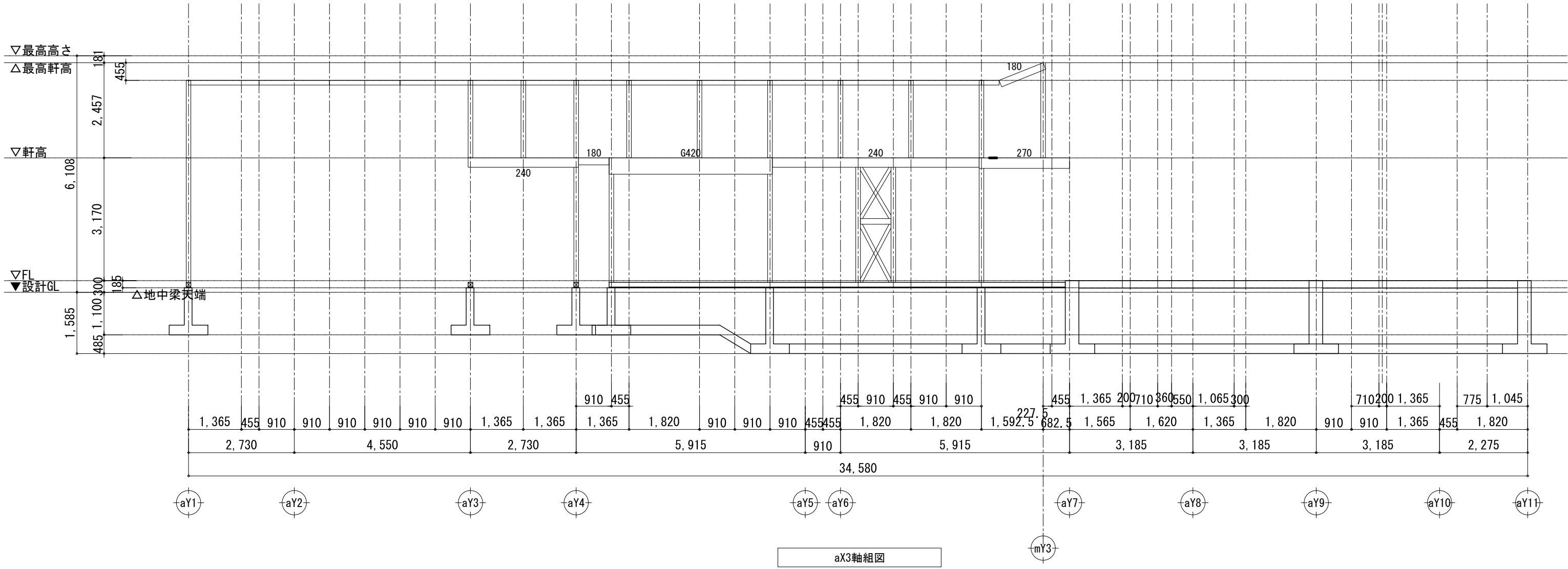
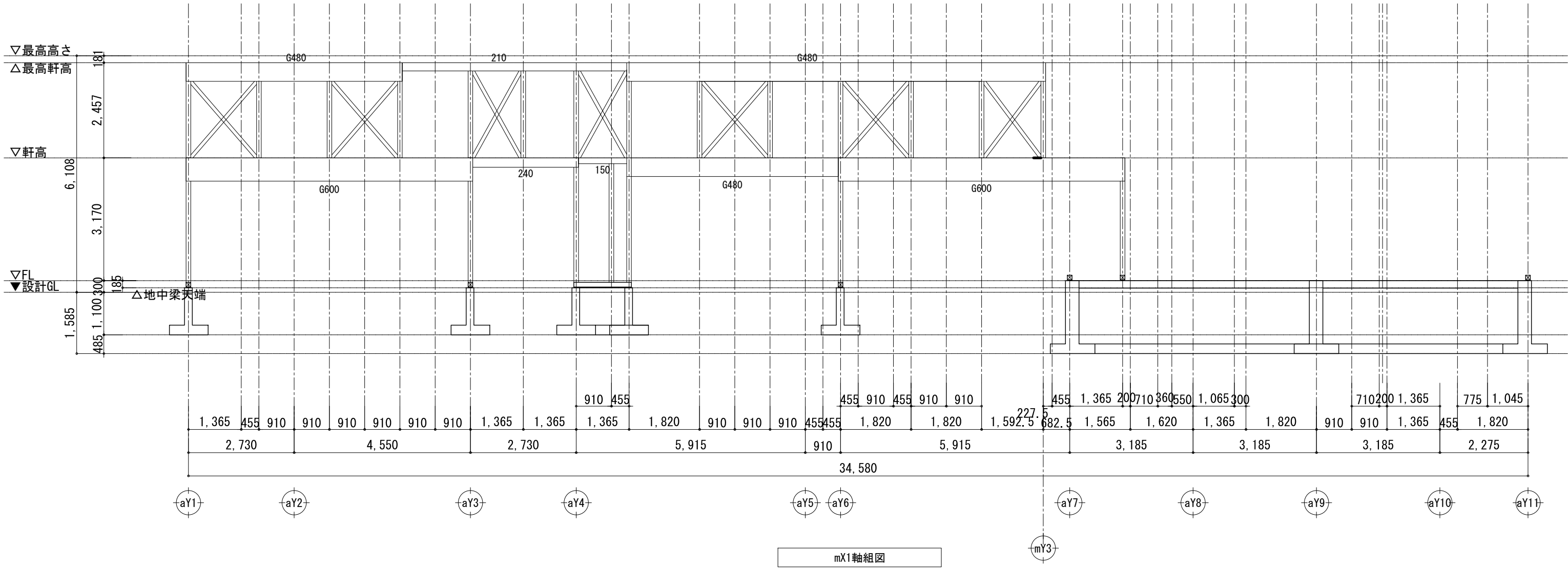
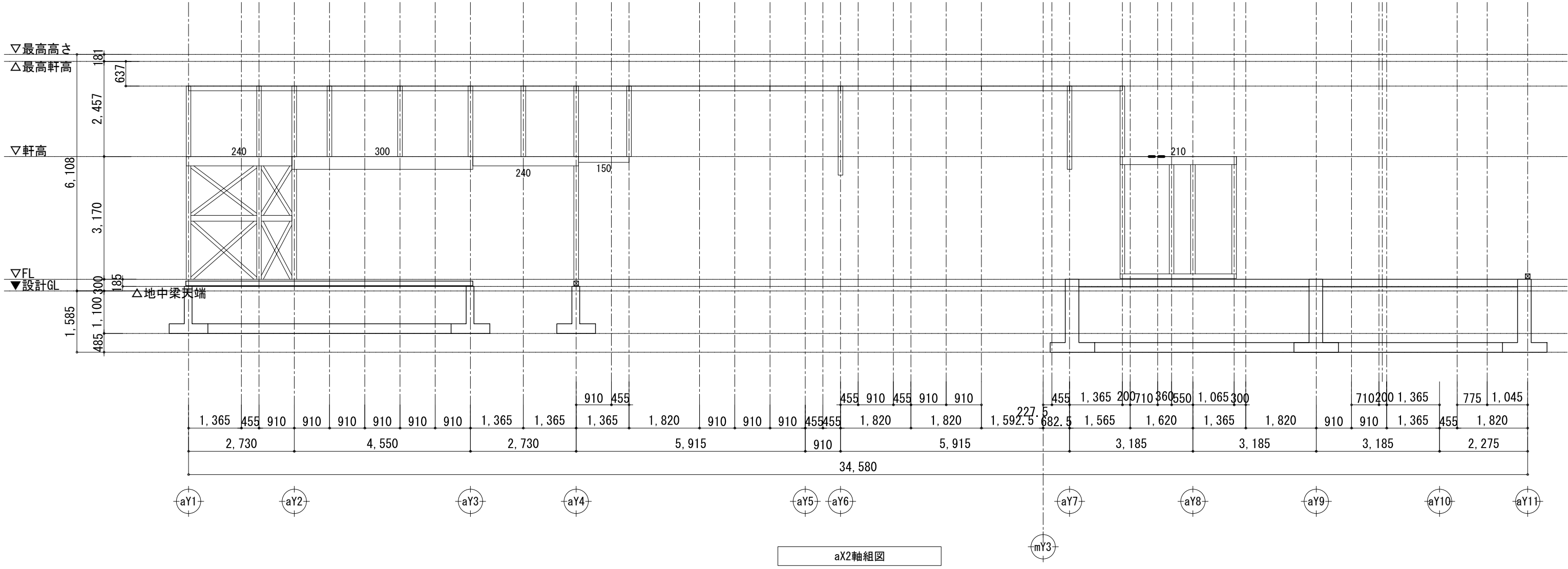
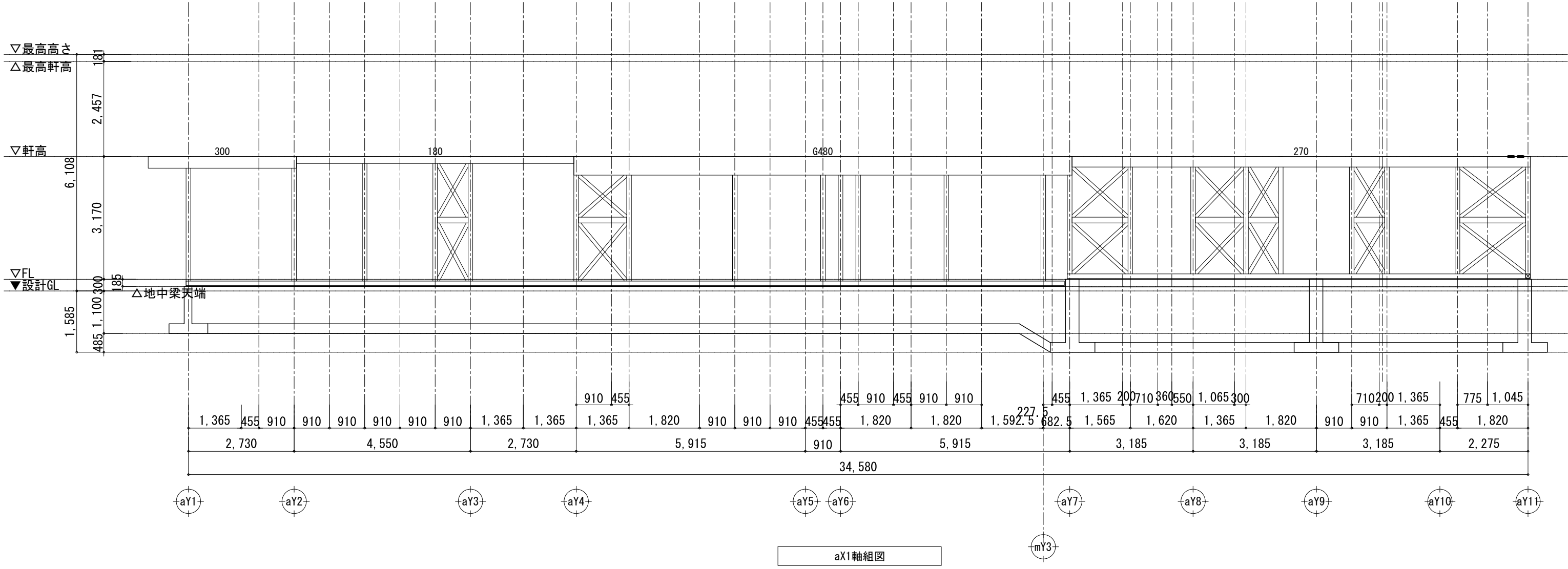
aY5軸組図

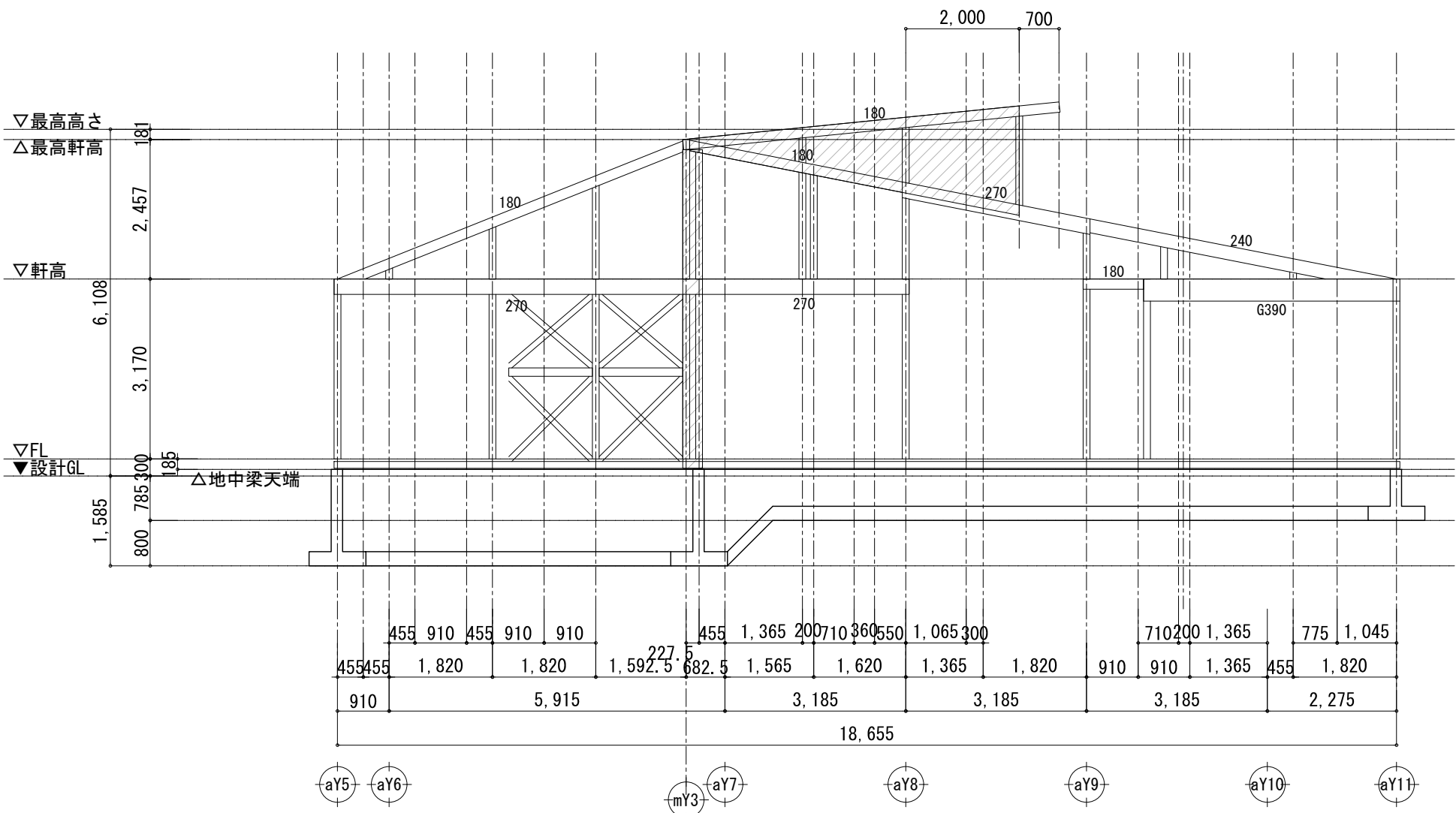


mY3軸組図

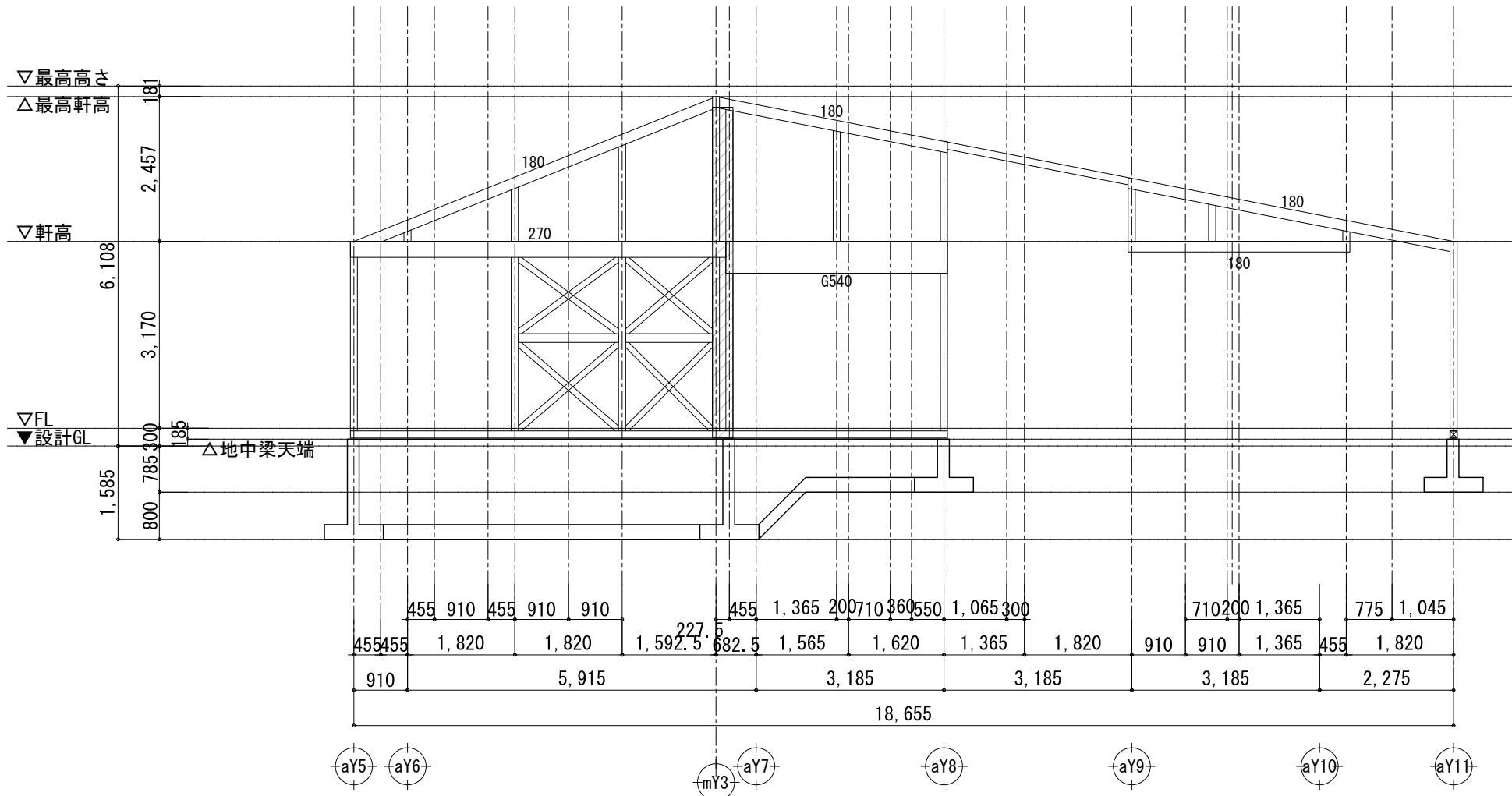




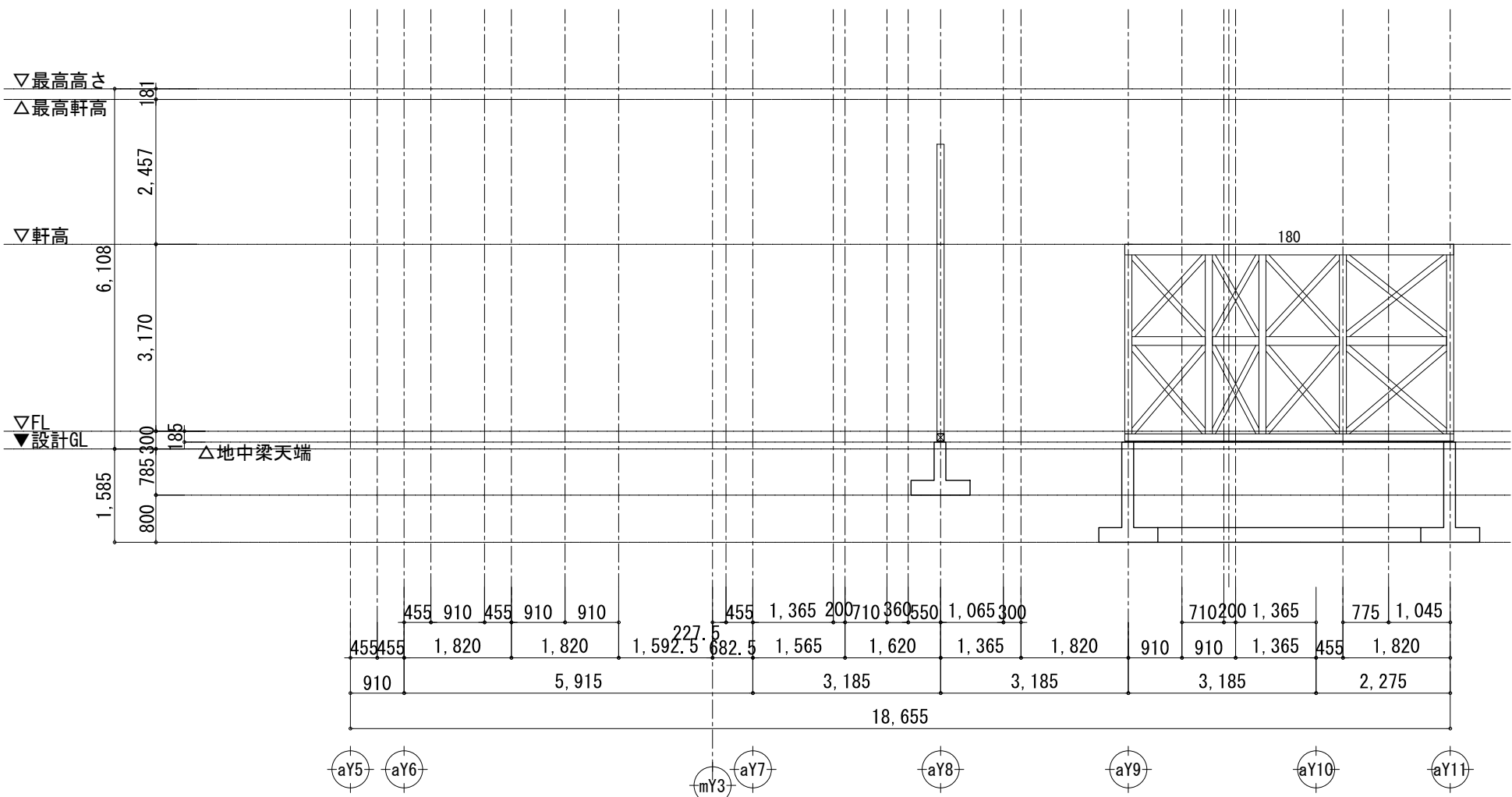




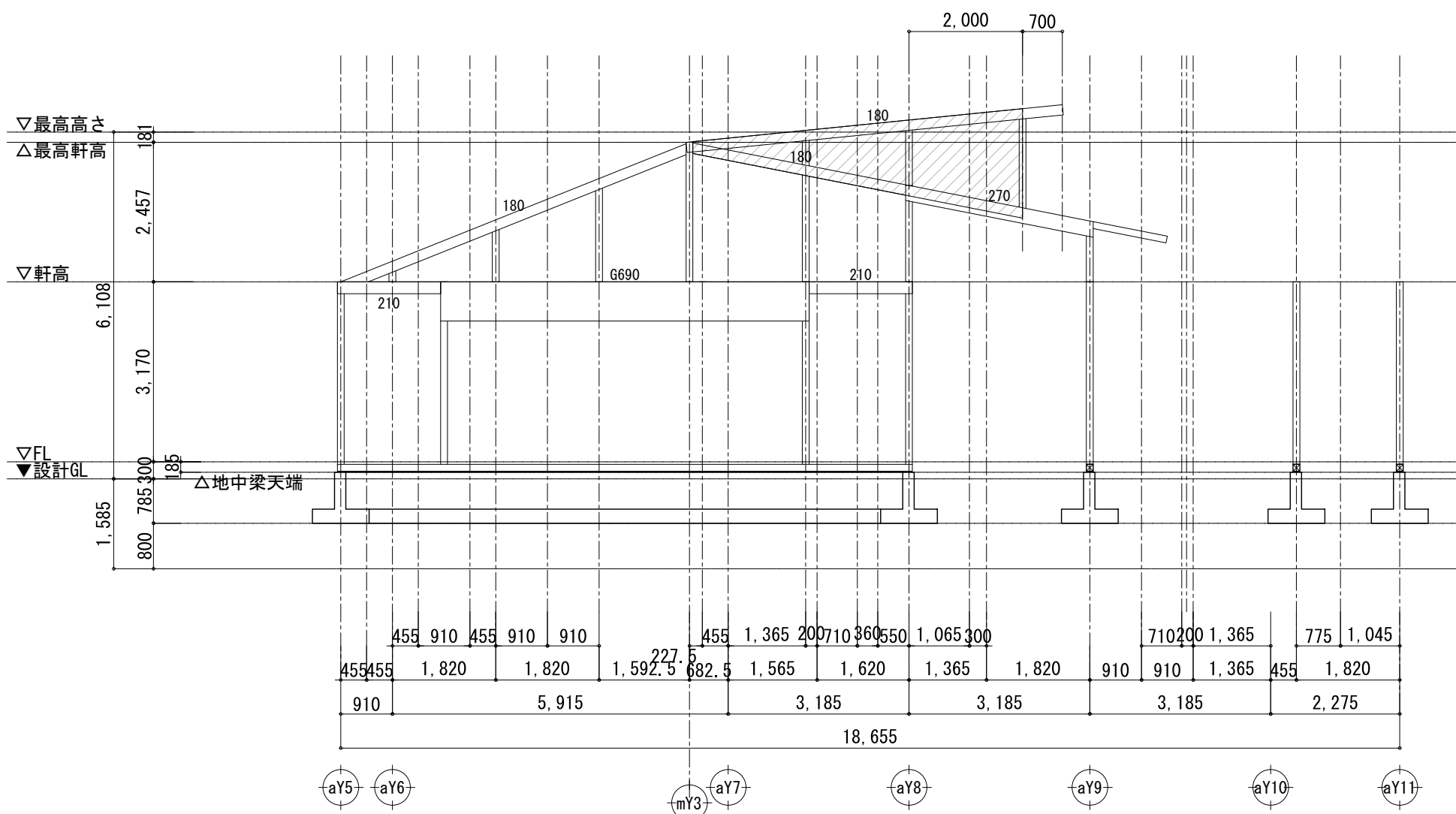
aX6軸組図



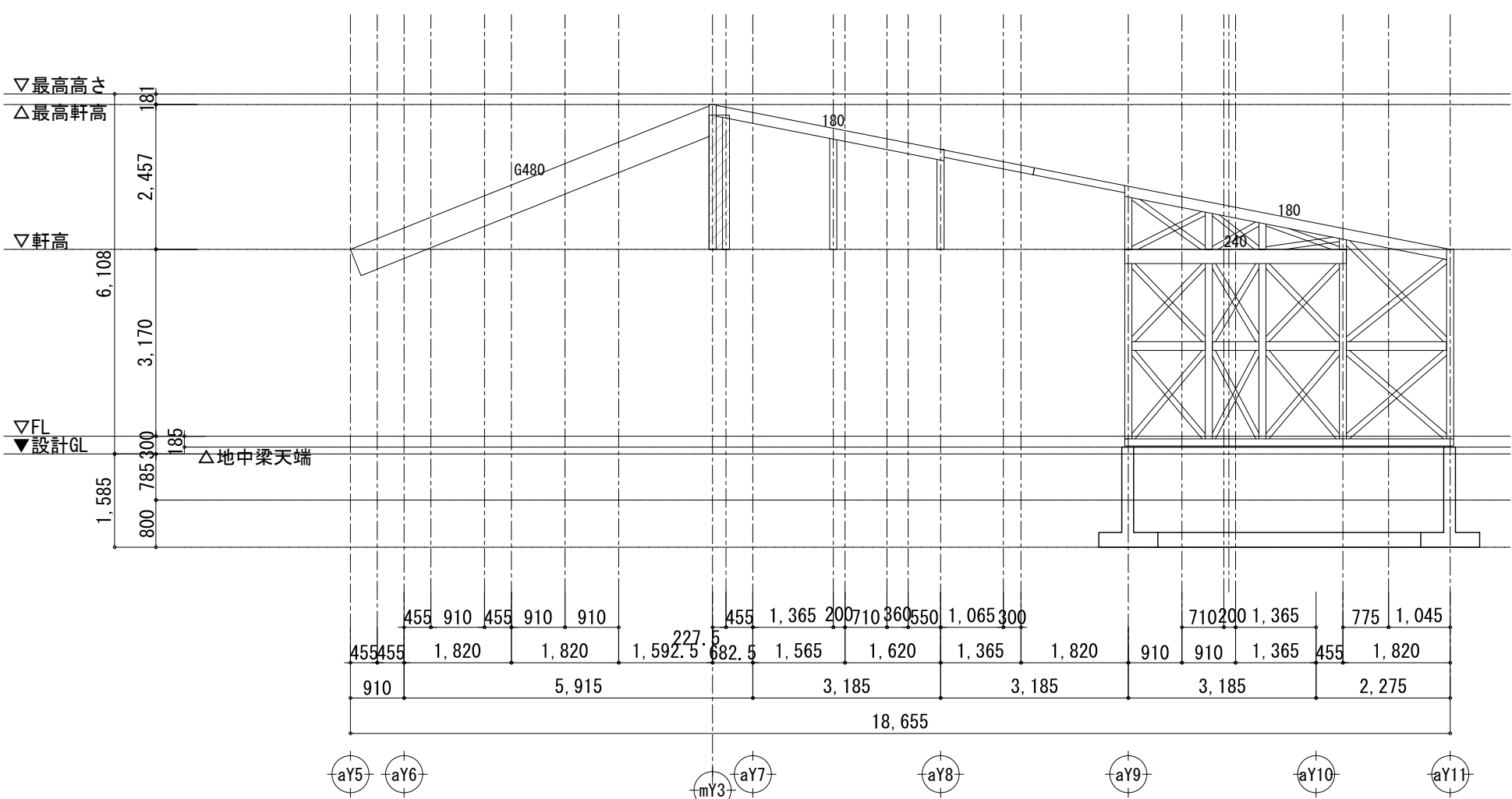
aX7軸組図



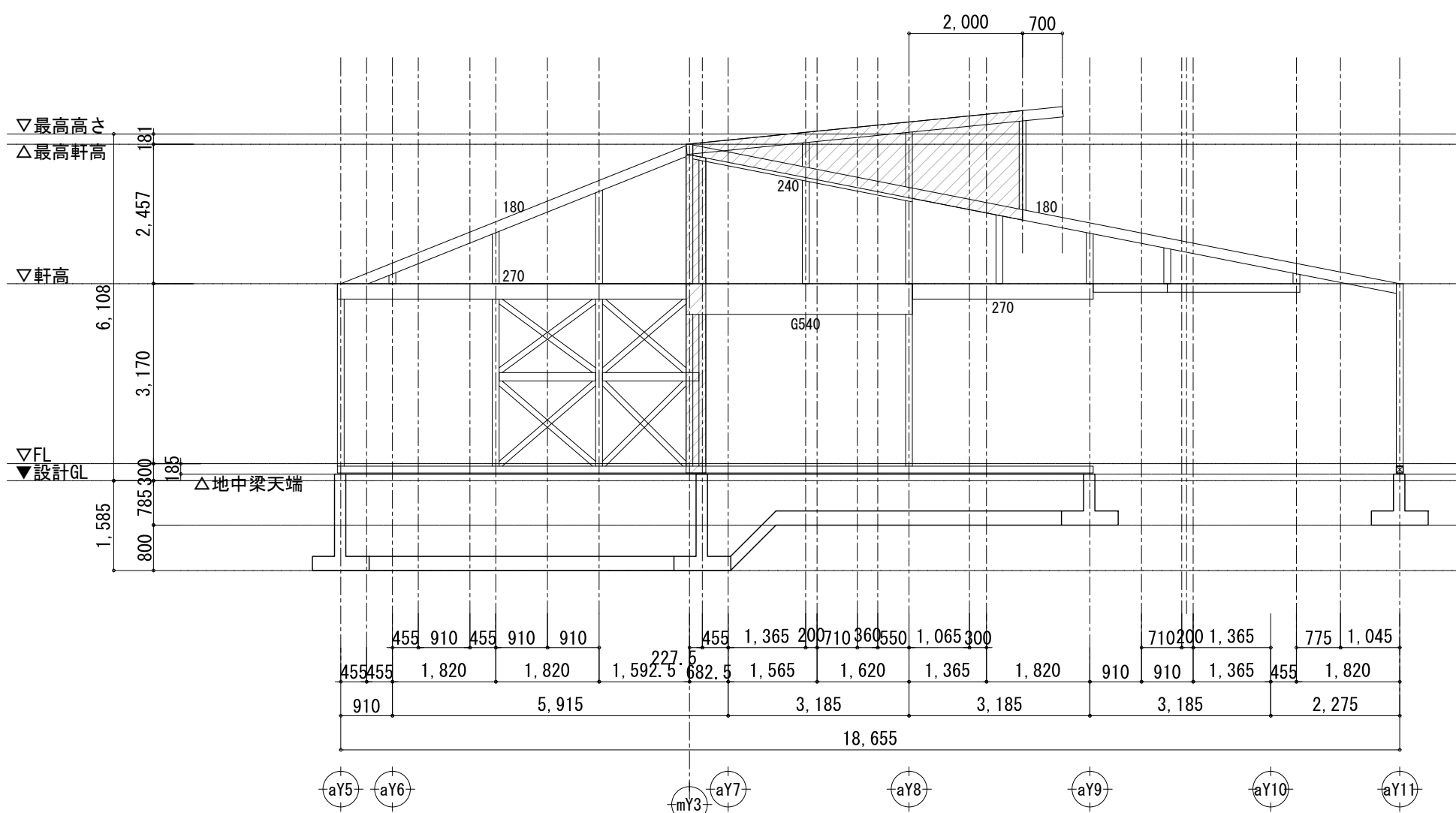
aX8軸組図



aX9軸組図

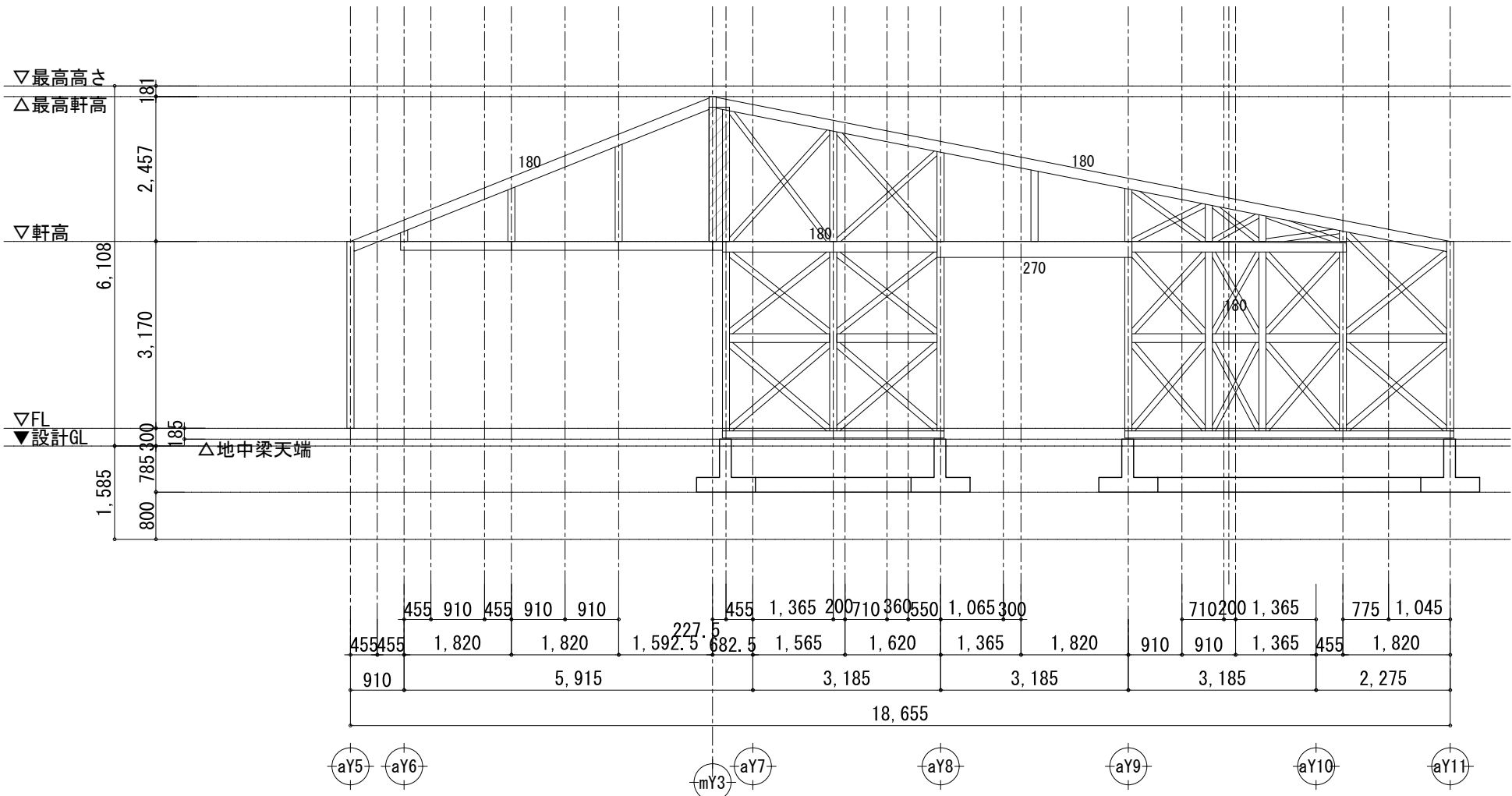


aX10軸組図

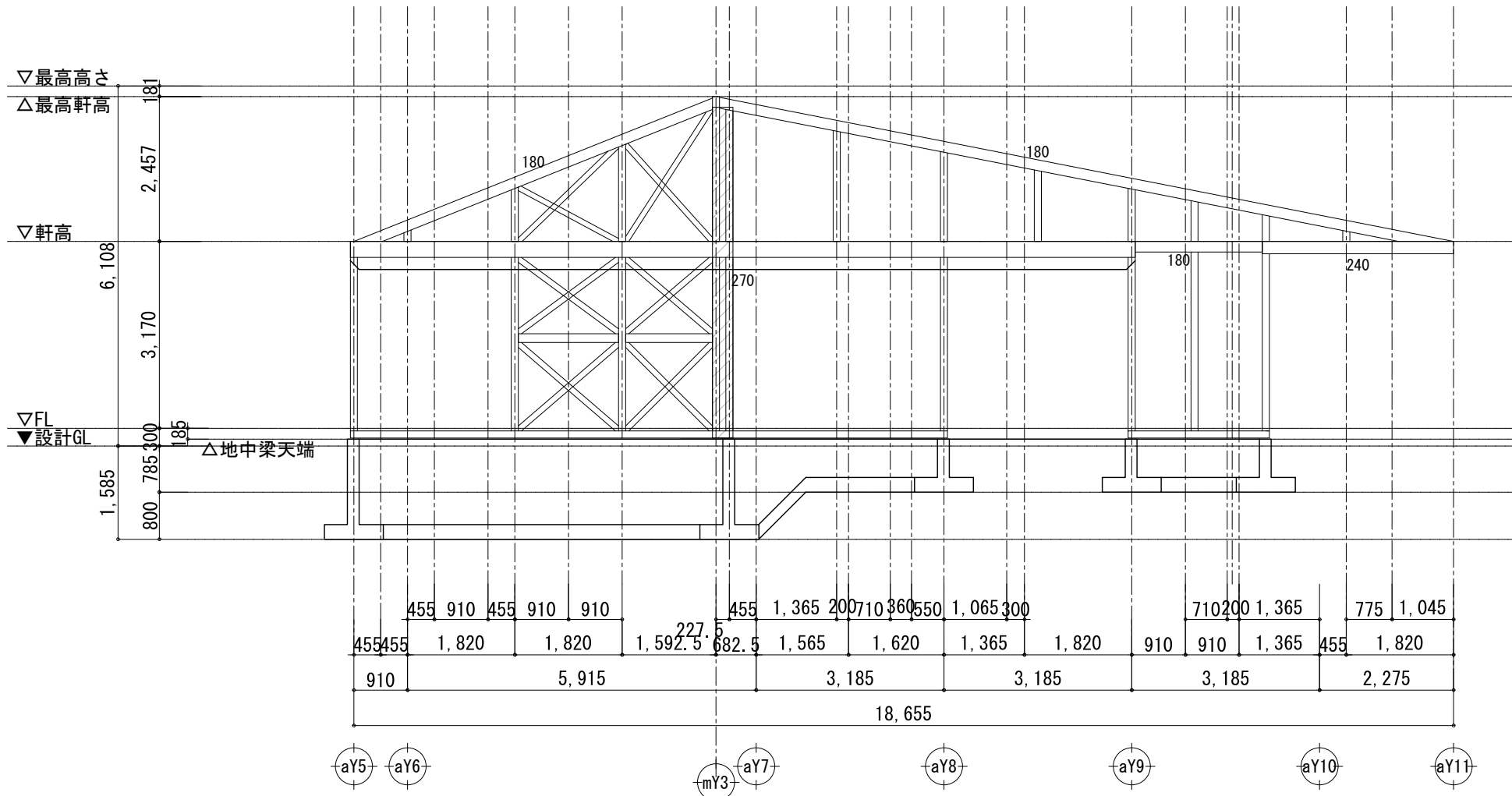


aX11軸組図

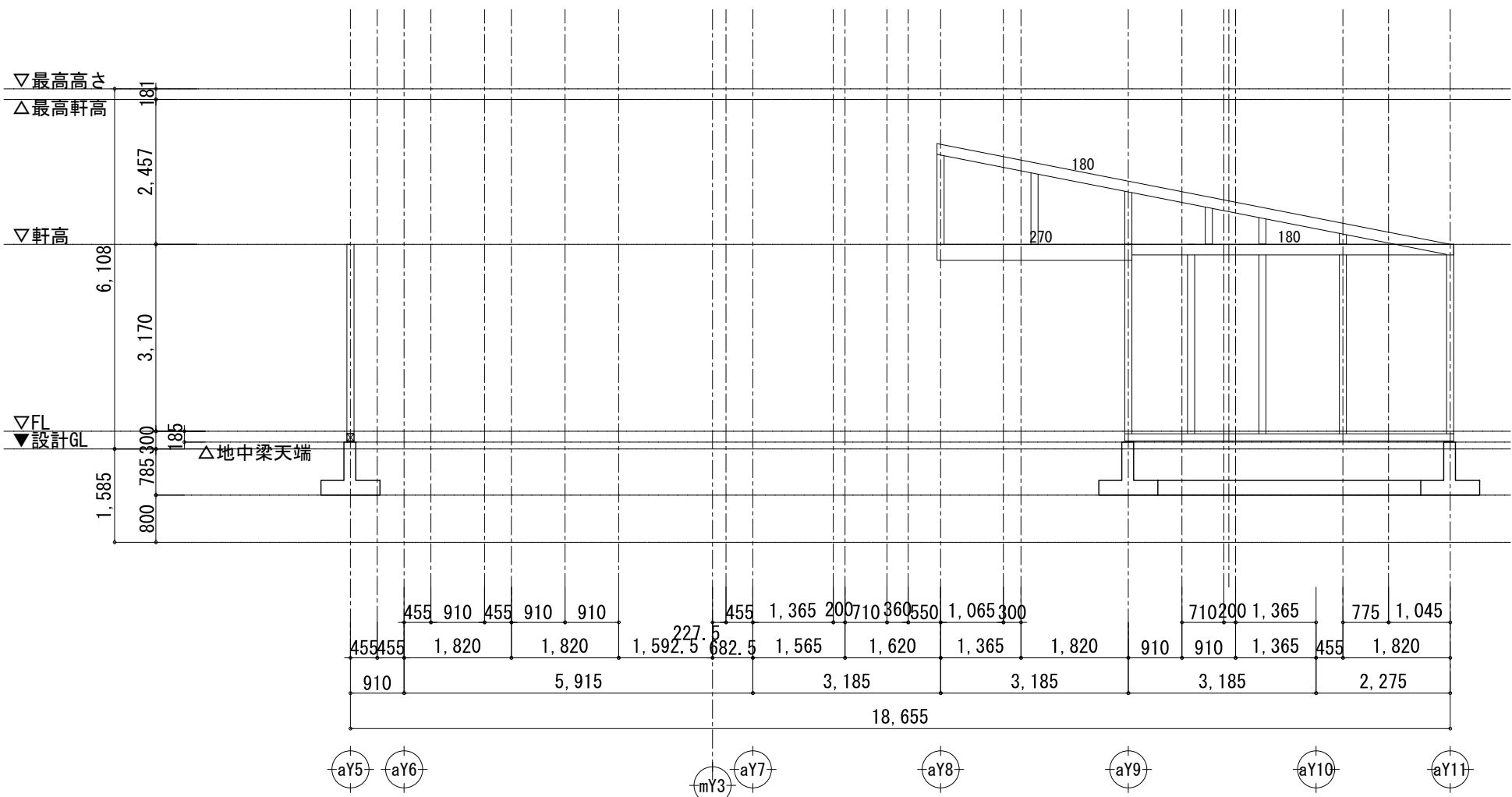




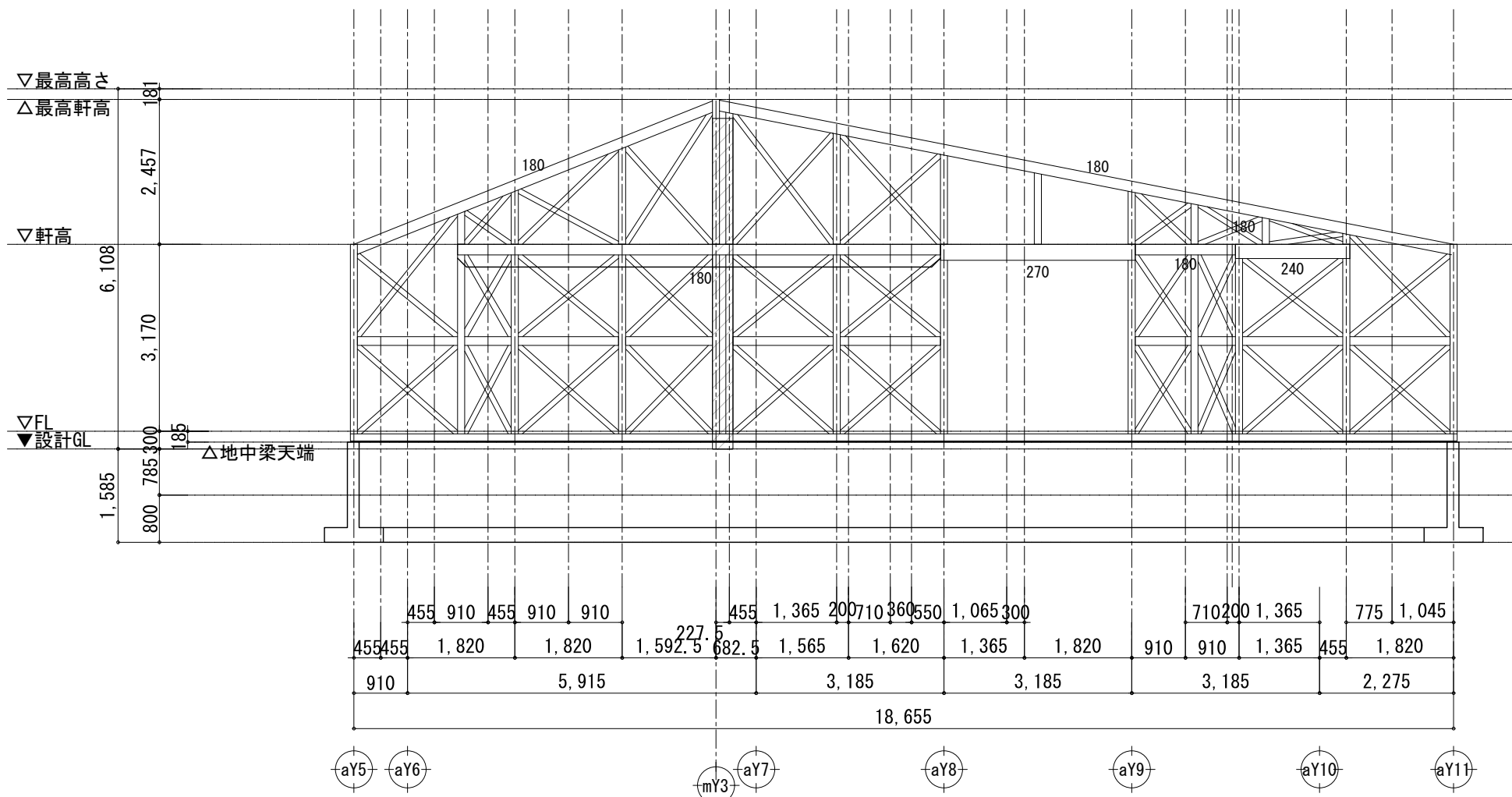
aX12軸組図



aX13軸組図

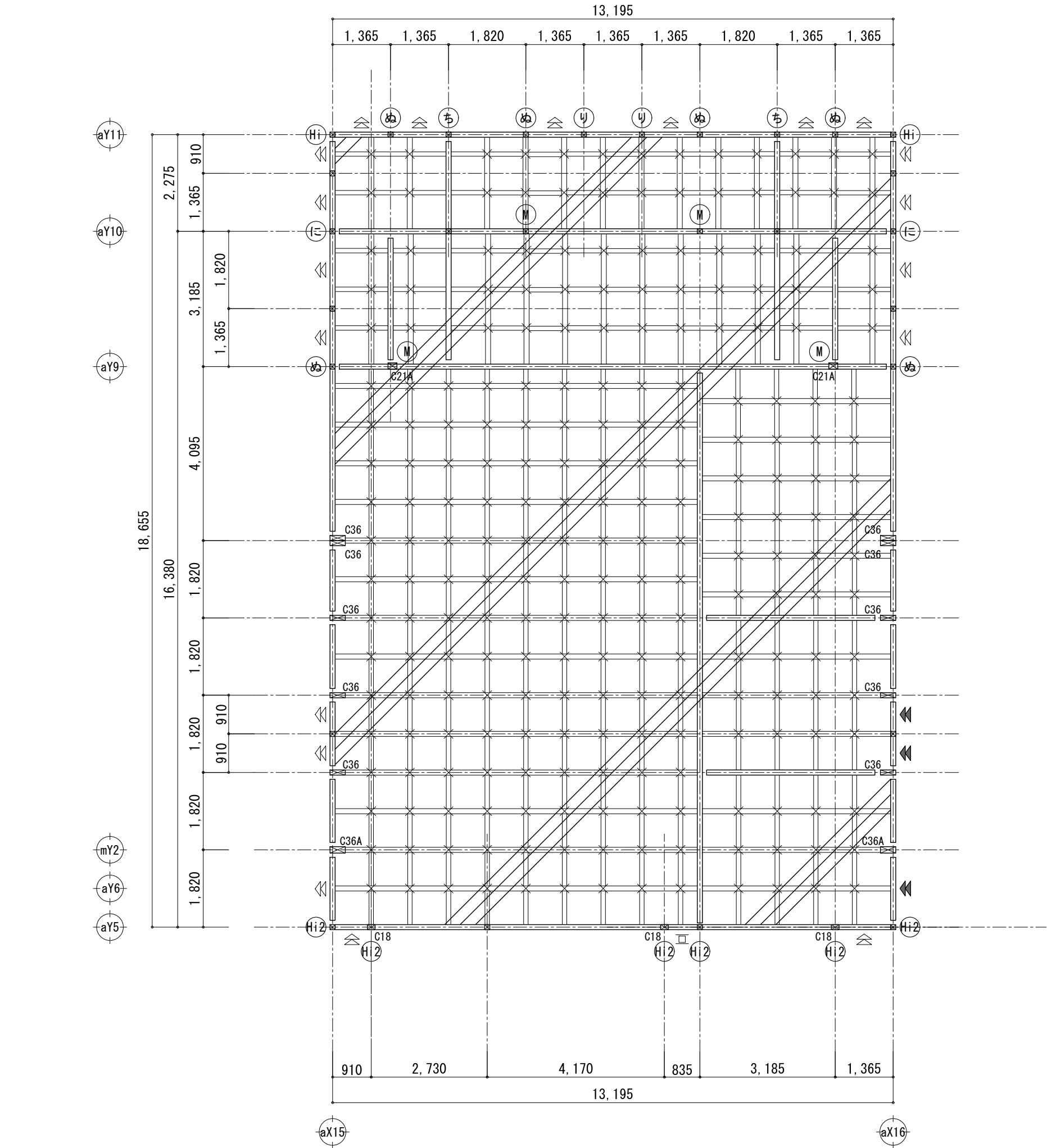


aX14軸組図



aX14d軸組図





柱頭・柱脚金物 凡例			
※C36柱脚・柱頭、C36-G1200L接合部は詳細図参照			
仕 様	記号	Ta (kN)	
CP-L 同等品	㊦	3.38	
長ぼぞ差し込み栓打 同等品		3.81	
CP-T 同等品	は	5.07	
山形プレート 同等品		5.88	
羽子板ボルト 同等品	㊦	7.50	
短冊金物 同等品		7.50	
スクリュー釘併用羽子板ボルト 同等品	ぼ	8.50	
スクリュー釘併用短冊金物 同等品		8.50	
10kN 引き寄せ金物 同等品	へ	10.00	
15kN 引き寄せ金物 同等品	と	15.00	
20kN 引き寄せ金物 同等品	㊦	20.00	
25kN 引き寄せ金物 同等品	㊦	25.00	
35kN 引き寄せ金物 同等品	㊦	35.00	
43kN高耐力ホールダウン	㊦	43.00	
68kN高耐力ホールダウン	㊦	68.10	
ぼぞバイブMHP-118 同等品	㊦	4.40	
Ta (kN) : 接合部の許容引張耐力			

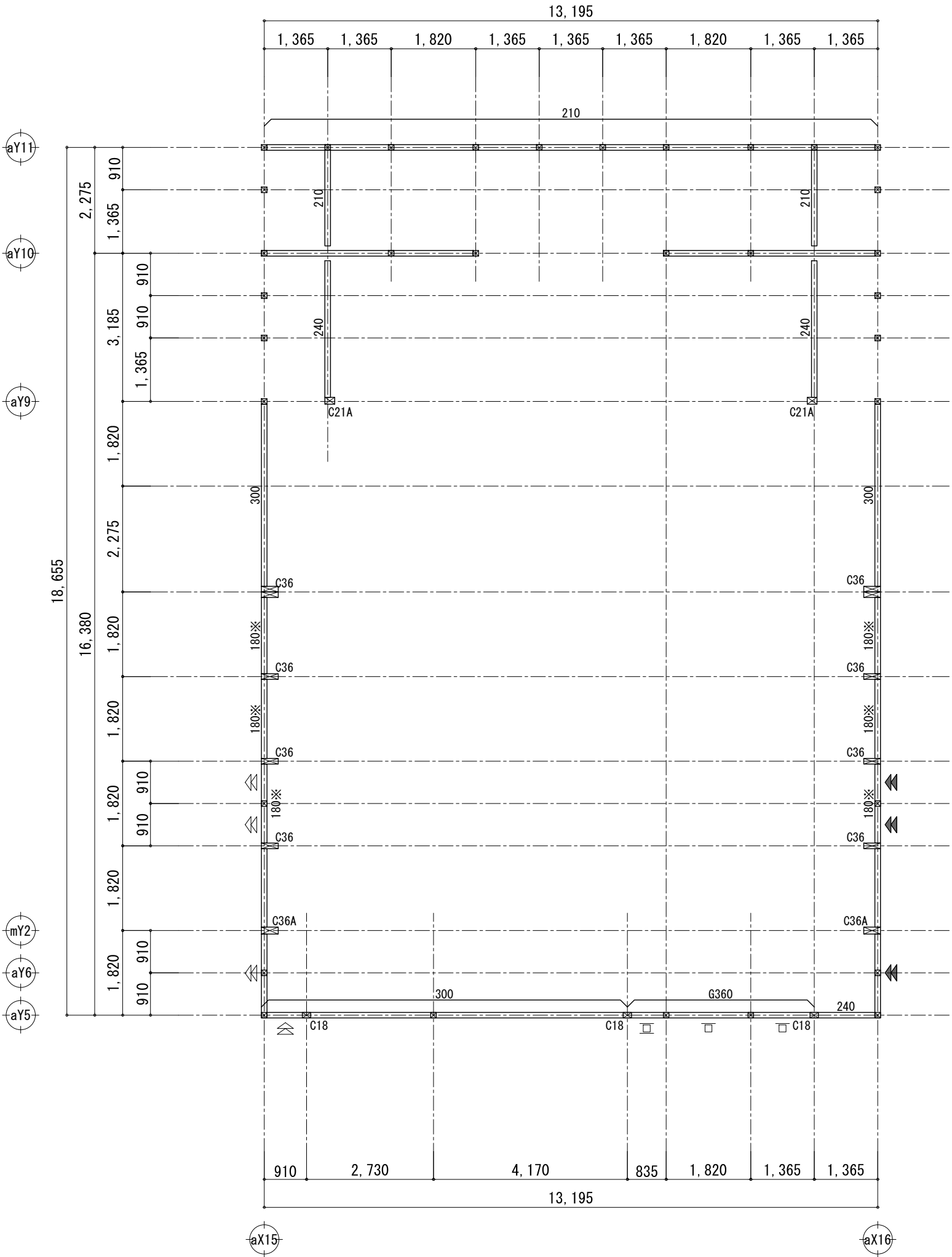
※記載無きところは、㊦以上とする。
※使用する金物は、C、Zマーク表示金物等、品質性能が
明らかなのを使用すること。

土台・金物伏図

特記なき限り下記とする。
・柱 : 120*120
・土台 : 120*120 (ヒノキ)
・柱材種 : C12 : スギE50
C18(120*180)、C21A(150*210) : スギE70
C36(120*360) C36A(150*360) : LVL E120-F385

各部材凡例
・ 柱
・ たすき筋かい 90*90 (スギE50)
・ 構造用パネルOSB N50@150mm
・ 大引 105*105 (スギ)
・ 受材
・ 鋼製束
・ 床下地 : 構造用合板t24mm(哲丸釘 N75@150口の字)

床下地 : 構造用合板、1類1級以上、厚24mm (鉄丸釘 N75 @150:四周釘打ち)、F☆☆☆☆

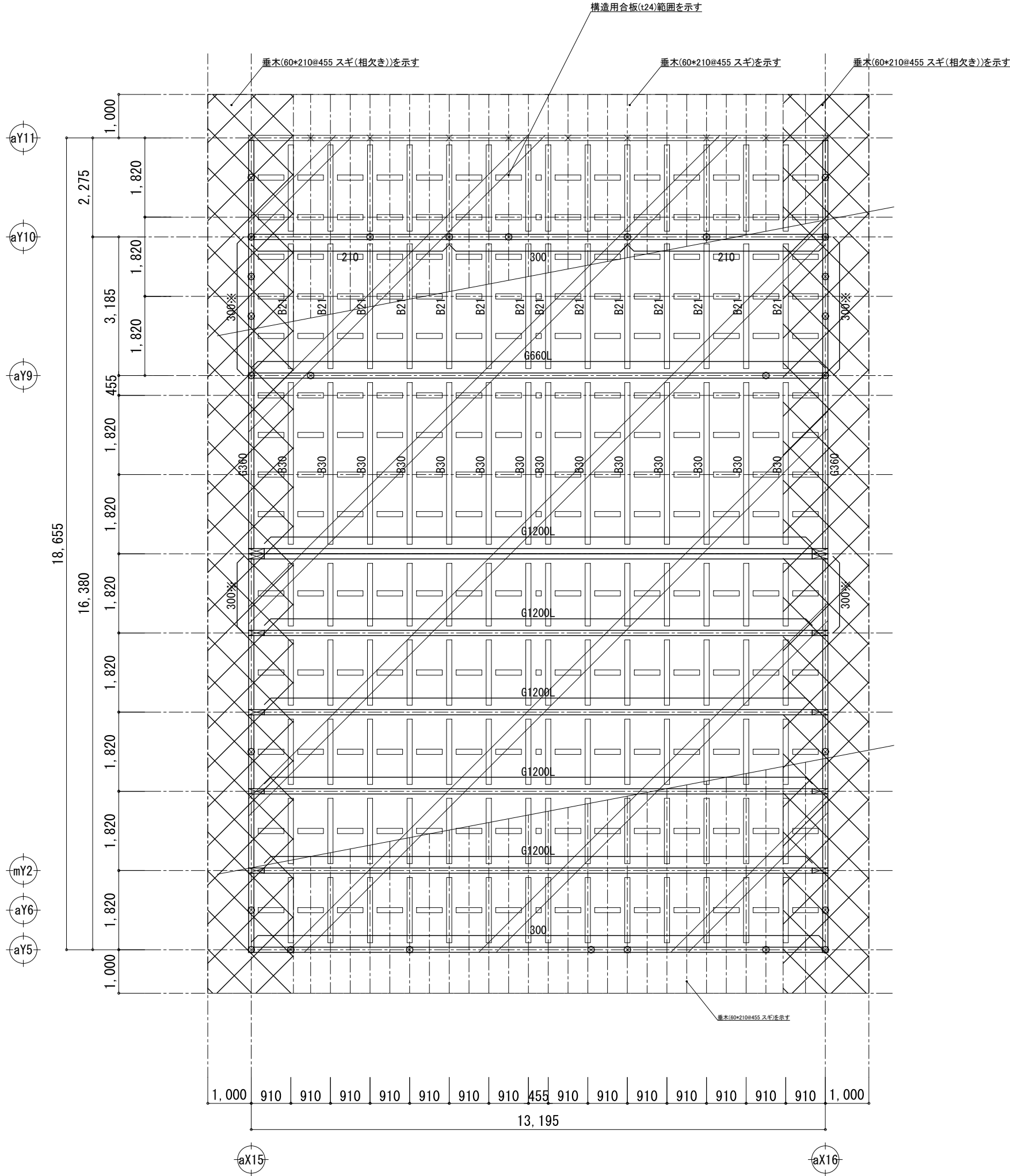


梁伏図

特記なき限り下記とする。
・柱 : 120*120
・梁 : 120*180 (特記は梁せいを示す)
・梁材種 : 150以下 E50
180以上300以下 E70
GOO 集成材E120-F300
GOOL LVLE120-F385
・柱材種 : C12 : スギE50
C18(120*180)、C21A(150*210) : スギE70
C36(120*360) C36A(150*360) : LVL E120-F385

各部材凡例
・ 柱
・ たすき筋かい 90*90 (スギE50)
・ 構造用パネルOSB N50@150mm

※桁・梁の幅は120mmとする。水平構面の横架材間の継手は、羽子板ボルトまたは短冊金物と同等以上 (7.5kN以上) の短期許容引張耐力を有する接合とすること。
※柱との仕口部は、梁受金物MH・NB (タナカ) (同等品) を使用すること。
【○○※】 部はMH・NB (タナカ) 同等品+羽子板ボルトを使用すること。

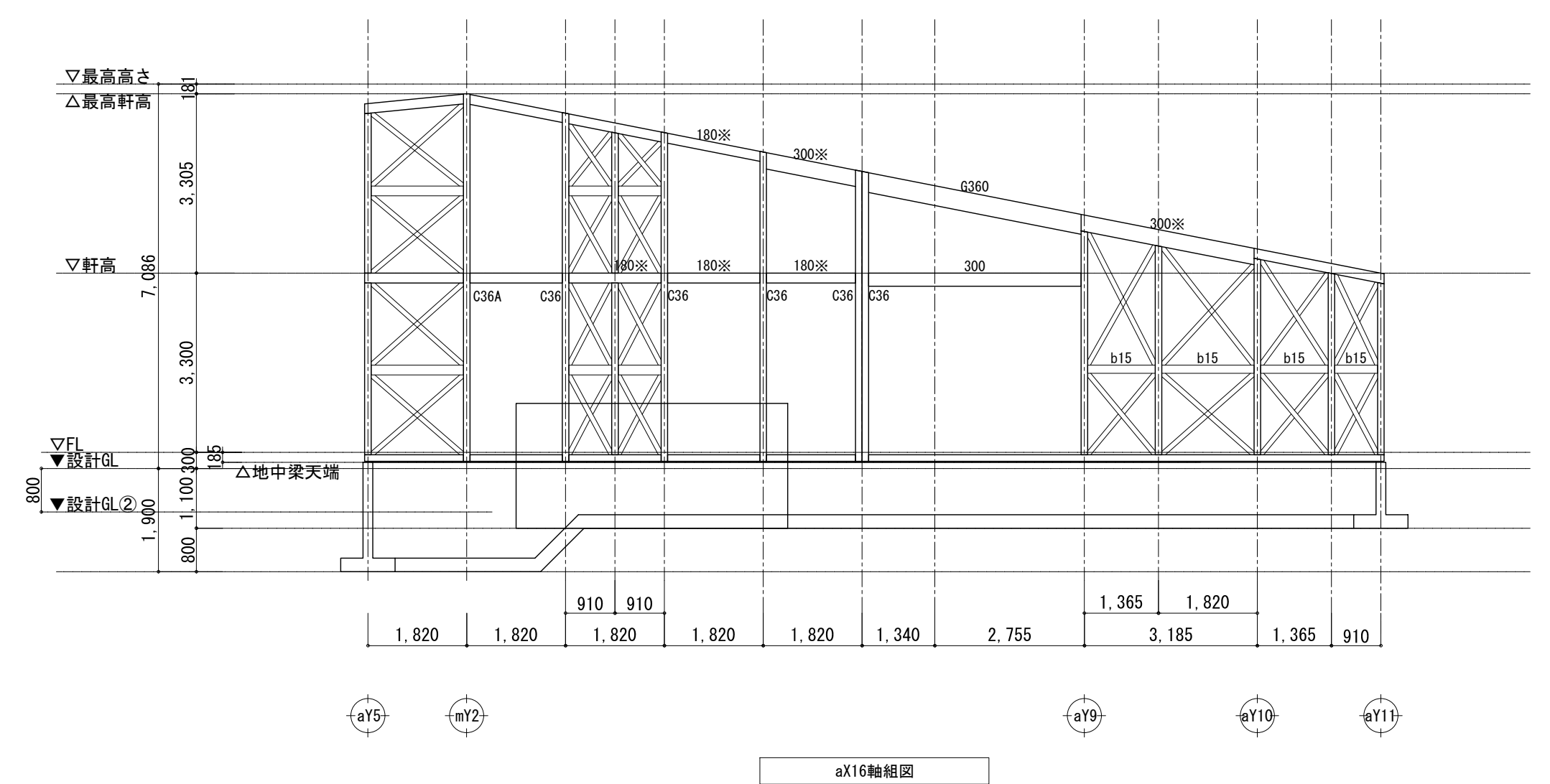
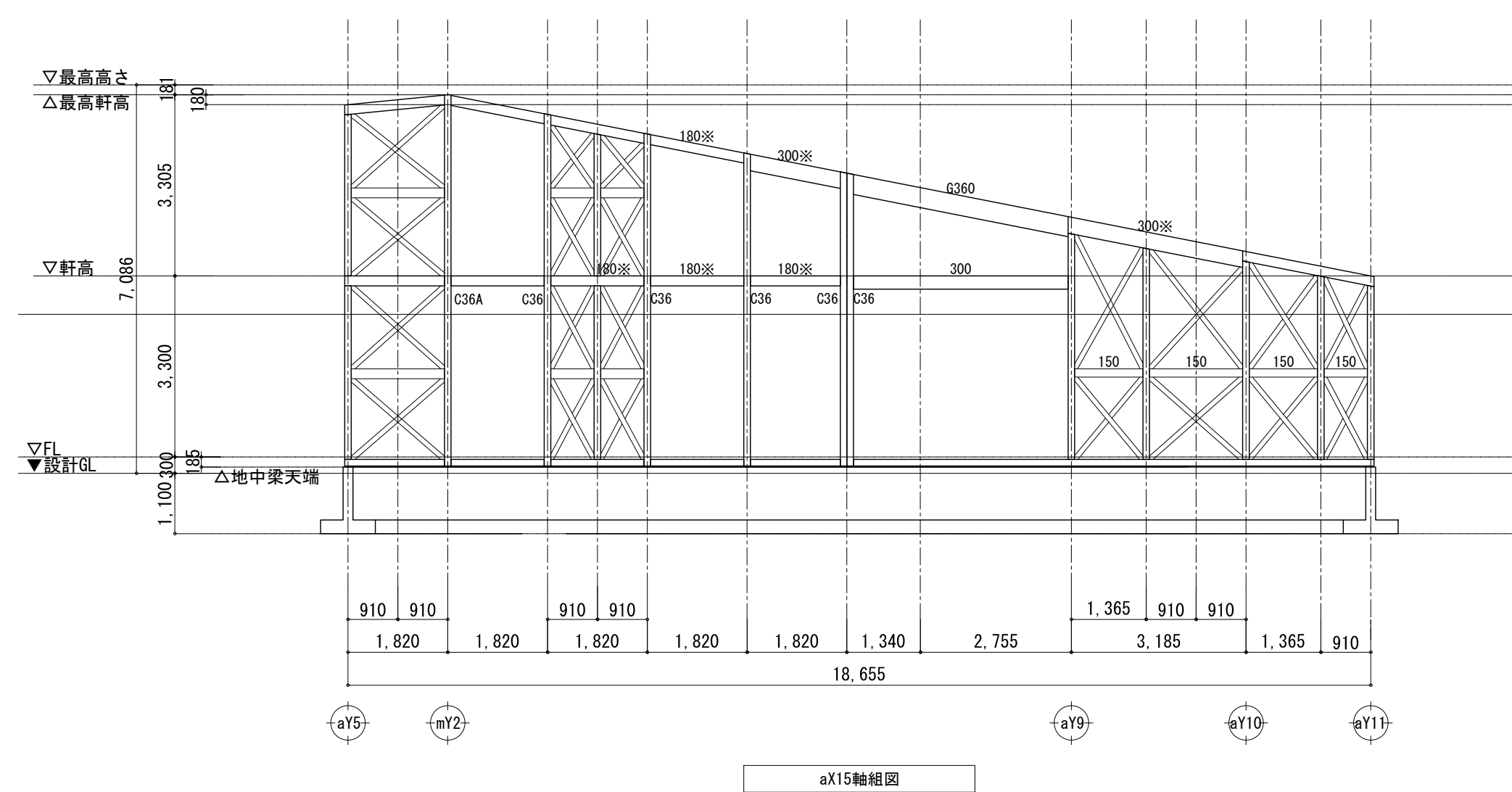
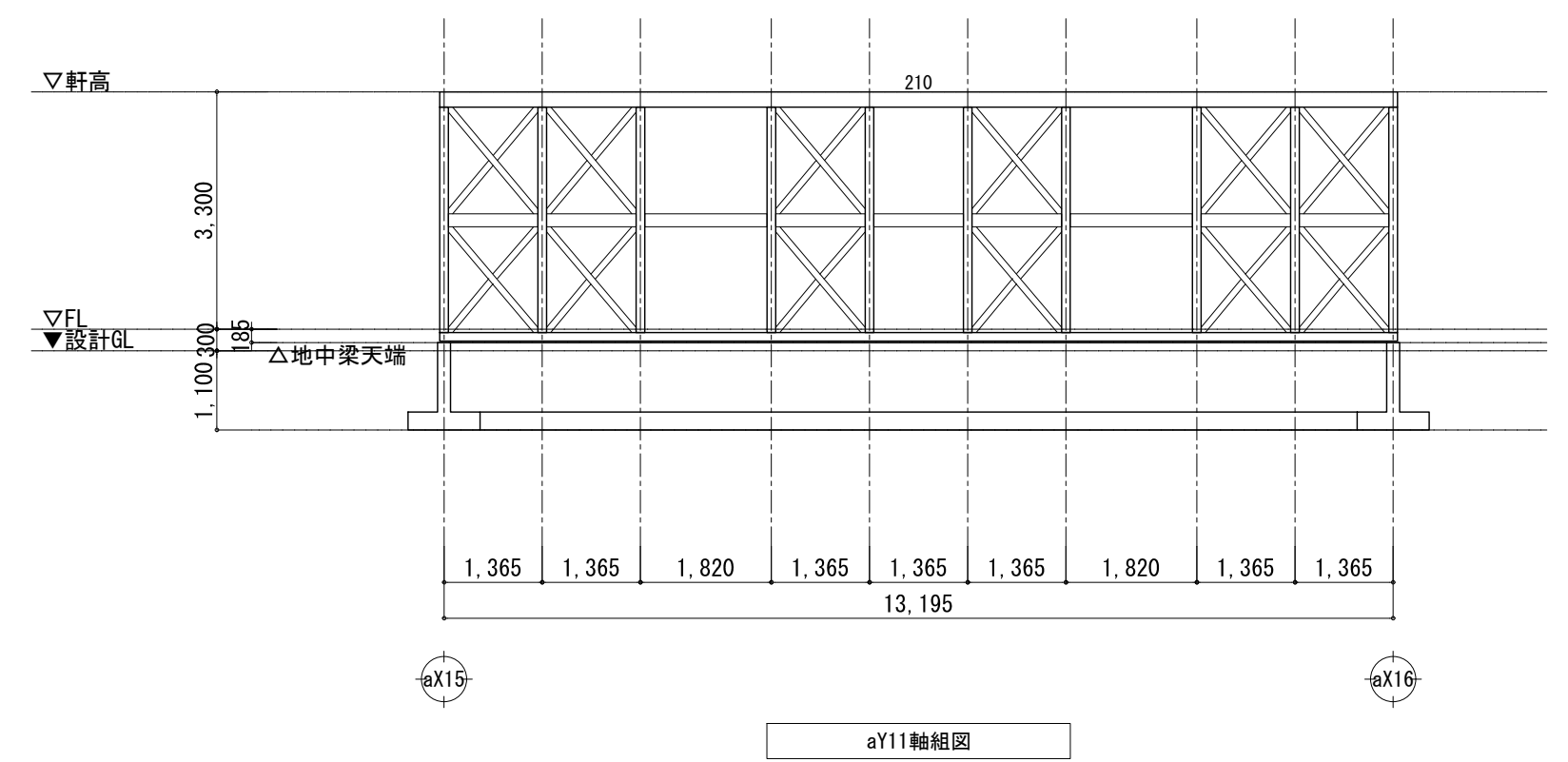
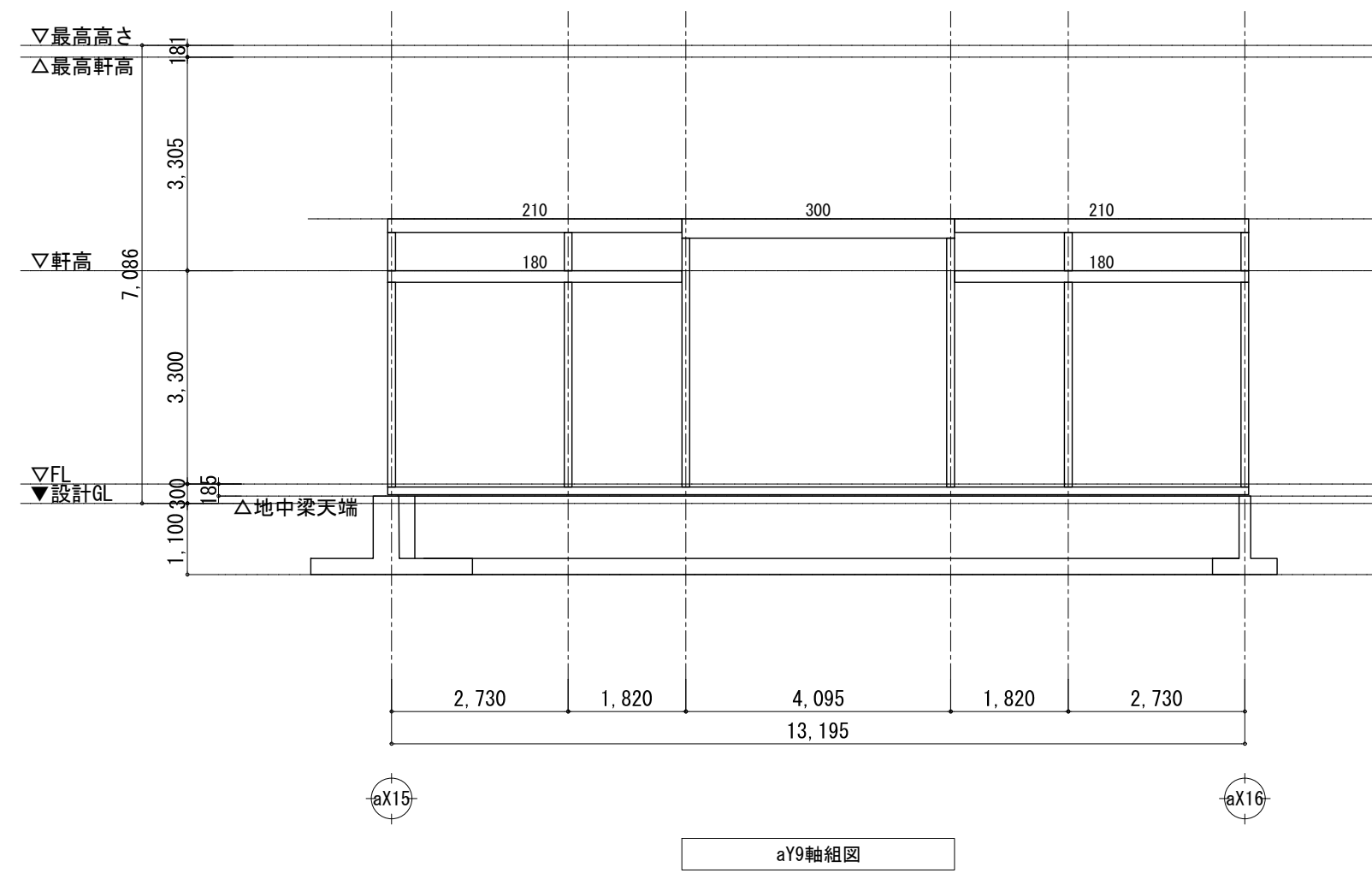
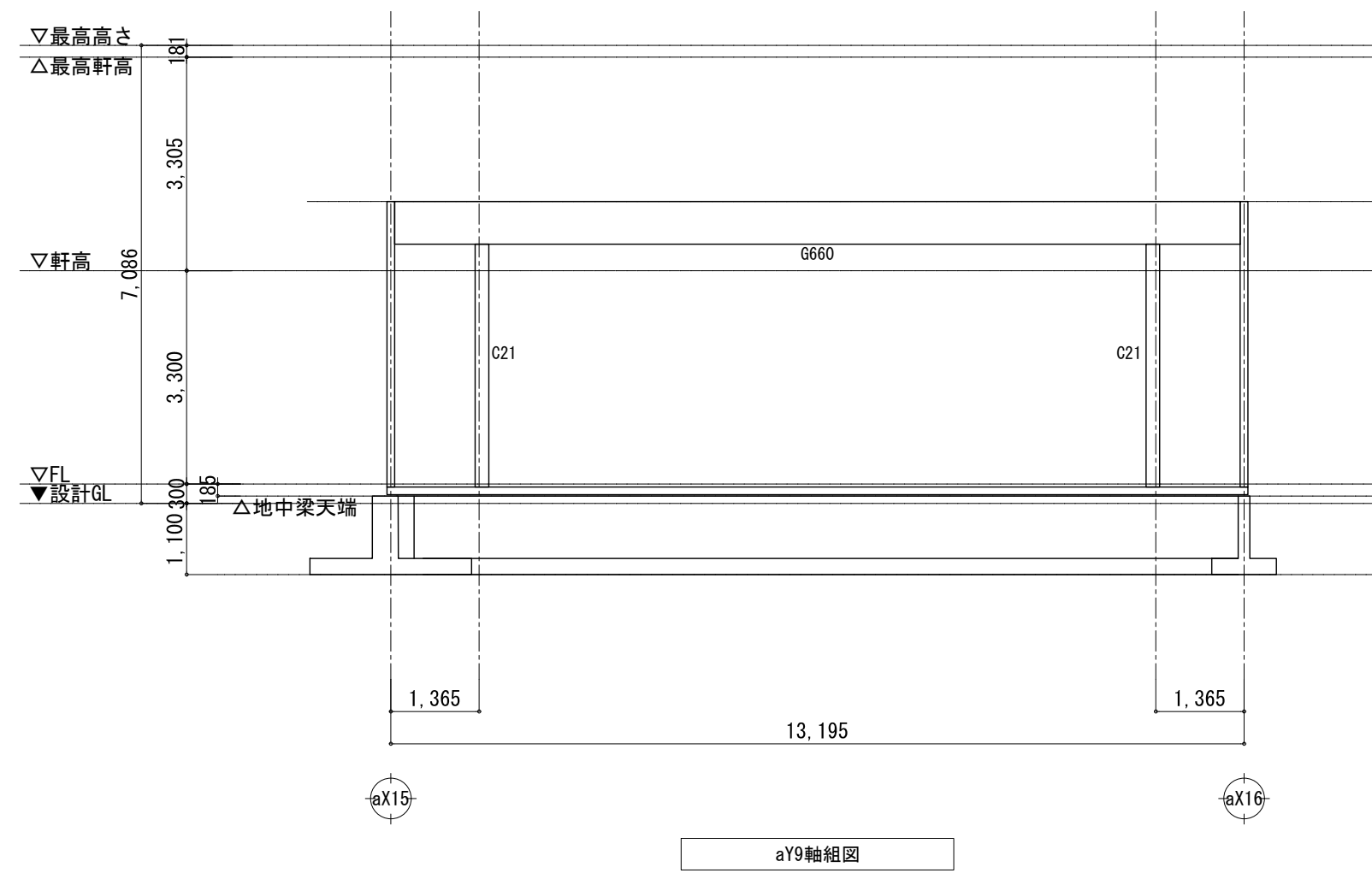
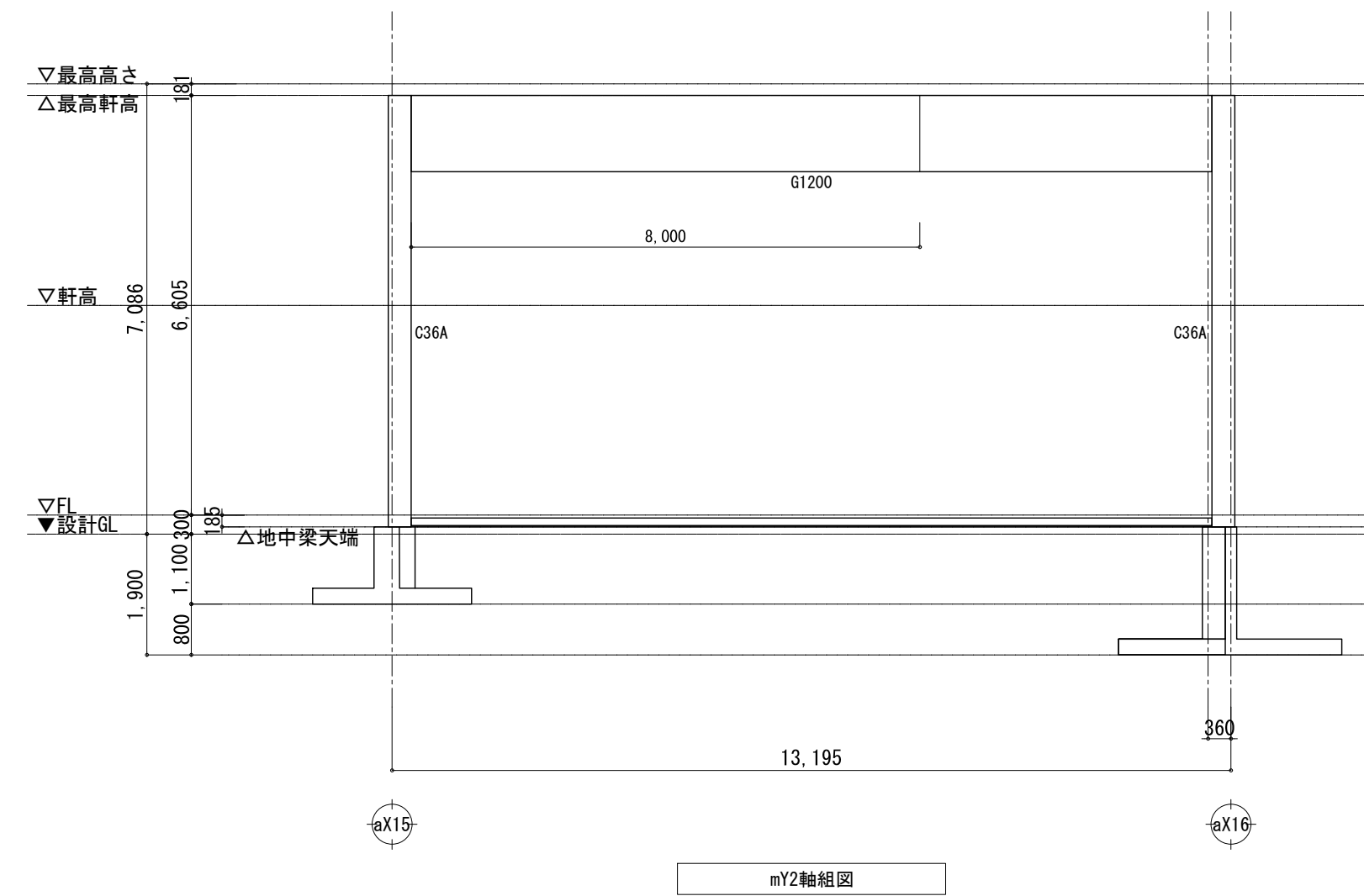
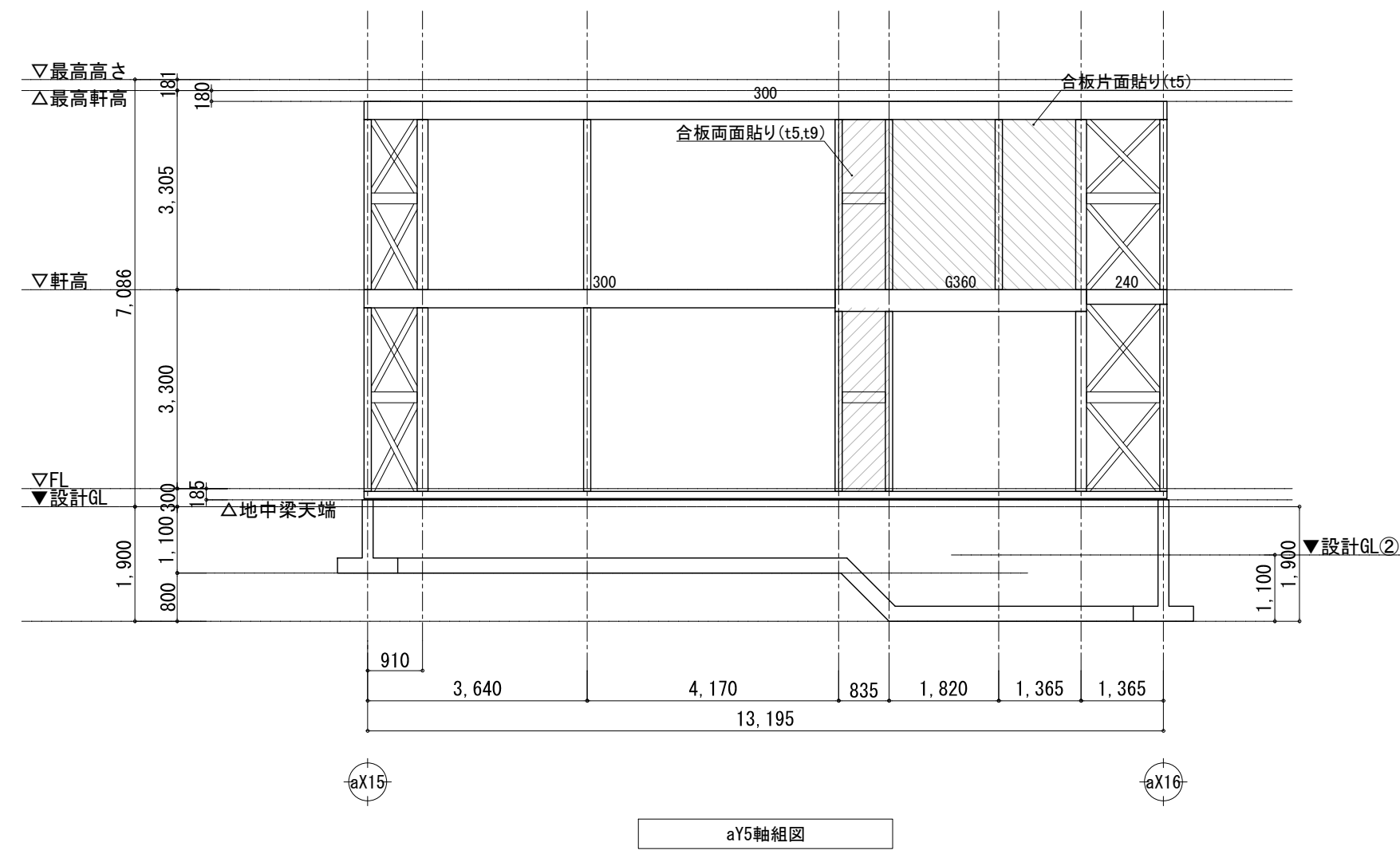


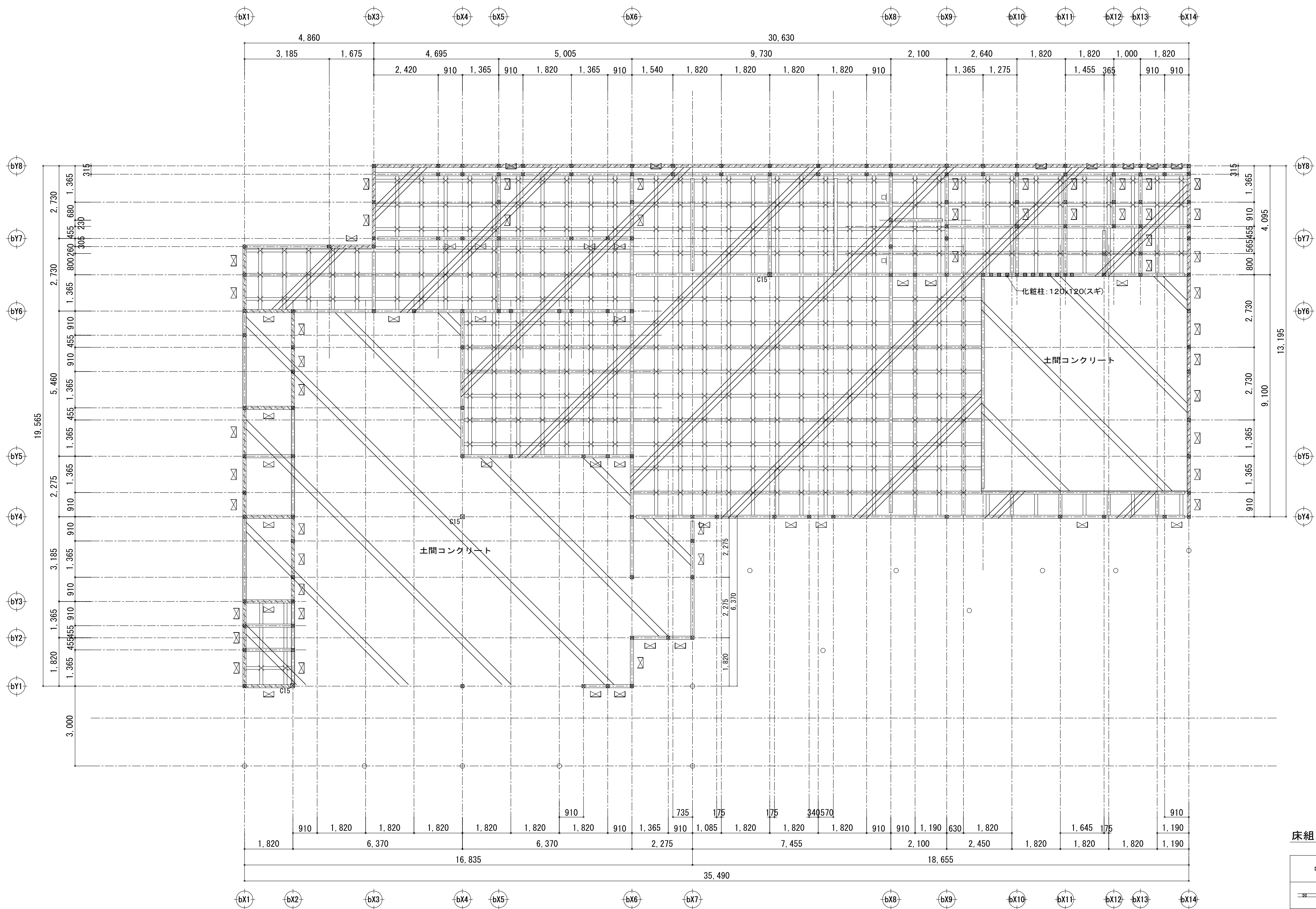
屋根伏図

特記なき限り下記とする。
・野地板 : 構造用合板t24 (N75@75) (JIS A 3301)
・梁 : 120*180 (特記は梁せいを示す)
梁材種 : 150以下 E50
180以上300以下 E70
GOO 集成材E120-F300
GOOL LVLE120-F385
・合板受け(B) : 120*120 (B○○は梁せいを示す) (E50)
(梁せい180以上はE70)

各部材凡例
・ × 柱位置
・ 柱 120*360 (スギLVL E120-F385)
・ 束 120*120 (スギE50)
・ 合板受け
・ 垂木

※母屋 (桁梁) 一小屋束接合部のカスガイ打ちは両面ウチ (2本打) とする。または、短期引抜耐力が2160N以上を有する仕様とすること。
※桁・梁の幅は120mmとする。水平構面の横架材間の継手は、羽子板ボルトまたは短冊金物と同等以上 (7.5kN以上) の短期許容引張耐力を有する接合とすること。
※柱との仕口部は、梁受金物MH・NB (タナカ) (同等品) を使用すること。
【○○※】 部はMH・NB (タナカ) 同等品+羽子板ボルトを使用すること。

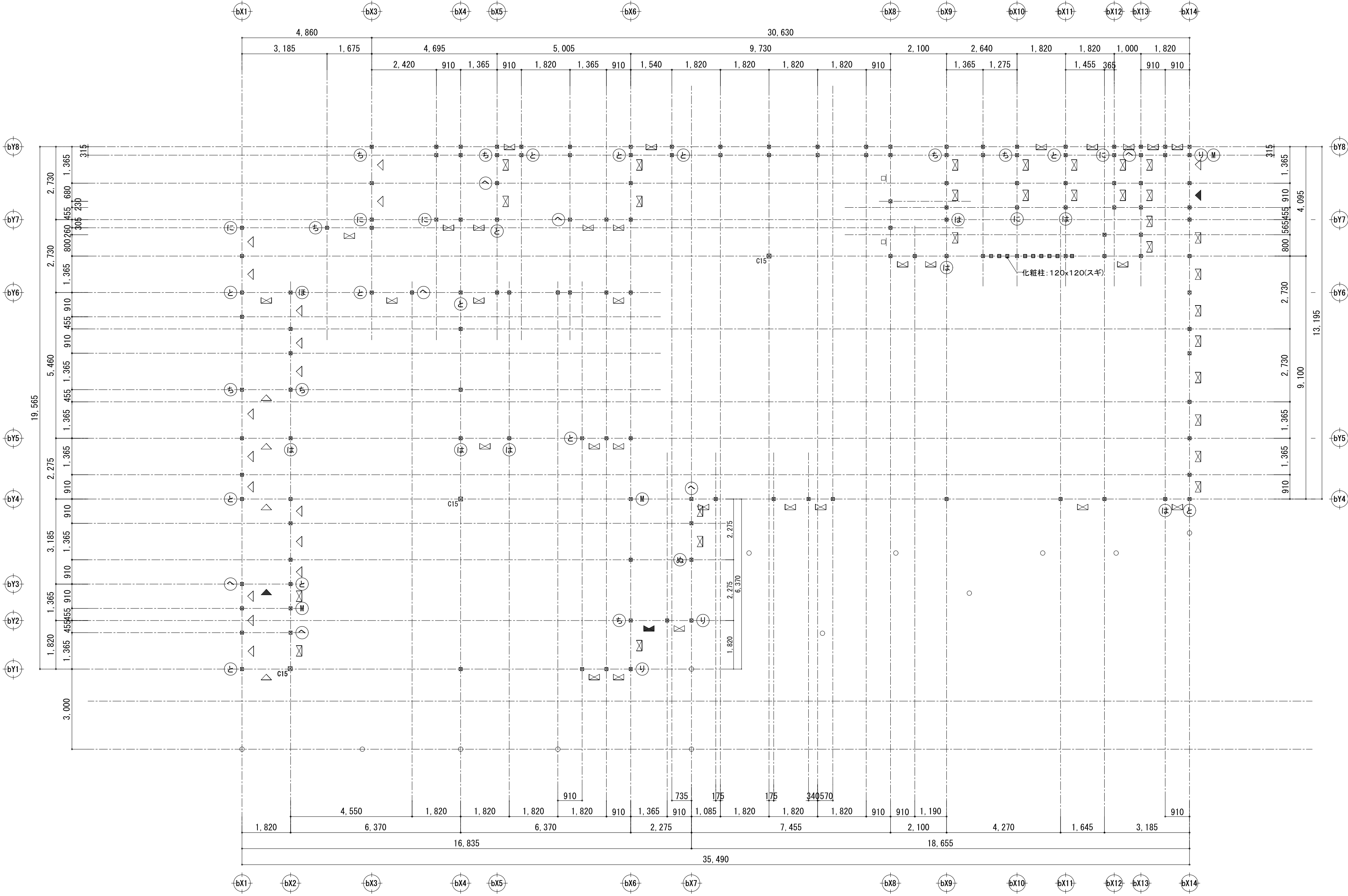




土台伏図

床組一凡例

□	管柱:スギ(E70) (120 x 120) ※C15 (150 x 150) 、C18(120 x 180)
▨	土台:ヒノキ (120 x 120) ※ハッチ部は基礎立ち上がり部を示す。
▨	大引:スギ (105 x 105)
▨	受材:スギ (105 x 105)
▨	床下地:構造用合板, 1類1級以上, 厚24mm (鉄丸釘 N75 @150:四周釘打ち), F☆☆☆☆
×	鋼製束位置を示す。
⊠	両筋かい: たすき掛け、45x90以上 (各々、端部仕口には BP-2、BP-2同等品) を使用すること。
□	耐力壁: 構造用パネルOSB t9 N50@150mm



土台伏図

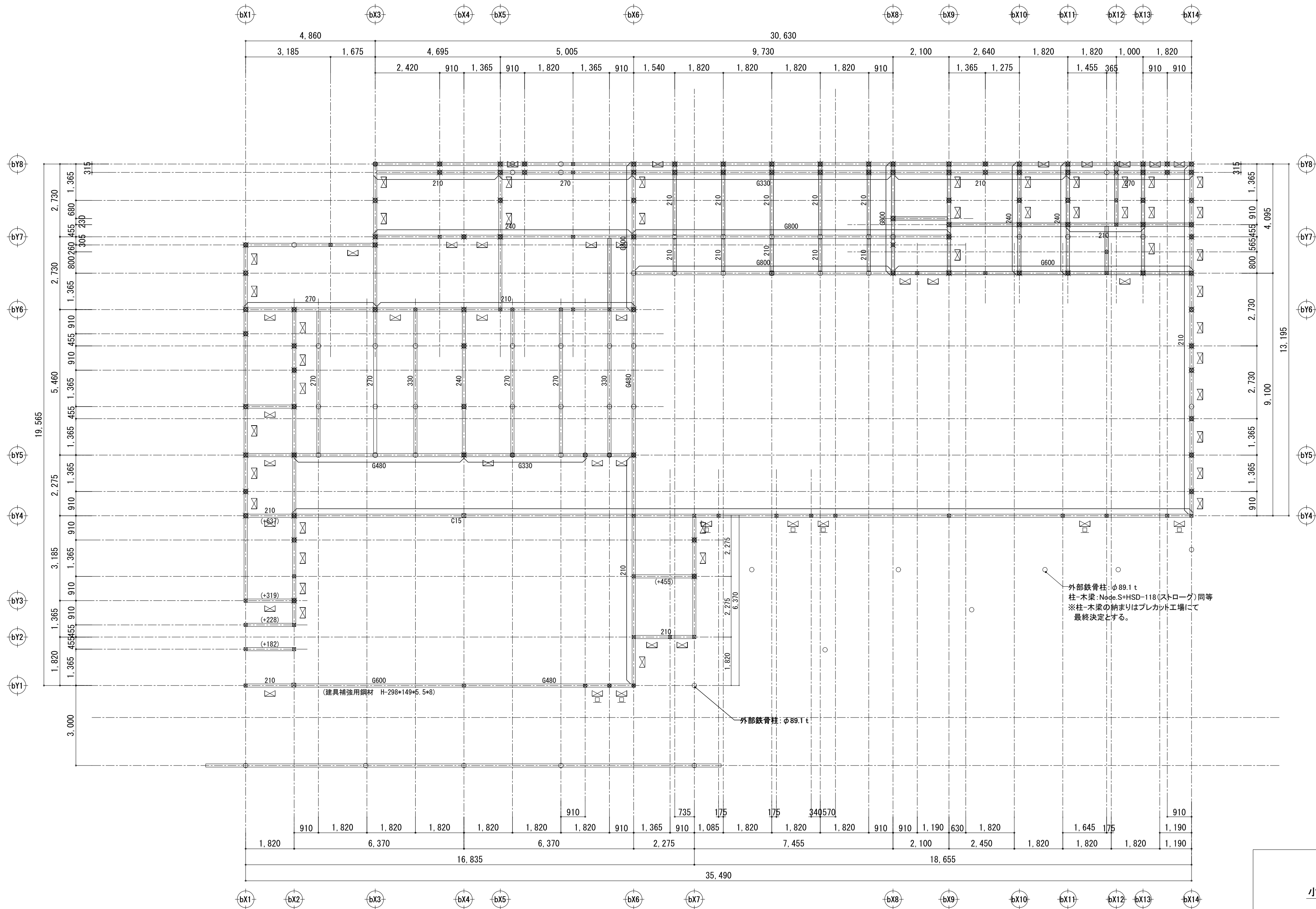
柱・筋交い伏図－凡例

■	管柱：特記無き限り、120x120
☒	両筋かい(2段)：たすき掛け、45x90以上（各々、端部仕口には ヘキサプレートSD(タナカ)同等品)を使用すること。
	※筋交い：スギ（節、反り、ひび割れ等、欠陥の無いもの）
☒	両筋かい：たすき掛け、45x90以上（各々、端部仕口には 中大規模対応ストロング筋交い耐力壁対応金物（タナカ）同等品)を使用すること。）
△	両筋かい(1段)：たすき掛け、45x90以上（各々、端部仕口には ヘキサプレートSD(タナカ)同等品)を使用すること。
▲	両筋かい(1段)：たすき掛け、45x90以上（各々、端部仕口には 中大規模対応ストロング筋交い耐力壁対応金物（タナカ）同等品)を使用すること。）
●	装飾柱脚金物 ※ボルトタイプ100角型 短期引張耐力 11.28kN以上 ※柱頭は、告示1460号第二号（と）とする。
□	耐力壁（構造用パネルOSB t9 N50@150mm ）

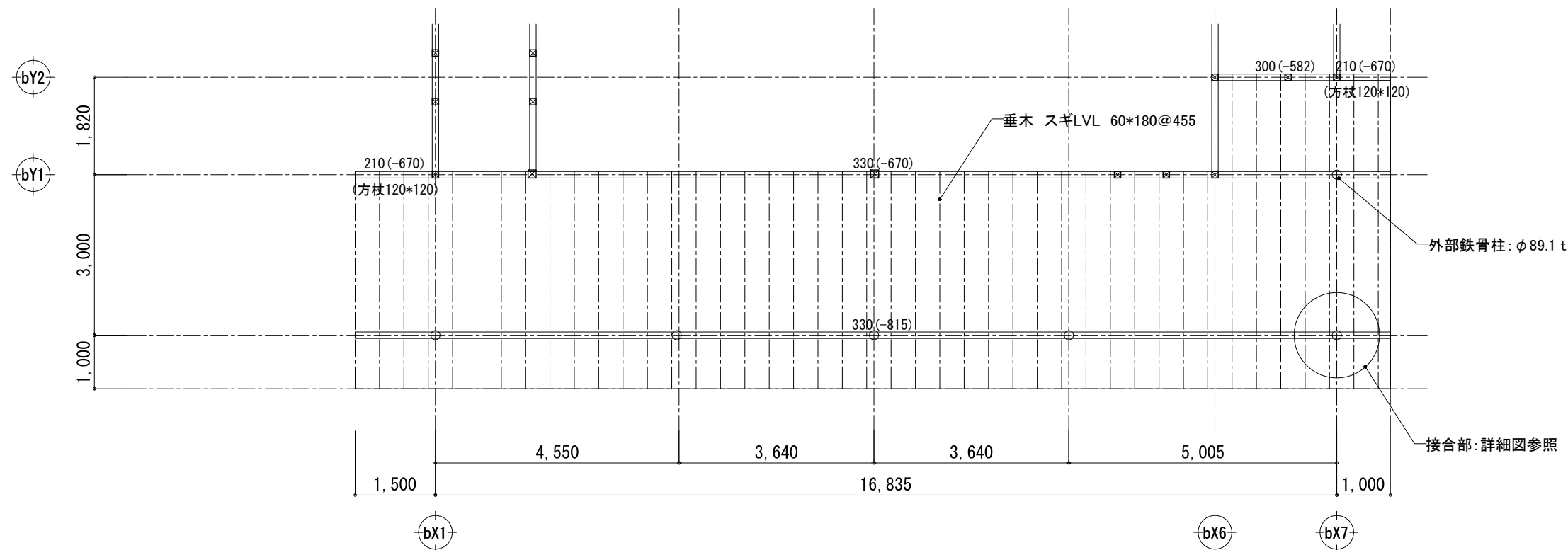
柱頭・柱脚金物 凡例

仕 様	記号	Ta (kN)
CP-L 同等品		3.38
長ほぞ差し込み栓打 同等品	㊦	3.81
CP-T 同等品	㊨	5.07
山形プレート 同等品	㊩	5.88
羽子板ボルト 同等品	㊪	7.50
短冊金物 同等品	㊫	7.50
スクリュー釘併用羽子板ボルト 同等品	㊬	8.50
スクリュー釘併用短冊金物 同等品	㊭	8.50
10kN 引き寄せ金物 同等品	㊮	10.00
15kN 引き寄せ金物 同等品	㊯	15.00
20kN 引き寄せ金物 同等品	㊰	20.00
25kN 引き寄せ金物 同等品	㊱	25.00
15kN 引き寄せ金物×2 同等品	㊲	30.00
ほぞパイプ継HP-118 同等品	㊳	4.40

Ta (kN)：接合部の許容引張耐力
※記載無きところは、㊦以上とする。
※使用する金物は、C、Zマーク表示金物等、品質性能が
明らかなものを使用すること。



小屋伏図

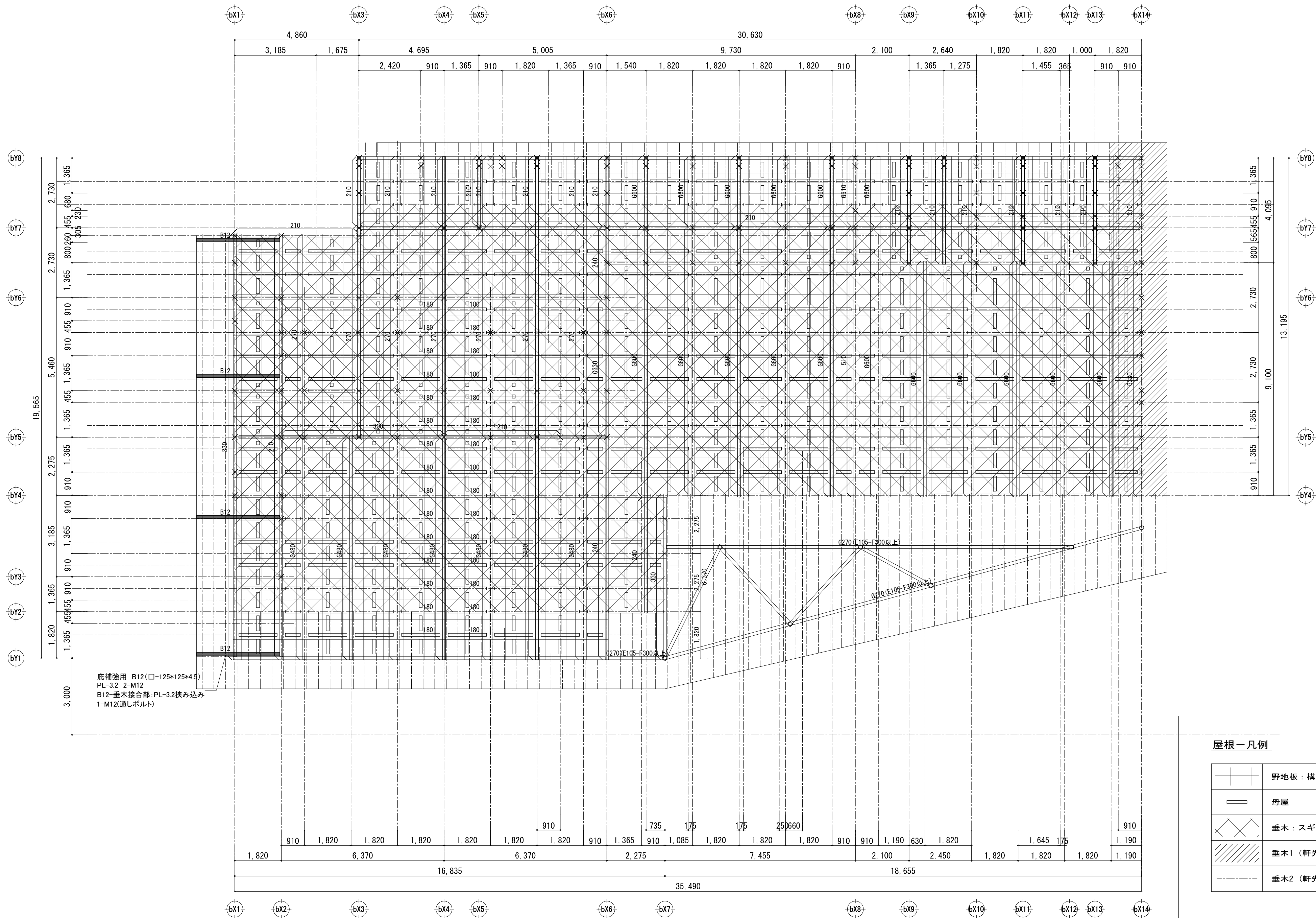


下屋伏図

小屋一凡例

■	通し柱: スギ (E70) (120 x 120)
====	梁 数字は梁せい (目視1級) (+○○) は軒高からの梁天端高さを示す。
×	柱: スギ (E70) (1階)
○	束: スギ (120 x 120)
-----	垂木: スギLVL (60 x 180) @455
⊠	間筋かい: たすき掛け、45x90以上 (各々、端部仕口には BP-2、BP-2同等品) を使用すること。

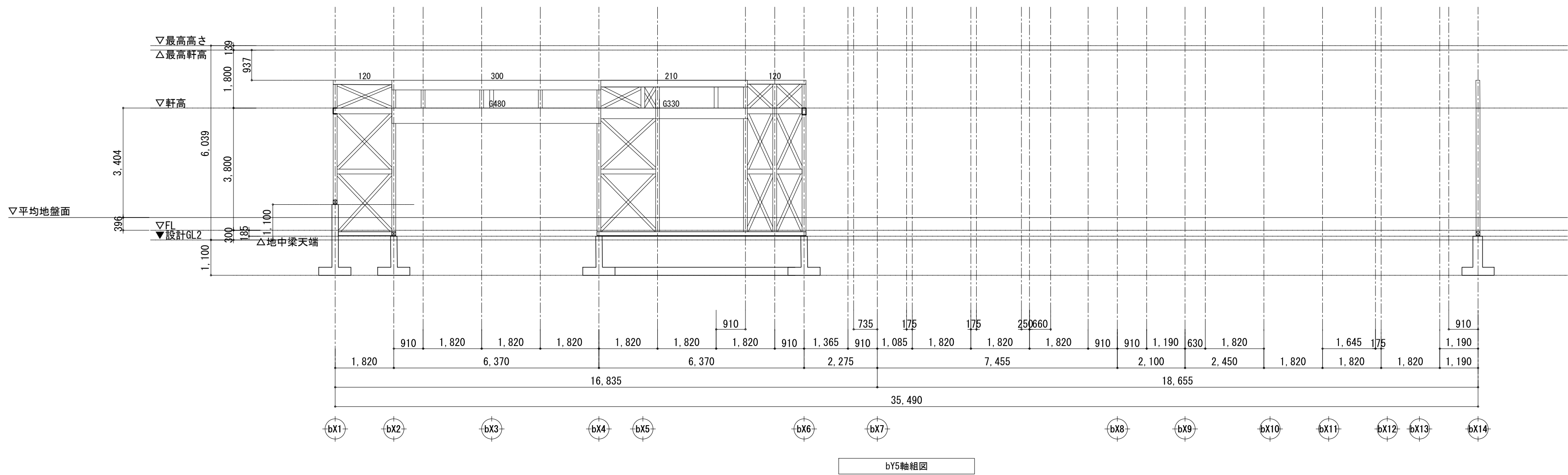
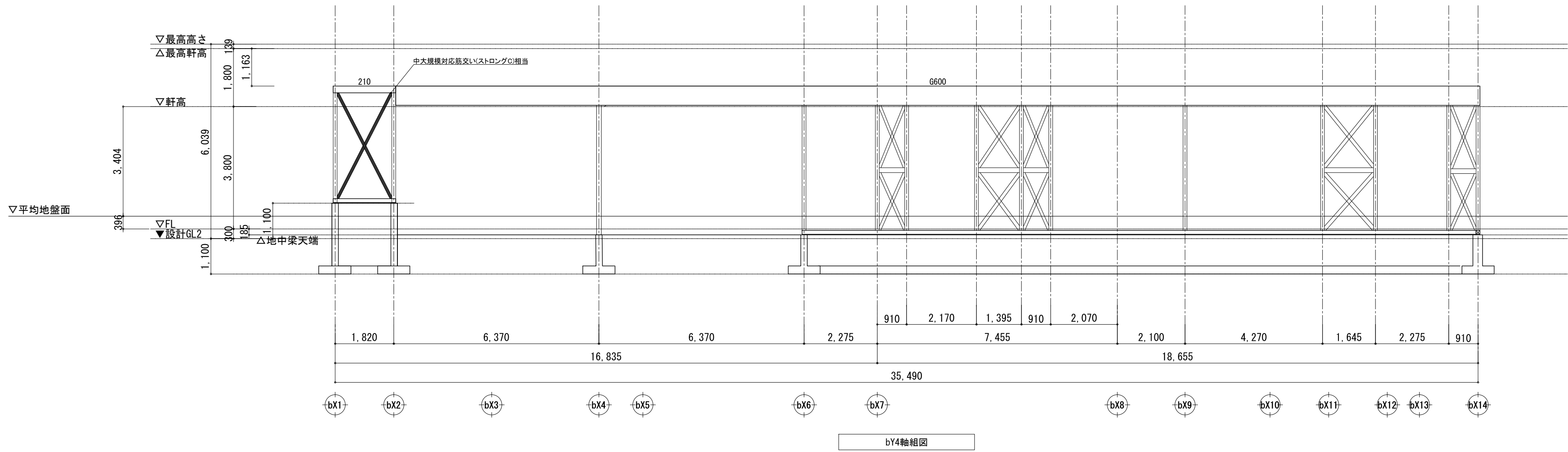
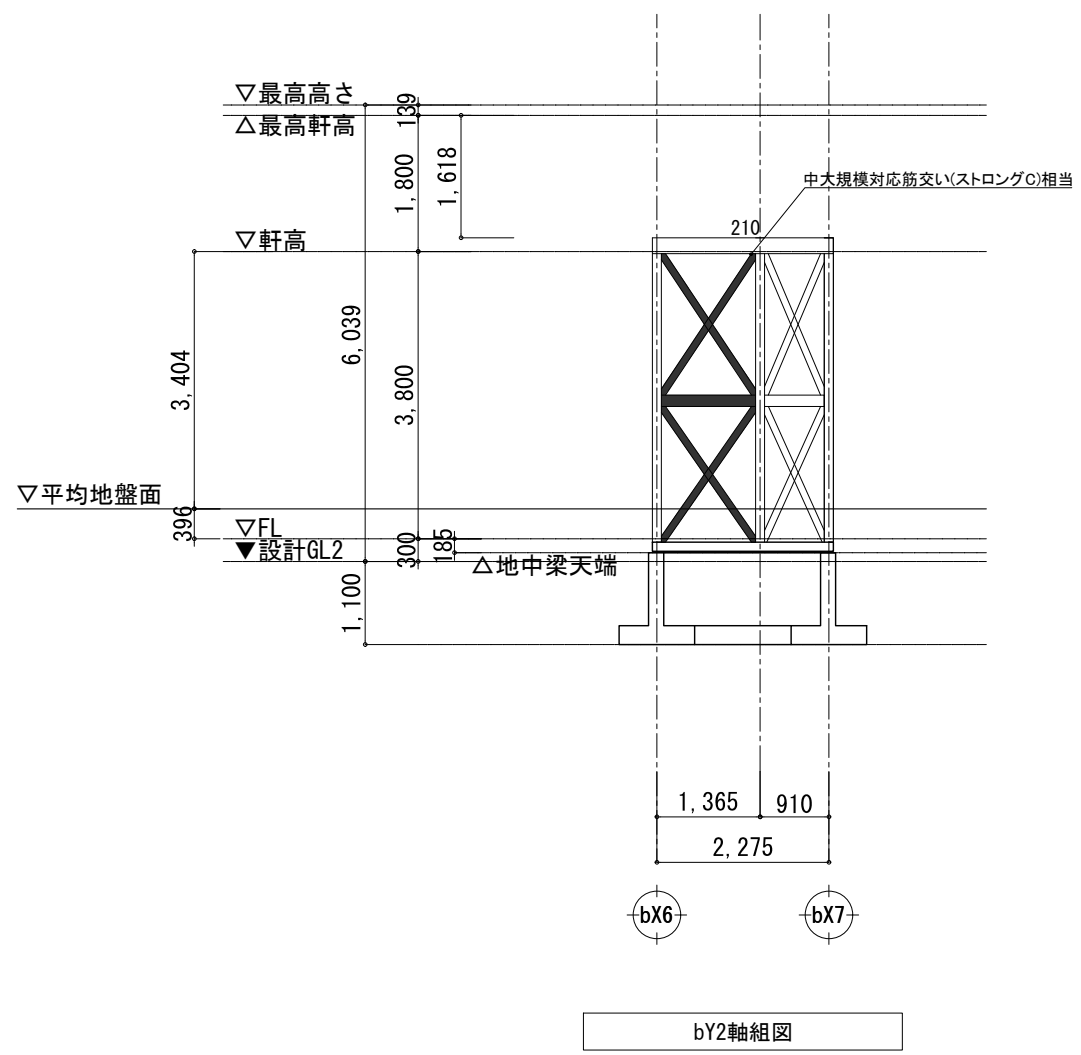
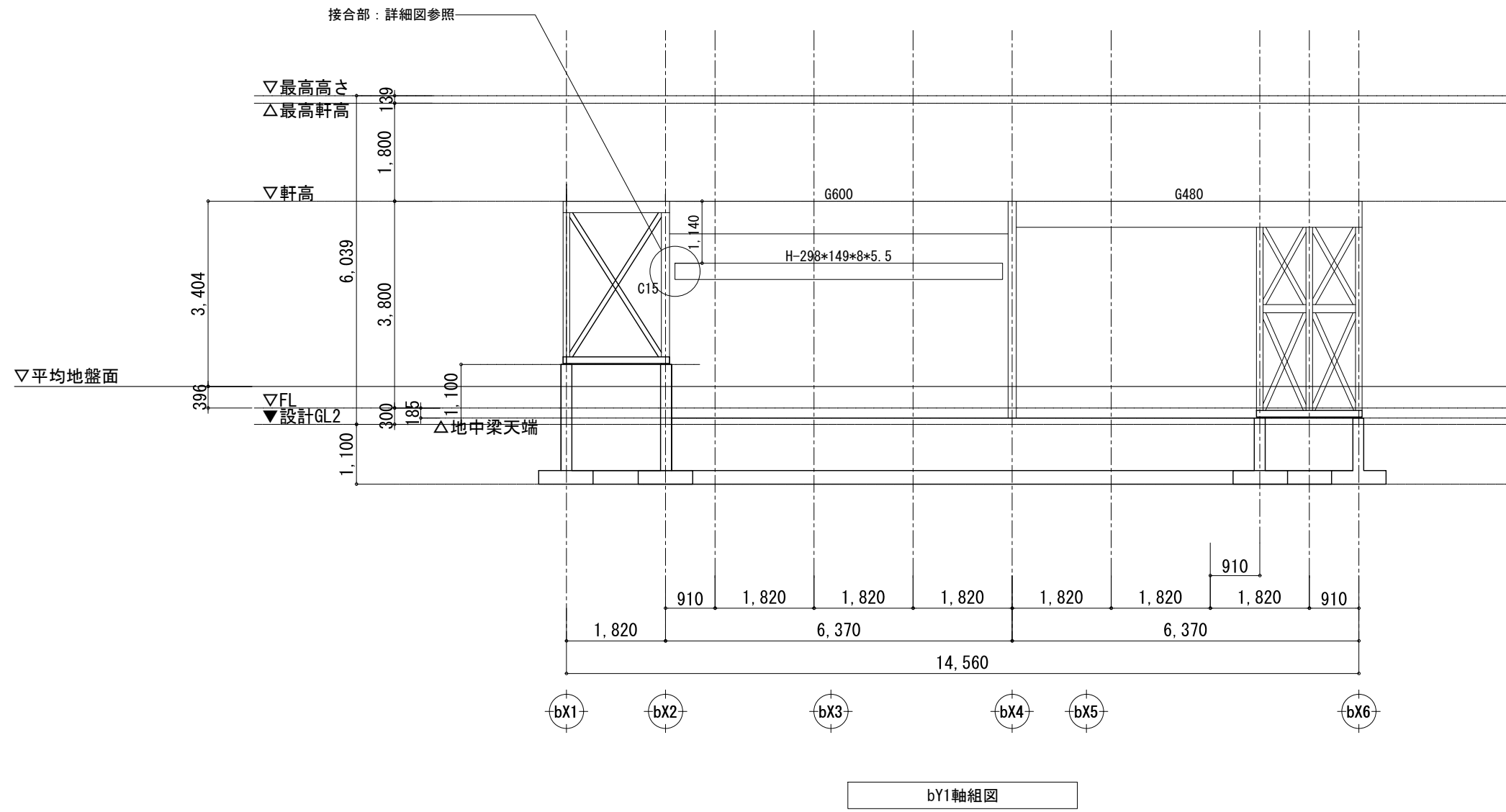
※特記無き場合の梁せいは、180mmとする。
※G***は集成材 (E120-F330) の梁せいを示す。
※母屋 (桁梁) ー小屋束接合部のカスガイ打ちは両面ウチ (2本打) とする。または、短期引抜耐力が2160N以上を有する仕様とすること。
※桁・梁の幅は120mmとする。水平構面の横架材間の継手は、羽子板ボルトまたは短冊金物と同等以上 (7.5kN以上) の短期許容引張耐力を有する接合とすること。
※柱との仕口部は、梁受金物MH (タナカ) (同等品) を使用すること。

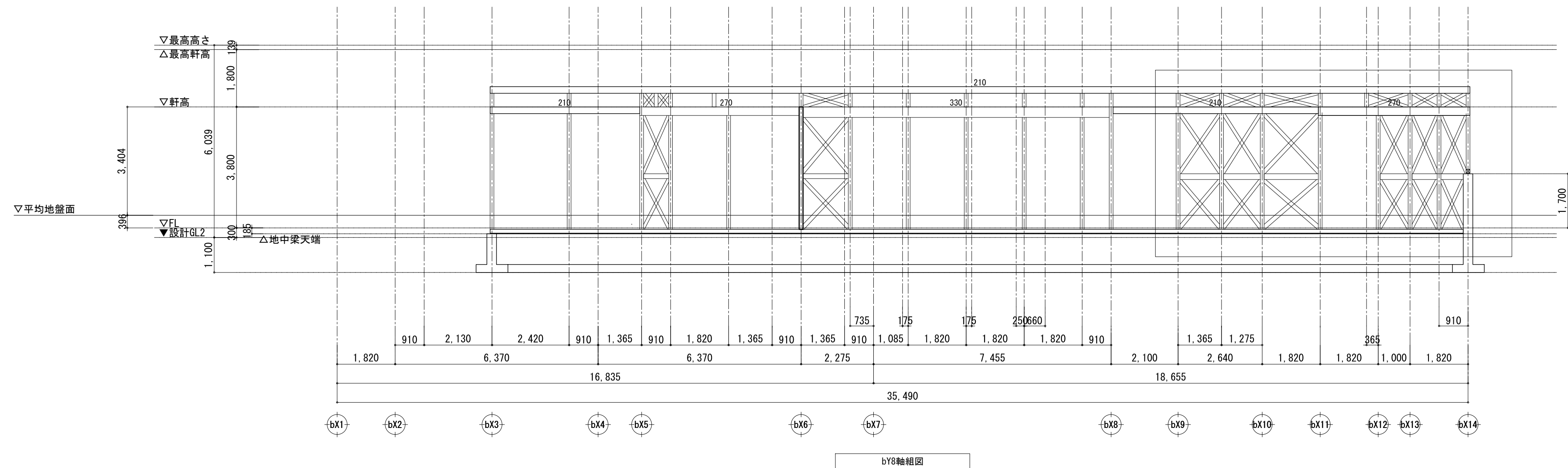


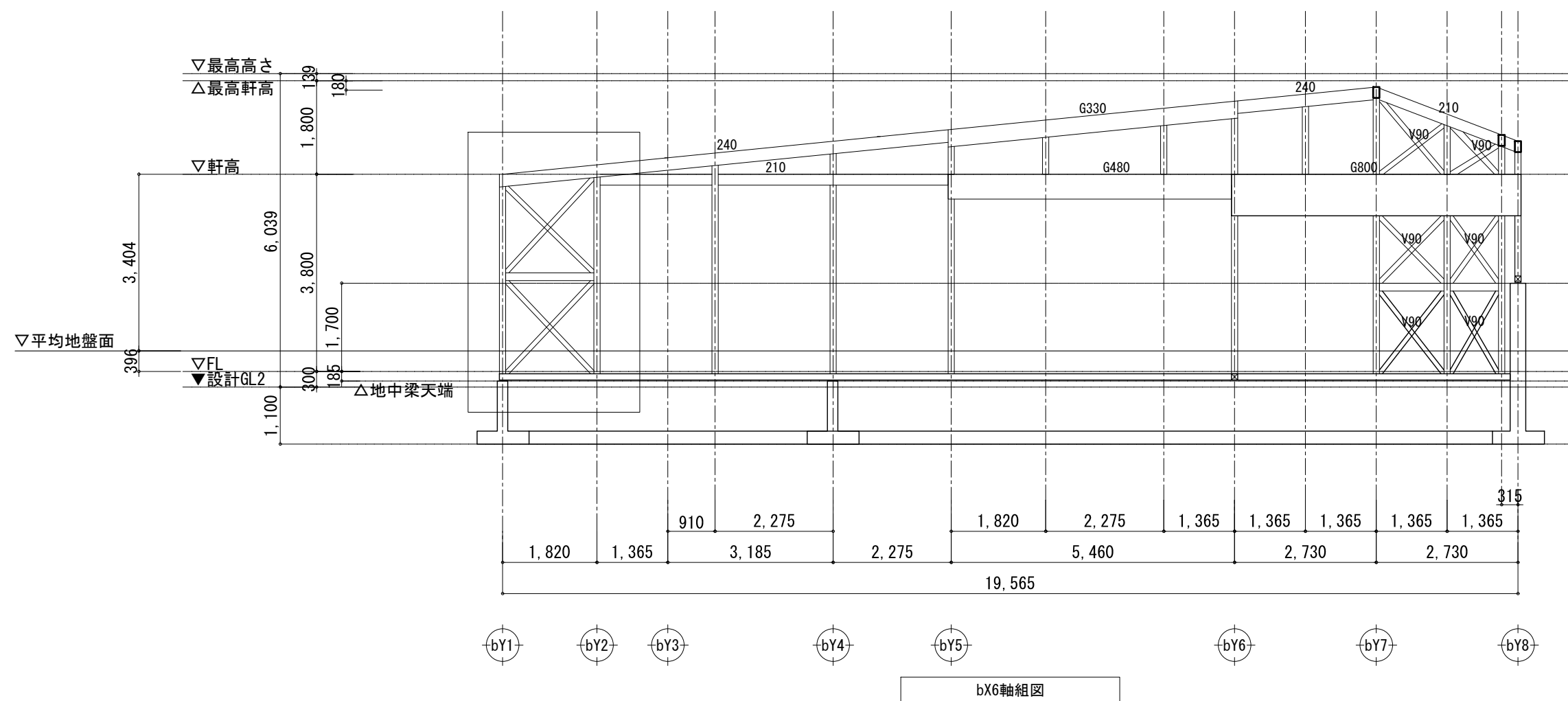
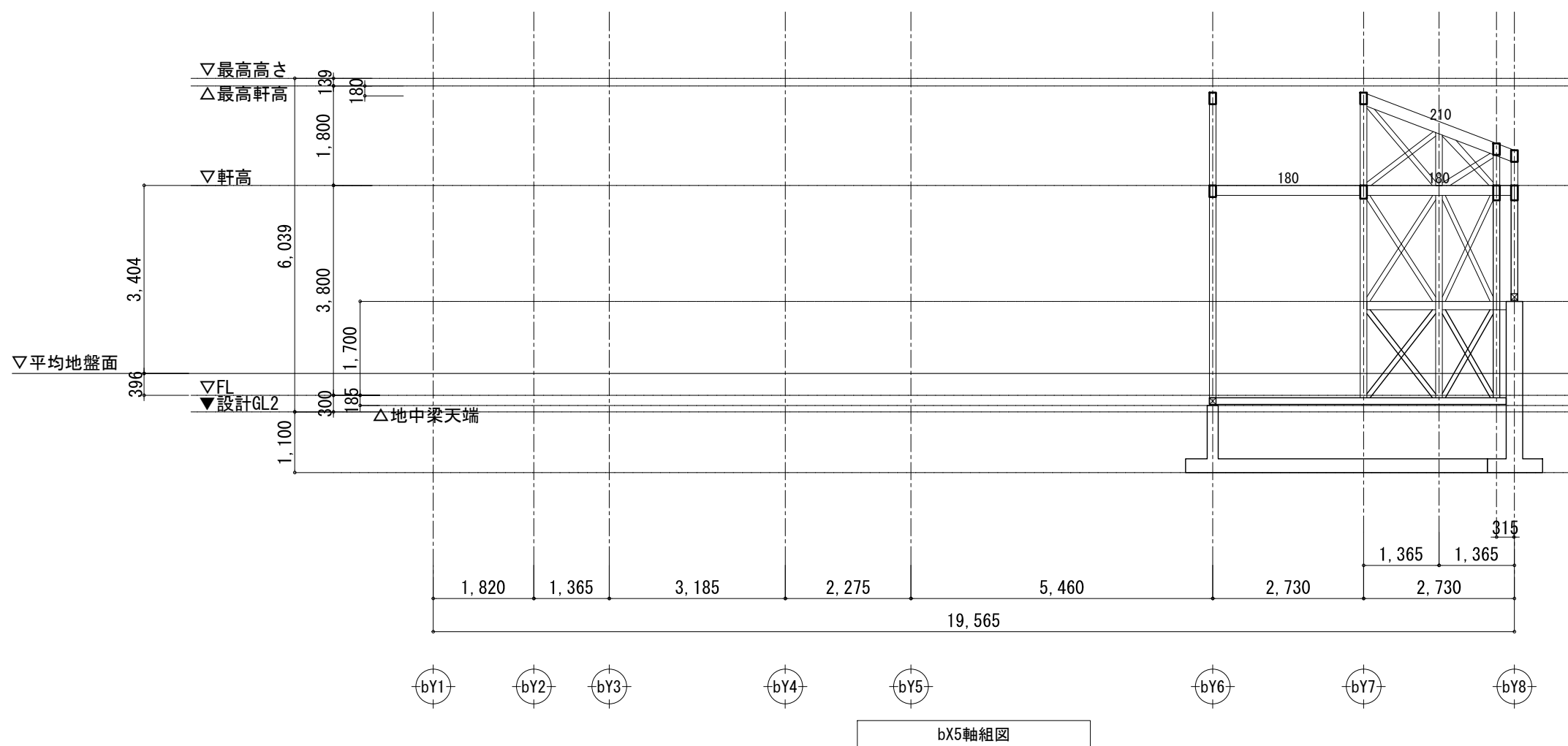
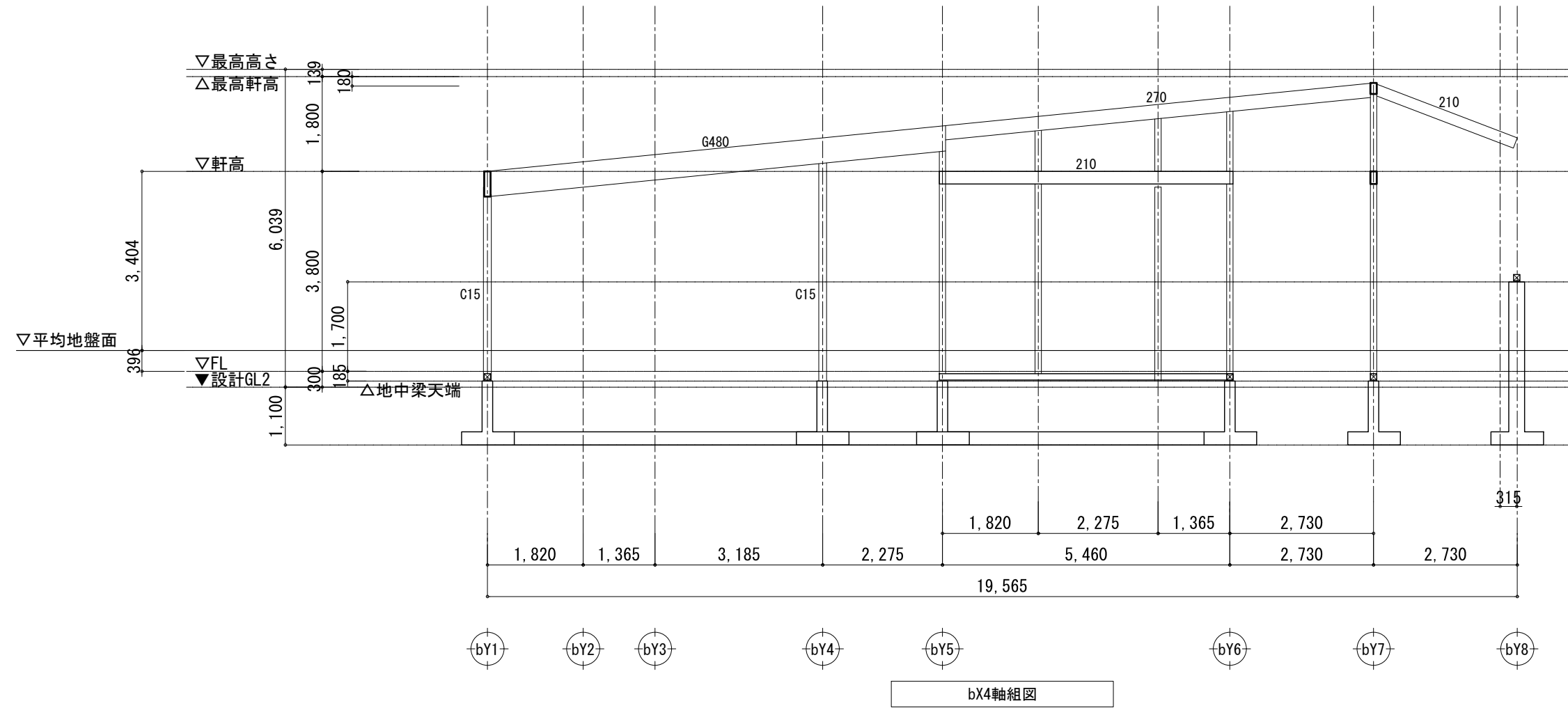
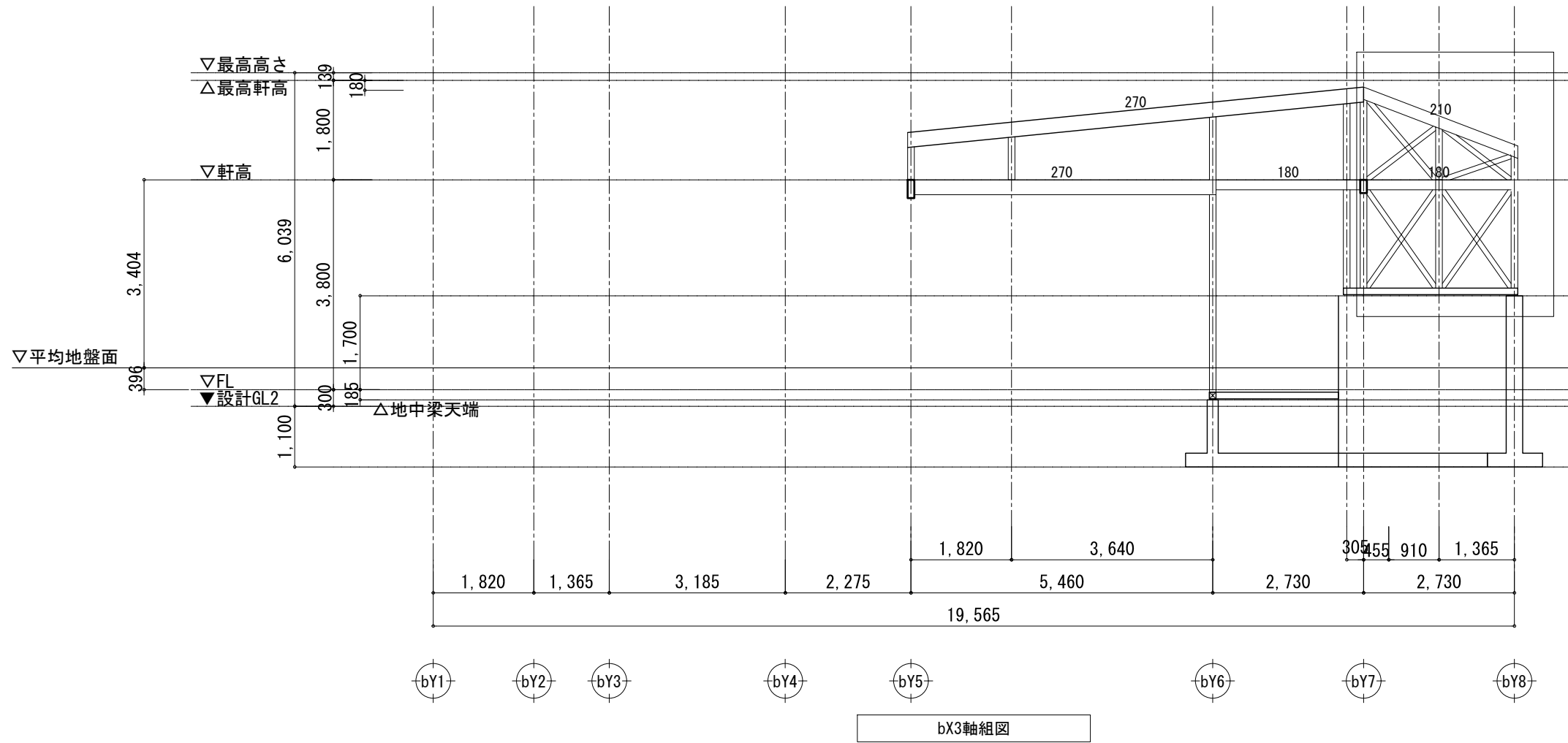
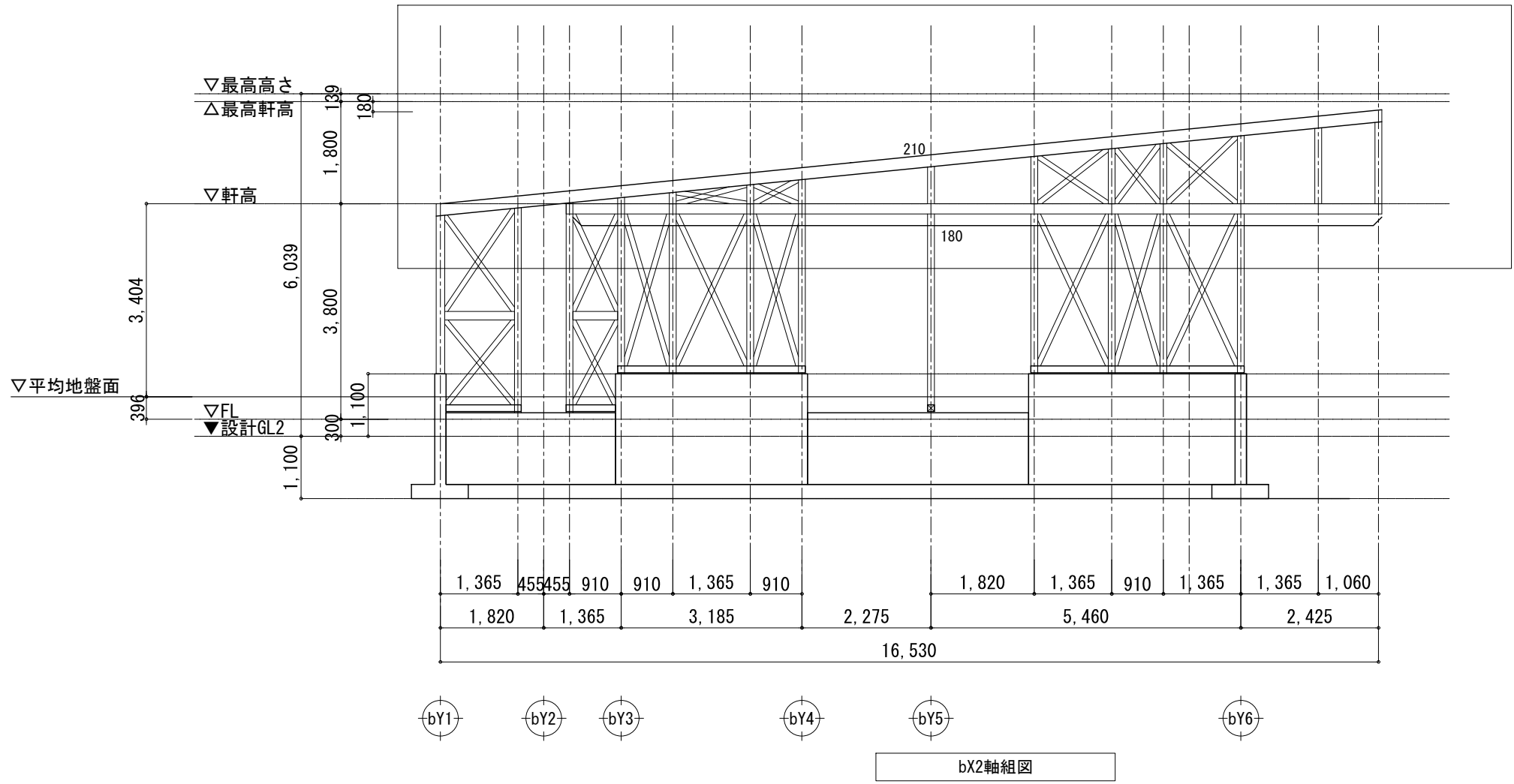
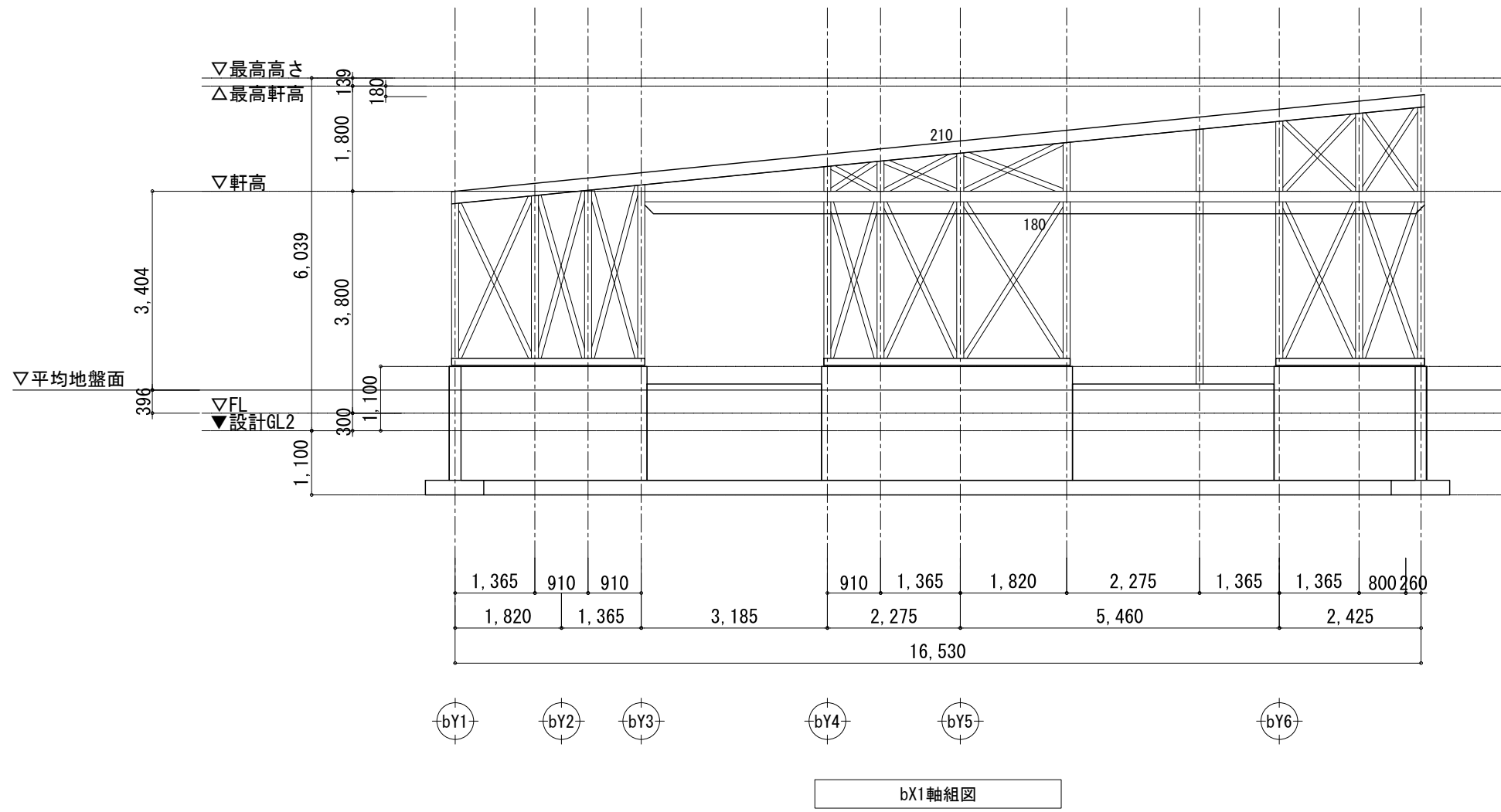
屋根一凡例

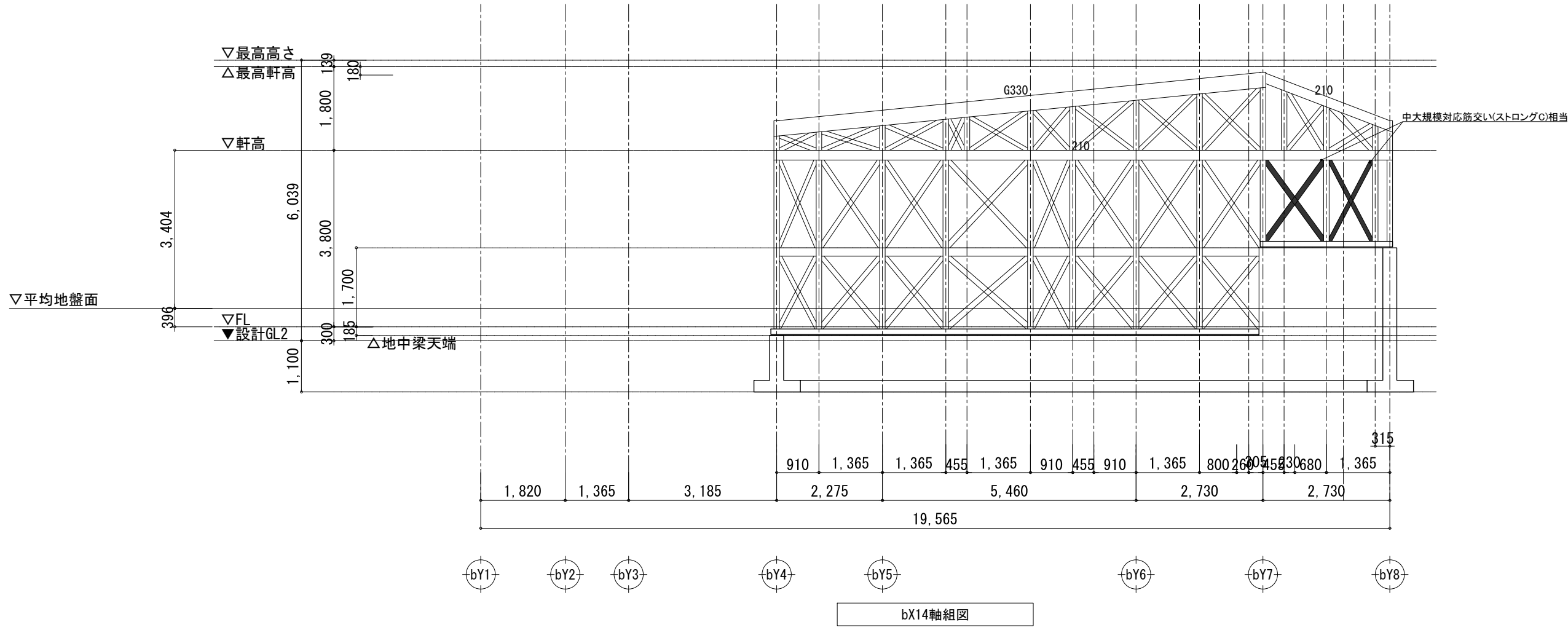
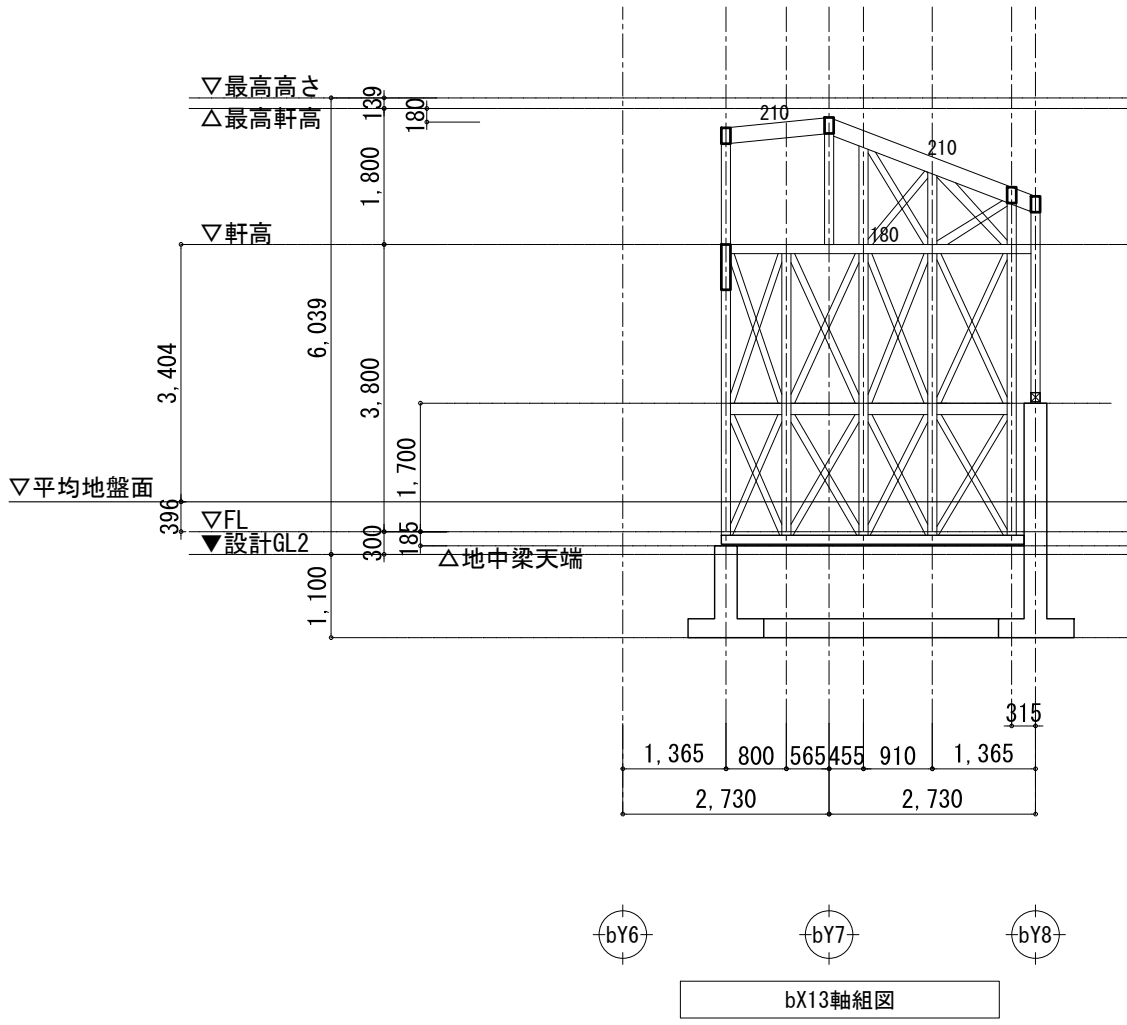
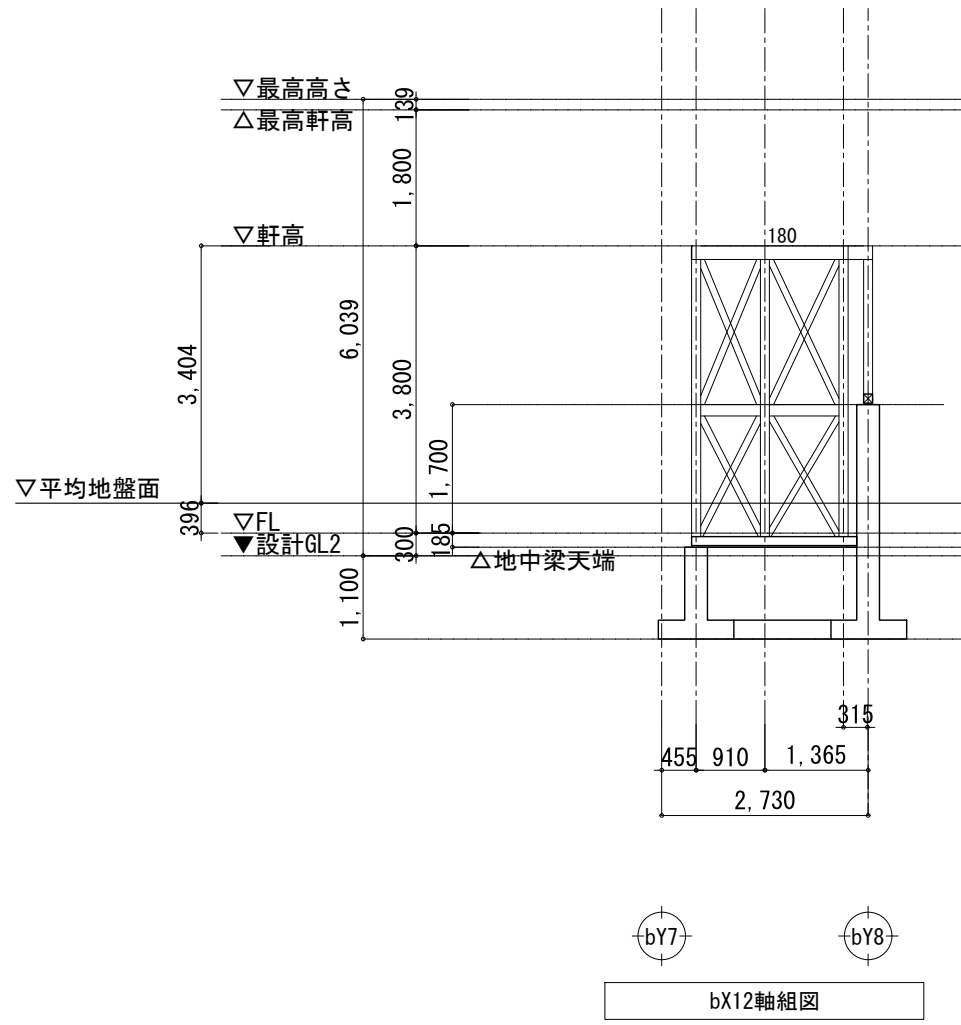
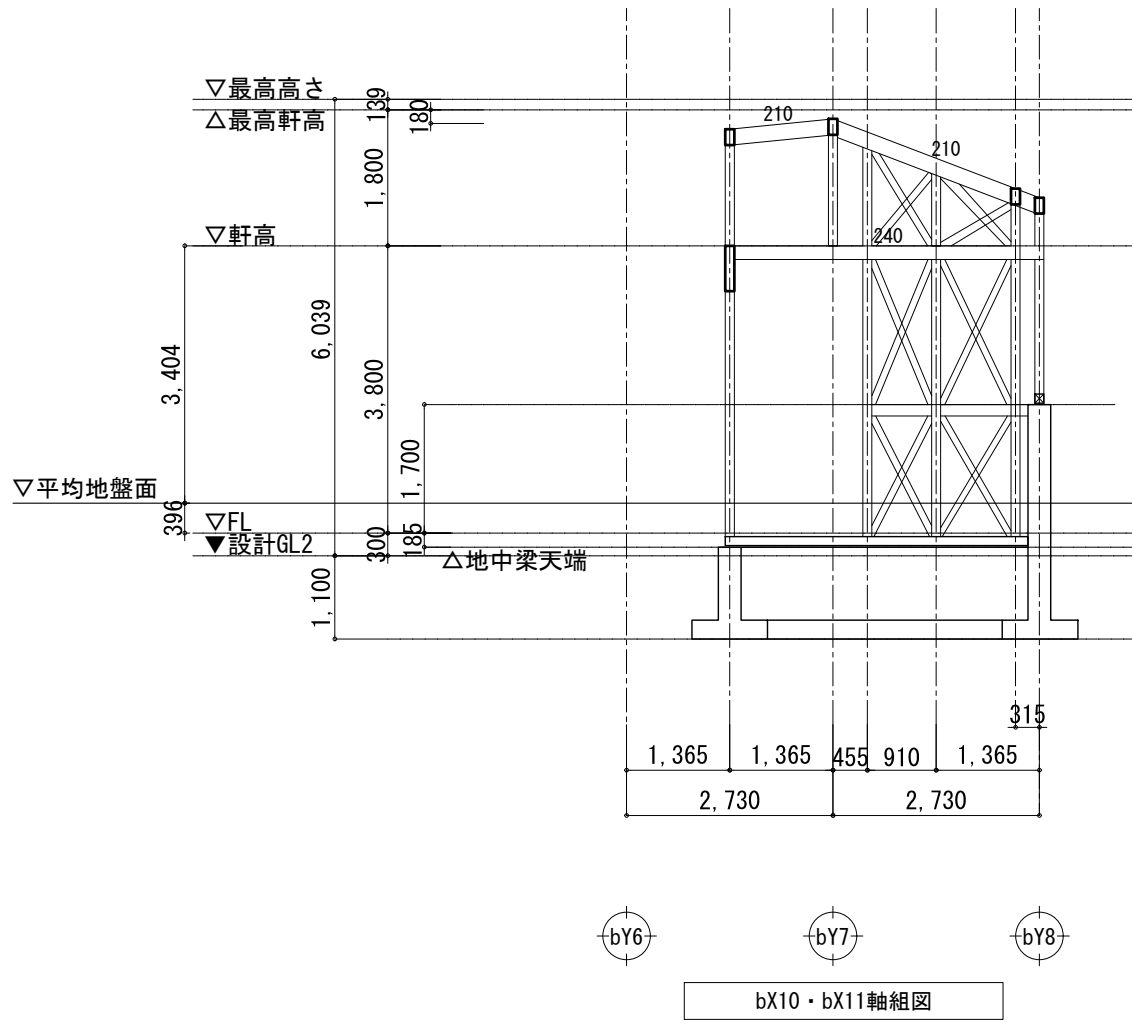
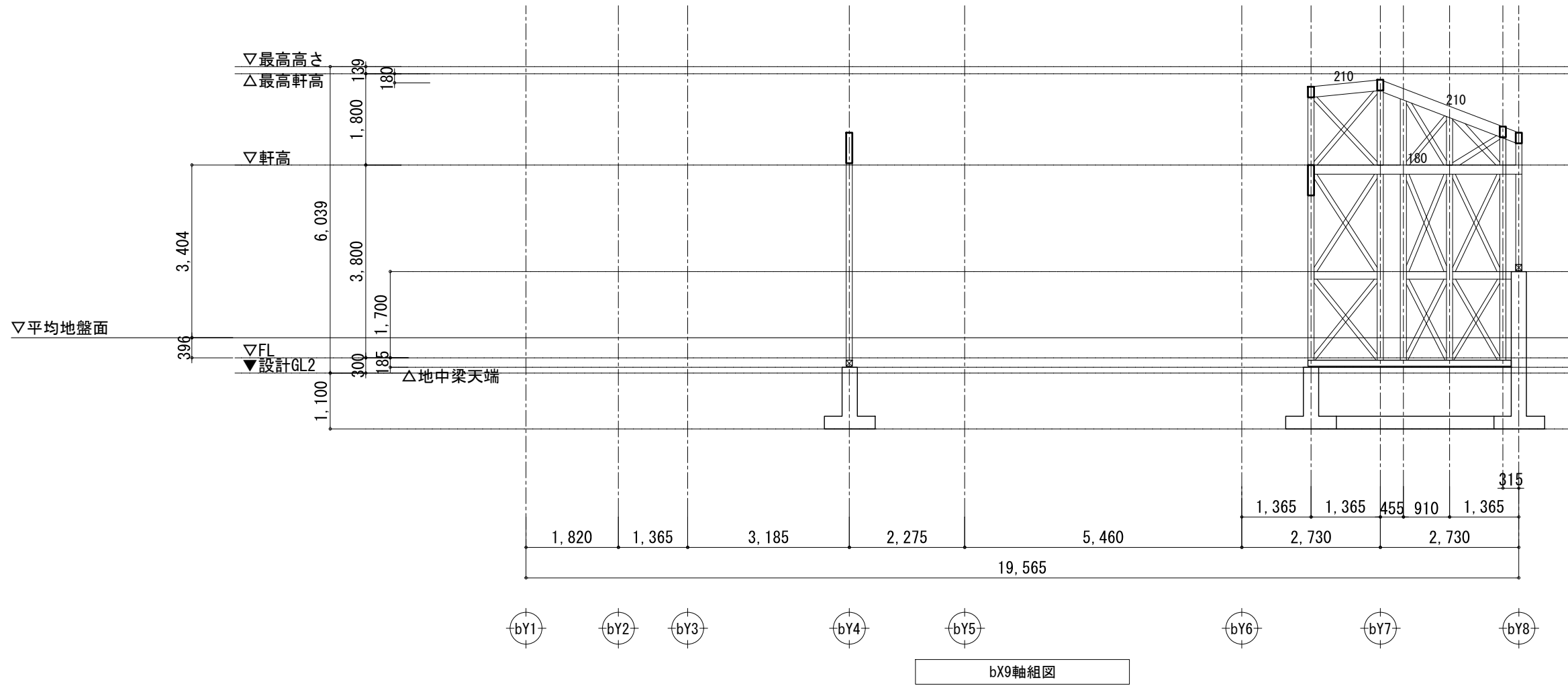
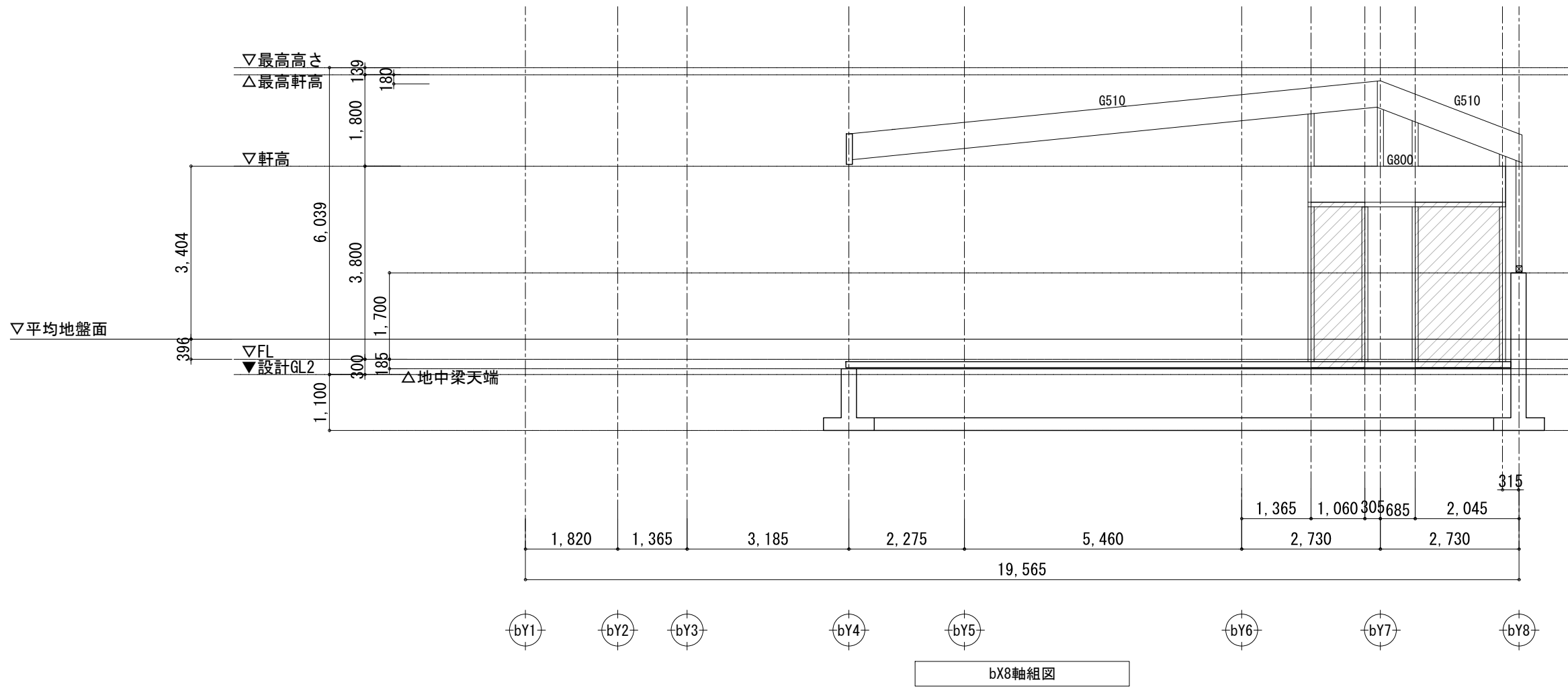
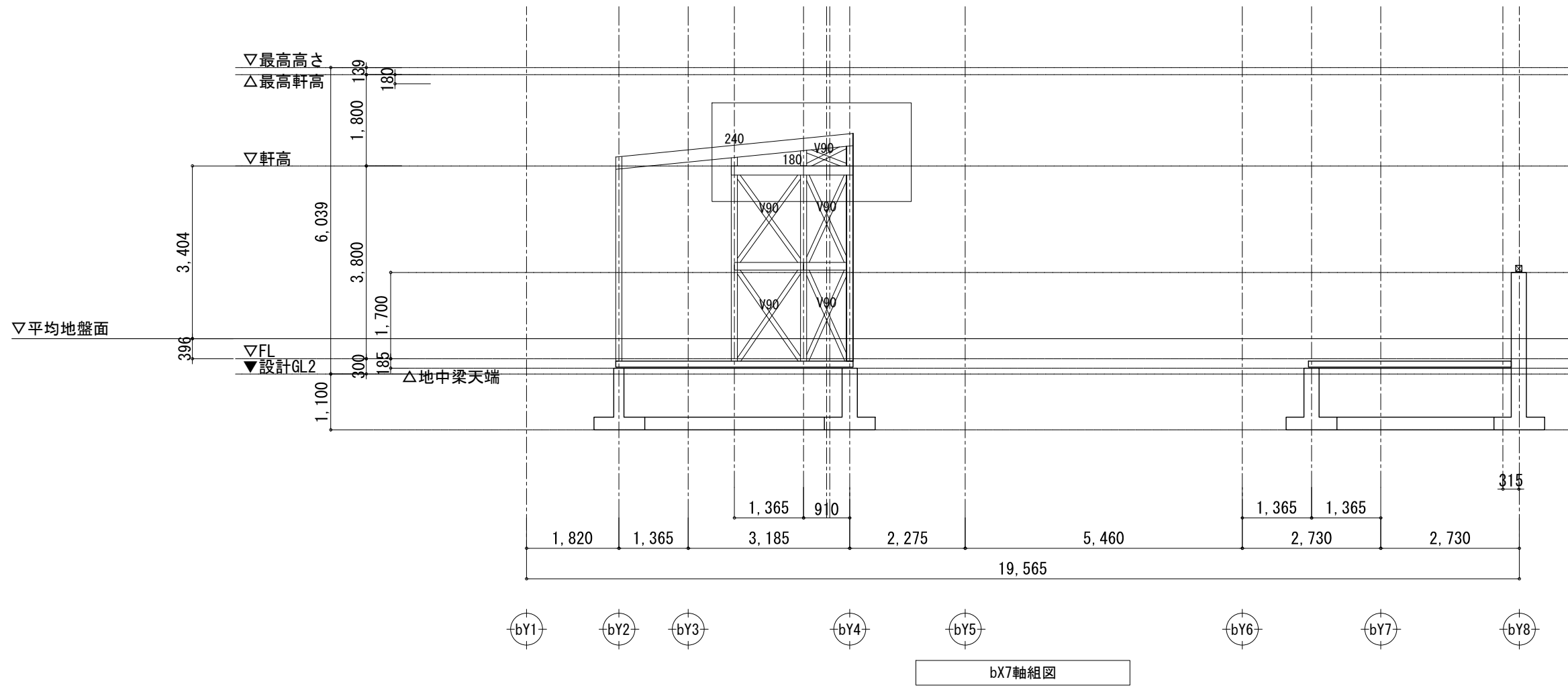
	野地板：構造用合板、特類1級以上、厚24mm（鉄丸釘 N75-@150:四周釘打ち）、F☆☆☆☆
	母屋：スギ（120 x 120）※部材長≒1820 @910
	垂木：スギ（60 x 210）@455
	垂木1（軒先部、合い欠き）：スギLVL（60 x 210）@455 構造用合板 12mm、N50-@150以下
	垂木2（軒先部、底部）：スギLVL（60 x 210）@455

※垂木と軒桁の接合には、ひねり金物（ST-15同等品）を使用のこと。垂木と母屋の接合には、ひねり金物（ST-12同等品）を使用のこと。
※母屋（桁梁）－小屋束接合部のカスガイ打ちは両面ウチ（2本打）とする。または、短期引抜耐力が2160N以上を有する仕様とすること。
※桁・梁の幅は120mmとする。水平構面の横架材間の継手は、羽子板ボルトまたは短冊金物と同等以上（7.5kN以上）の短期許容引張耐力を有する接合とすること。
※柱との仕口部は、梁受金物MH（タナカ）（同等品）を使用すること。

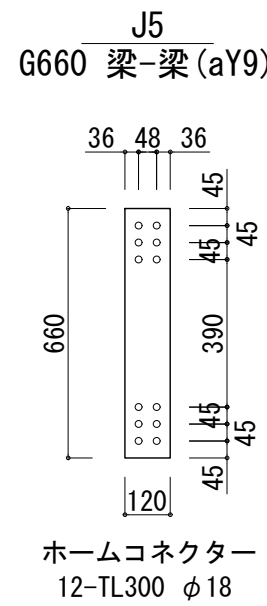
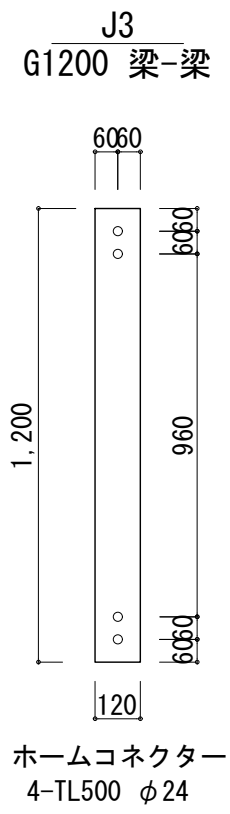
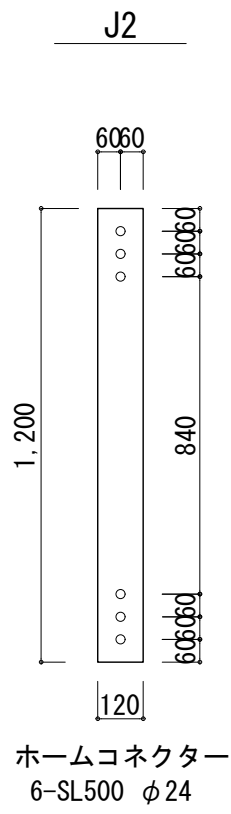
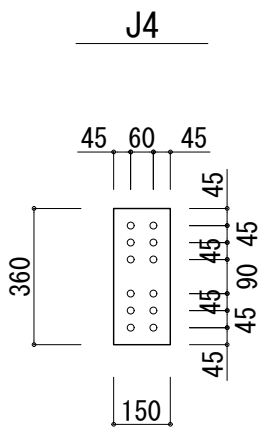
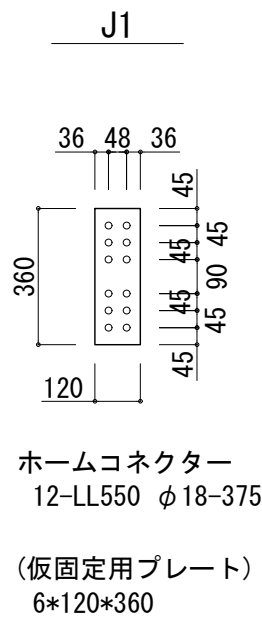
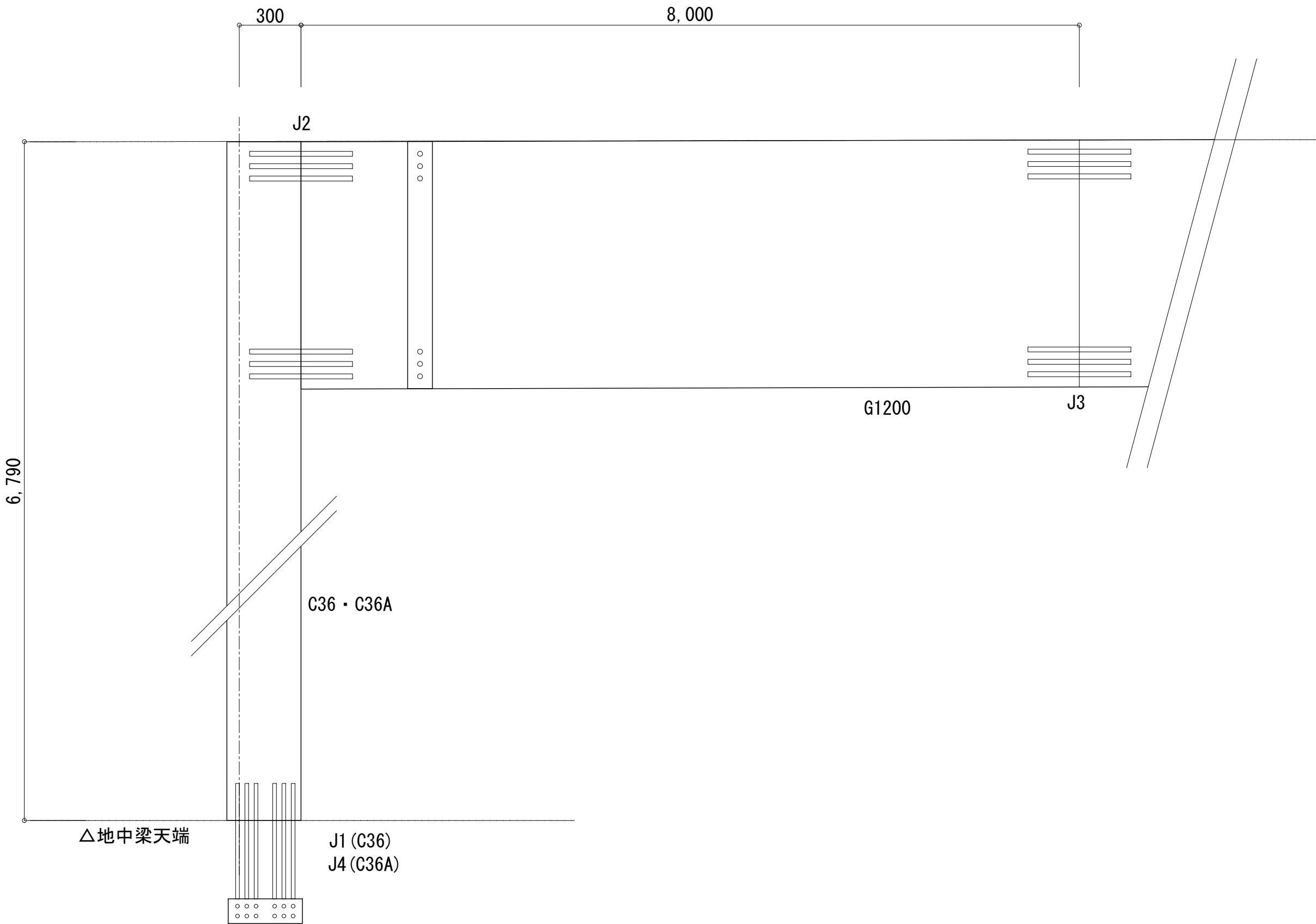




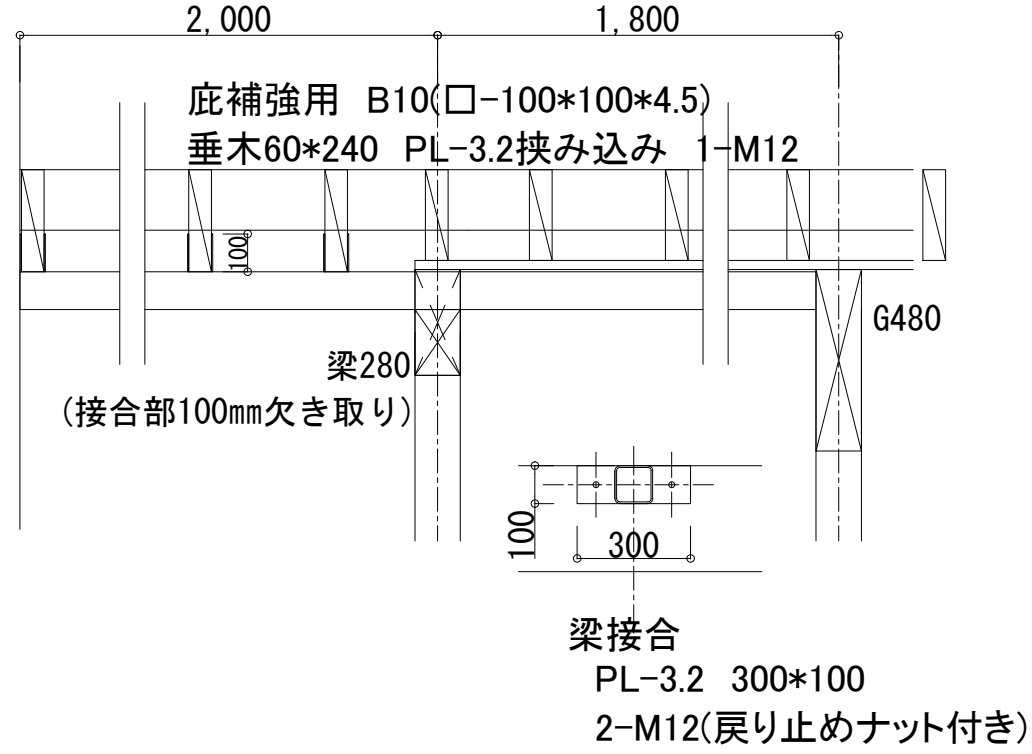




遊戯室ホームコネクター接合部要領図



B10接合部詳細図



開口補強接合部詳細図

